

リビング建材

建具・造作材・床・階段・その他

取扱い説明書



ご使用にあたって

この説明書では、お施主さまが商品を安全に正しくご使用いただくためのお願い事項、お手入れの方法などの重要な内容を記載しております。

ご留意いただくとともに、大切に保存してください。

目次

■重要なお知らせ	1
■警告用語の種類と意味	2
■特に注意していただきたいこと	2~13
■お手入れ方法	14~18
■調整方法について	19~55
■アフターメンテナンスについて	56
■商品保証について	57

重要なお知らせ

ご使用の前に

安全のため、必ずお守りください。「リビング建材商品」のご使用およびお手入れを行う場合は、必ずこの取扱い説明書に従ってください。

もしこの取扱い説明書に従わず、乱用又は誤用によるケガおよび損害が発生した場合は、当社およびその販売会社に責任はないものといたします。

- 1.この取扱い説明書の他にも、あらゆる危険が想定されます。
従って、「リビング建材商品」のご使用およびお手入れを行う際は、この取扱い説明書の記載事項に限らず、安全対策に関して十分な配慮が必要です。
- 2.この取扱い説明書は著作権を有し、その権利は留保されています。

お願い

- この「取扱い説明書」に掲載されていない調整については、無理に調整しようとする
と扉の落下・破損・ケガなどのおそれがありますので、お買い求めの販売店又は、当社お
客様相談センターまでご相談ください。

問合わせ内容	連絡先窓口	TEL
商品全般	お客さま相談センター	☎ 0120-126-001
修理のご依頼	LIXIL 修理受付センター	☎ 0120-413-433

警告用語の種類と意味

- この「取扱い説明書」では、危険度(又は事故の大きさ)によって、次の3段階に分類しています。以下の用語が持つ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

用語	意味
 警告	取扱いを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。
 注意	取扱いを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。
お願い	特に注意を促したり強調したい情報で、指示に従わないと機器の損傷・故障などにつながる場合があります。

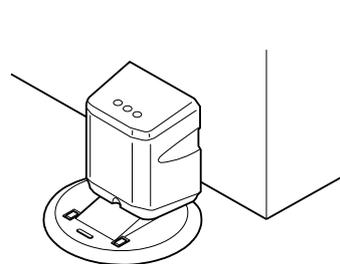
特に注意していただきたいこと

※安全のため、必ずお守りください。

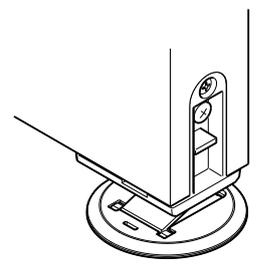
ドアストッパー(マグネットタイプ)/タスボックス プッシュオープン扉(マグネットラッチ)/可動間仕切り引戸

警告

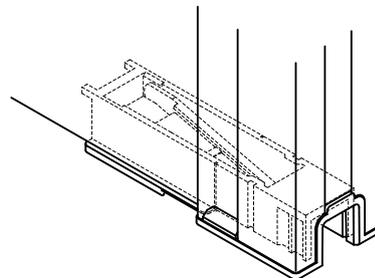
- ドアストッパーやマグネットラッチ、可動間仕切りの本体下部のコーナー部から30cm以上離れて操作および使用してください。
心臓ペースメーカーを装着されている方は、接近して操作されると誤作動をまねくおそれがあります。
その他医用電子機器類に関しても影響を与える場合があります。各機器メーカー又は販売者にご確認ください。



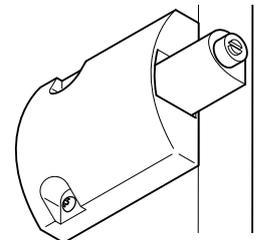
ドアストッパー



ドアストッパー



可動間仕切り本体下部



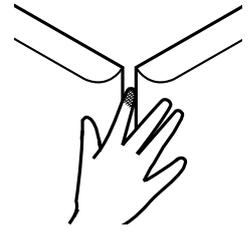
マグネットラッチ

特に注意していただきたいこと

中折れドア・クローゼット折れ戸

警告

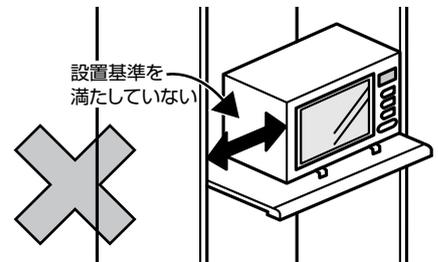
- 扉を折りたたむときに、扉と扉の間にすき間が生じ、このすき間に指を挟んだ状態で扉を閉めると大きなケガにつながるおそれがあります。乳幼児が開閉を行わないよう、又、乳幼児が近くにいる時の扉の開閉には十分ご注意ください。
- 又、温湿度環境によって扉にソリが生じ、すき間が大きくなる可能性もあります。ご注意ください。



タスボックス(家電専用キャビネット)

警告

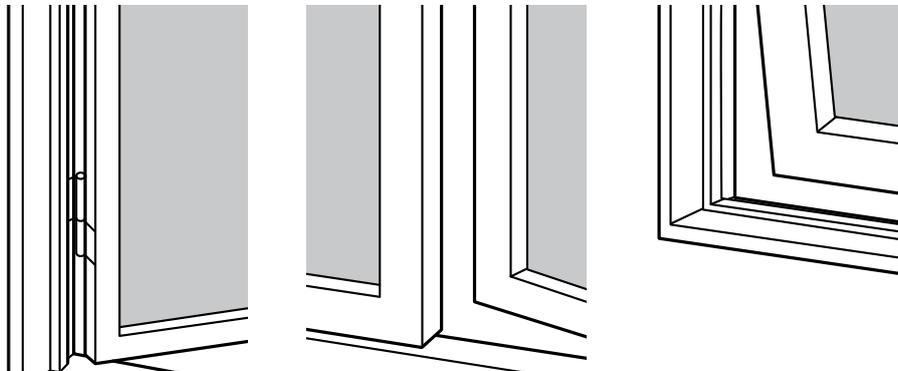
- 家電品を収納される際は、その製品の設置基準を満たしているか、ご確認の上で使用ください。火災の原因になるおそれがあります。
- 電源コンセントの表示容量（ワット）をこえる電気器具を使わないでください。たこ足配線などで表示容量をこえると、発熱により火災の原因になるおそれがあります。



室内窓

警告

- 窓本体の開閉操作時にすき間が発生します。このすき間に指を挟み本体を閉めると大きなケガに繋がるおそれがあります。乳幼児が開閉を行わないよう、また、乳幼児が近くにいる時の開閉には十分にご注意ください。

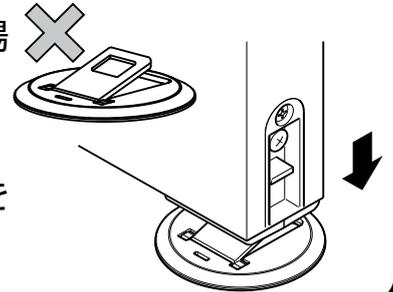


- 特に乳幼児のいるご家庭では窓の前にソファー、家具など、よじ登れる物を置かないようにしてください。転落事故に繋がるおそれがあります。

室内ドア(ドアストッパー(マグネットタイプ))

⚠ 注意

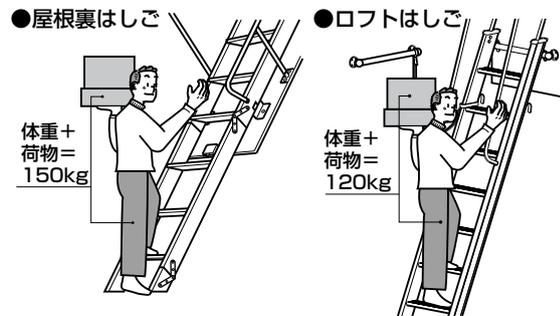
- 床付け部品のフラップが立ち上がったままになっている場合は、必ず手で倒してください。
思わぬケガをするおそれがあります。
- 扉を開放しておくときは、必ずロックレバーを下げて扉を固定してください。
扉が強風で強く閉まり思わぬケガをするおそれがあります。



屋根裏はしご・ロフトはしご

⚠ 注意

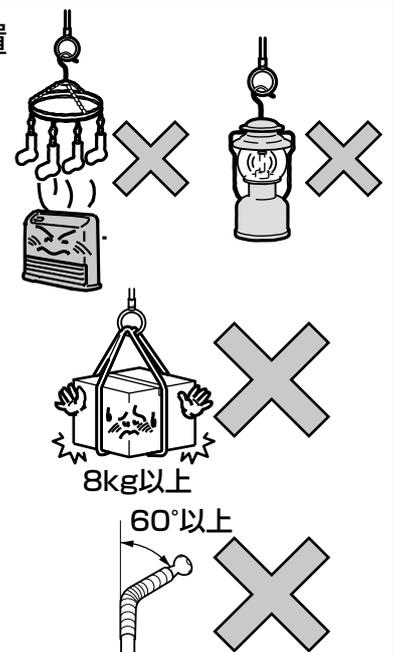
- 体重と荷物の合計が、はしごを安全に使用できる最大重量(右図の通り)をこえないようにしてください。
思わぬケガをする場合があります。



室内物干し 天井付けタイプ

⚠ 注意

- 室内物干しの下にストーブなどの火気のあるものを絶対に置かないでください。
火災のおそれがあります。
- 以下のものは絶対に掛けないでください。
 - ・ランタンなど、火気のあるもの
 - ・人が当たるとケガのおそれがあるもの
 - ・割れ物など、落下すると危険なもの火災やケガ、破損のおそれがあります。
- 1本当たり8kgを超える用途に使用しないでください。
製品の破損・外れにより思わぬケガをするおそれがあります。
- 人や物品、ペット類などの上で使用しないでください。
製品が落下してケガをするおそれがあります。
- ポール上部のバネは60°以上曲げないでください。
製品が破損してケガをするおそれがあります。
- ポールを着脱する際は、落下させないように注意してください。
製品が落下してケガをするおそれがあります。



特に注意していただきたいこと

可動間仕切り引戸

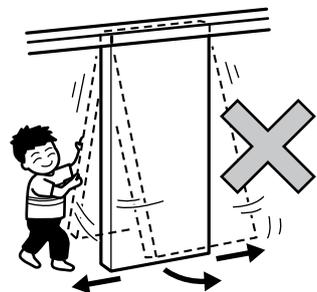
⚠ 注意

- 本体にぶら下がったり、もたれかからないでください。
本体が外れケガをするおそれがあります。

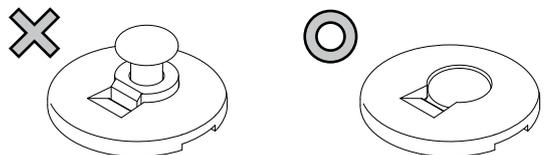


- 本体の開閉方向以外の力を加えないでください。
ガイドピンが本体からはずれるおそれがあります。
はずれた場合は、開閉方向に本体を静かに1往復させてください。

- ガイドピンが本体下部のレールから外れた状態で本体を開閉したり前後に動かさないでください。
部品が破損して落下するおそれがあります。
はずれた場合は、開閉方向に本体を静かに1往復させてください。



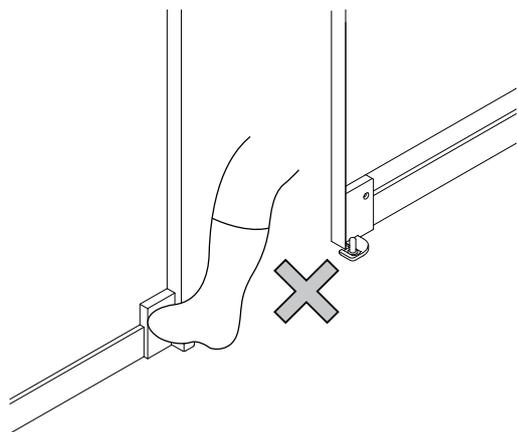
- ガイドピンがもどらない場合は必ず手で押し戻してください。
思わぬケガをするおそれがあります。



クローゼット引戸 アウトセット方式

⚠ 注意

- フレ止め・ガイドピンにはのらないでください。部品がはずれ、思わぬケガをするおそれがあります。



枕棚・中段セット

⚠ 注意

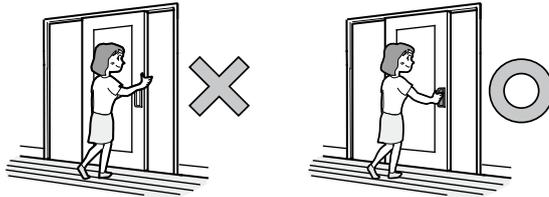
- 補強用の束に寄りかかったり、ぶつかったり、物をぶついたりしないでください。
製品の破損や収納物が落下し、思わぬケガをするおそれがあります。



室内建具

お願い

- ドアの調整で丁番固定ねじをゆるめた場合は調整後必ず締付け、ガタツキがないことを確認してください。
本体脱落の原因になるおそれがあります。
- 扉の開閉にあたっては、丁番側のすき間に手を置かないでください。
指を挟んでケガのおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。
- 扉の開閉にあたっては、必ず把手を持って操作してください。
把手から手を離したり、扉の先端に手を置くと、扉が急に閉まったとき、扉と枠の間で指を挟み、思わぬケガをするおそれがあります。特にお子さまにはご注意ください。
プッシュプルハンドルの場合は、把手から手を離して扉を開けると扉が勢いよく開き、ぶつかって思わぬケガをするおそれがあります。



- ガラスを使用している製品につきましては物が当たったり、人がぶつくと割れてケガをするおそれがあります。
特にお子さまにはご注意ください。

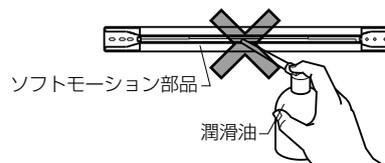


- 扉の下に物を挟まないようにしてください。
扉が持ち上がり、本体脱落の原因になるおそれがあります。

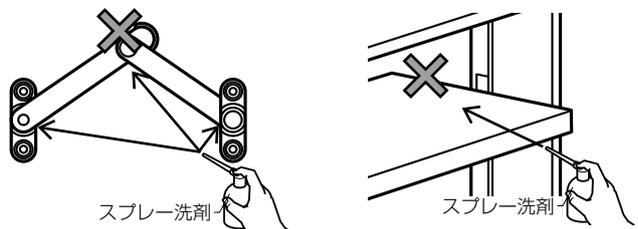
- 扉を開け放した状態にするときは、ドアストッパーなどをお使いください。
強い風などで、勢いよく閉まることもあり、ぶつかったり、ガラス割れなどで思わぬケガをするおそれがあります。

- グランドラインは隠し丁番を使用しているため、ドアクローザを取付けることはできません。

- 引戸のソフトモーション部品に潤滑油などを塗布しないでください。
作動不良の原因になります。



- 室内窓のフリクションステー、ランマ回転軸には、清掃用の洗剤散布もおさげください。



- 暖房器具などから発生する熱風・熱気が直接当たらないようにしてください。
扉のソリ・変色などの原因になります。



- 扉に粘着テープでポスターなどを張らないでください。
表面が傷むおそれがあります。

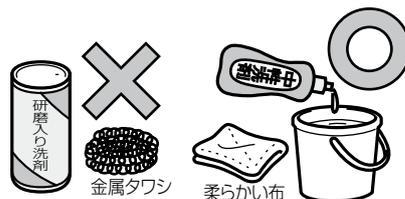


特に注意していただきたいこと

ガラスを使用している製品(室内建具・収納)

お願い

- ガラスはキズつけないように取扱ってください。
- 金属タワシ・研磨剤入り洗剤などはガラスをキズつける原因になります。ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、薄めた中性洗剤に浸した柔らかい布をかたく絞ってふき取ってください。又、乾いた柔らかい布でからぶきをしてください。



アクリル系パネル・ポリカーボネートを使用している製品 (室内建具)

お願い

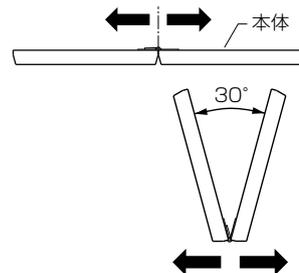
- お手入れは以下の要領にて行ってください。表面キズの原因となります。
- 土埃など硬いゴミが付着している場合は、水を十分に含んだ柔らかい布で表面を濡らしながら軽くゴミを流し落としてください。
 - 柔らかい布、又は柔らかいスポンジを用いて、ぬるま湯で薄めた中性洗剤で洗浄してください。
 - 中性洗剤が付着した表面を水を十分に含んだ柔らかい布で軽く、拭き取ってください。
 - 最後に柔らかい布で完全に水を拭き取ってください。

クローゼット折れ戸

お願い

本体を開閉する際は、下記いずれかの方法で操作してください。

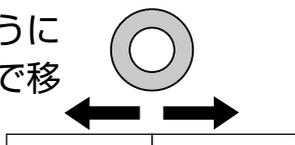
- 本体をフラットのまま移動させてください。
- 本体が折れた状態で移動させる場合は、30°の角度で本体が一時固定するようになっていますので、この状態で移動させてください。
※角度が30°未満の状態では移動させないでください。この場合、動きがギクシャクしたり下部のローラーがレールから外れたりする場合があります。



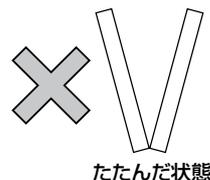
可動間仕切り折れ戸

お願い

- 本体の開閉は右図のように本体をフラットな状態で移動させてください。



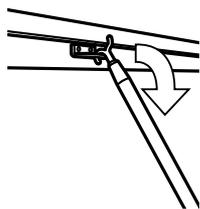
※扉をたたんだ状態では、移動させないでください。動きがギクシャクしたり、ガイドピボットの走行に支障がでたりする場合があります。



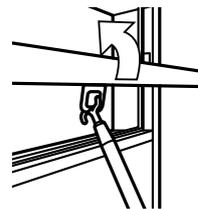
ランマ付ドア、ランマ

お願い

- 本体を開閉する際は下図の方法で開閉してください。



開：金具孔にフック棒を引っ掛けて手前に引き、ランマを回転させます。



閉：金具のくぼみにフック棒をあて押し上げるようにしてランマを回転させます。

※上記以外の個所にフック棒を当てると本体を傷つける原因になります。

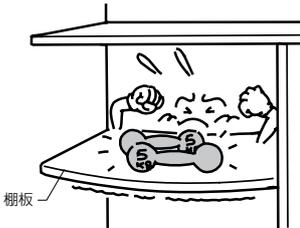
玄関収納・各種収納

お願い

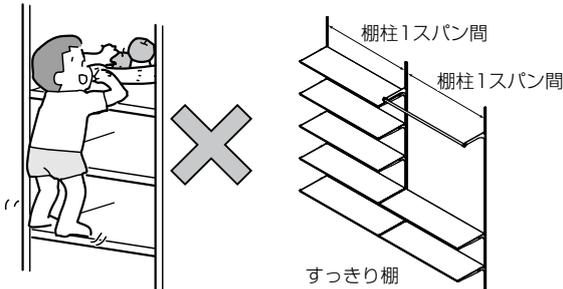
- 玄関収納カウンターの耐荷重は10kgです。この重量をこえる物はのせないでください。製品のゆがみ、破損事故の原因になります。



- 丁番などの可動部には手を入れないでください。挟まれて、ケガをするおそれがあります。
- 各製品の耐荷重をこえる収納物をのせないでください。耐荷重は均等荷重です。製品が破損・脱落し、ケガをするおそれがあります。



- 棚板に足を掛けたり、ハンガーパイプやスライドランドリーバー、ハンガーバーにぶらさがったり、よじのぼったりしないでください。製品が破損・脱落し、ケガをするおそれがあります。



■タスボックス（木製）棚板取付け可能段数

製品高さ	棚板取付け段数
868mm 以下	2 段まで
1604mm 以下	5 段まで
2372mm 以下	8 段まで

■玄関収納耐荷重

棚板(W呼称)	収納の参考量	耐荷重
200	靴1足	2.0kg
400	靴2足	4.0kg
600	靴2~3足	5.5kg
740	靴3~4足	7.0kg
800	靴4足	8.5kg

■玄関収納別売品耐荷重

別売品名	耐荷重
スライドコートハンガー	5kg

■システム収納・タスボックス耐荷重

部材	耐荷重	
	システム収納	タスボックス
固定棚板・地板	20kg	
可動/配線棚板	10kg	
天板	20kg	50kg
レンジ用棚板	—	30kg
樹脂棚板	—	8.5kg
デスク棚板	—	30kg
スライド棚	—	15kg
(W045用)スライドランドリーバー	—	10kg※1
(W09用)スライドランドリーバー	—	20kg※1
引出し	7kg	13kg
引出し(ランドリー用)	—	13kg
TV台キャビネット	100kg	—
カウンター	40kg(各キャビネットごと)	
寝具棚板	30kg	—
ハンガーパイプ(ボックス/フレームタイプ)	40kg	—
ハンガーパイプL450(パネルタイプ)	17kg	—
ハンガーパイプL900(パネルタイプ)	35kg	—
ハンガーパイプL1800(パネルタイプ)	50kg	—
ハンガーバー	—	10kg

※1. ハンガーバー1本につき10kgまで。

■システム収納 フレームタイプ耐荷重

部材	耐荷重
フレーム	180kg/本
ハンガーパイプセット	40kg/個
スライドパイプセット	6kg/個
小物掛けパイプセット	5kg/個
棚板セット	20kg/枚
引出し	10kg/段
スライド棚	2kg/段
バスケット棚	5kg/段
カウンター・台輪	30kg/段
寝具ラック	20kg/個

■収納部材 枕棚・中段耐荷重

部材	耐荷重
中段	200kg
枕棚単体	70kg
ハンガーパイプ	30kg
ハンガーパイプ設置の枕棚	40kg
枕棚L型納まりの場合	枕棚合計 70kg

■デコカウンター耐荷重

部材	耐荷重
デコカウンター	幅 450mm 間隔内で 15kg

■床下収納耐荷重

収納本体(呼称)	耐荷重	
	0606	0609
深型	110kg	165kg
浅型	70kg	70kg

※耐荷重(kg)は、収納本体に張付の注意ラベルにも記載してあります。
※フタの耐荷重の目安は70kgです。

■すっきり棚 棚板・パイプ耐荷重

部材	耐荷重
樹脂棚板	8.5kg/枚
木製棚板	10kg/枚
パイプ	17kg/本

■すっきり棚 棚柱1スパン間耐荷重

棚柱寸法	耐荷重
L1820	85kg
L900	47kg

※例) L1820に樹脂棚板+パイプを設置する場合は、樹脂棚板8枚とパイプ1本になります。
※例) L900に木製棚板+パイプを設置する場合は、木製棚板3枚とパイプ1本になります。

特に注意していただきたいこと

玄関収納・各種収納

お願い

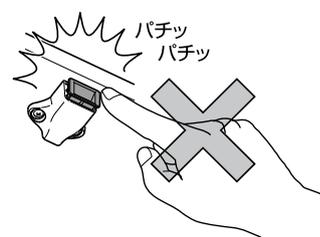
- 暖房器具などから発生する熱風・熱気が直接当たらないようにしてください。
ソリや変色などの原因になります。
- 製品に水・油・殺虫剤・除光液・化粧品・整髪料・毛染め剤・脱色剤・うがい薬・漂白剤・除菌クリーナー・紅茶、その他の酸性 / アルカリ性の液体などがかった場合は、すぐにふき取ってください。
放置すると、表面がふくれたり、シミ・変色が発生したり臭いが残ったりするおそれがあります。
- 水にぬれた場合は、速やかにふき取るようにしてください。
長時間ぬれたまま放置すると、ひび割れ・ソリ・変色などの原因になります。
- 刃物など先のとがったものや硬いものでひっかかないでください。
キズが付きます。
- 木製部分に電化製品(電子レンジ・炊飯器など)の熱や水蒸気があたらないようにしてください。
電化製品を収納内部にいったまま使用しないでください。ソリや変色の原因になります。
(タスボックスは家電専用キャビネットにスライド棚板を使用時のみ、棚板を引き出すことで電化製品をご使用いただけます)
- 家電製品をのせる場合は、必要設置寸法(家電に付属の取扱い説明書などに記載)を必ずご確認ください。



玄関収納 / システム収納 把手無扉(プッシュオープン扉) / タスボックス(プッシュオープン扉)

お願い

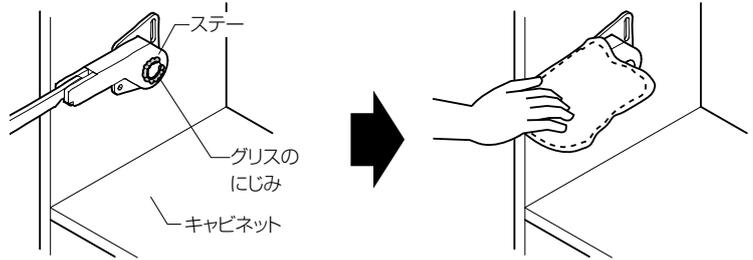
- プッシュオープン扉を無理やりこじあけたりしないでください。
部品が破損する原因になります。
- 開き扉用プッシュオープン部品を指ではじいて遊ばないでください。
部品が破損する原因になります。



システム収納のステー(扉を支えるアーム部品)

お願い

- 長時間使用していると、ステーの可動部よりグリスがにじんでくる場合があります。
機能上支障はありませんので、ふき取ってください。



カーテンボックス

お願い

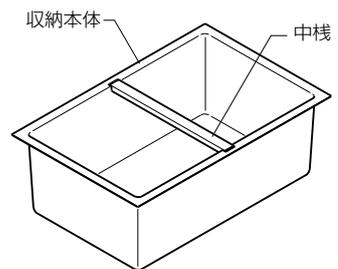
- カーテンボックスにカーテン以外の物をぶら下げたり、カーテンにぶら下がったりしないでください。
外れ・落下のおそれがあります。



床下収納

お願い

- 中棧を外した場合は、必ず元に戻してください。
フタの破損・外れにより、ケガをするおそれがあります。
- 収納部への転落に気をつけてください。
特にお子様にはご注意ください。
- 外して横に置いたフタの上にのらないでください。
- 自分で分解・修理・改造などは絶対にしないでください。
- スライドタイプのガイドレールと本体の間に、指や手を入れないでください。
指や手をはさんでケガをするおそれがあります。



特に注意していただきたいこと

床

お願い

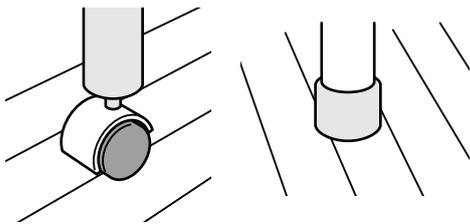
- キャスター付きのいすなどを繰り返してご使用になりますと、床表面をキズつけたり、破損するおそれがあります。ご使用を避けるか、厚手のカーペットなどを敷いて保護してください。

耐キャスター性を高めた床材もございますが、キズやへこみがつかないわけではありませんので、過度の荷重にはご注意ください。

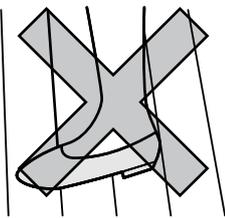
※金属製や球形状のキャスターはご使用をお避けください。傷やへこみが発生しやすくなります。

- テーブルやいすをひきずりますと、床材表面をキズつけるおそれがあります。

いすの脚にゴムキャップやフェルトなどをつけると床表面のキズつきを防げます。



- 上履用ですので土足でのご使用はお避けください。



- 水やしょう油、洗剤などをこぼした場合は、すみやかにふき取ってください。

耐水性を高めた床材もありますが、放置すると表面のシミ・くされなどの原因になります。

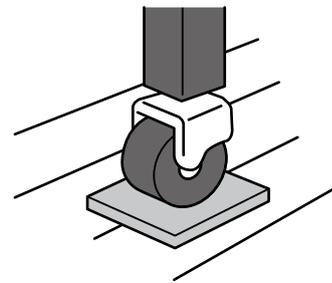


- ピアノなどの重量物を置く場合は、下地の強度など構造上の問題がありますので、あらかじめ施工業者さまへご確認ください。

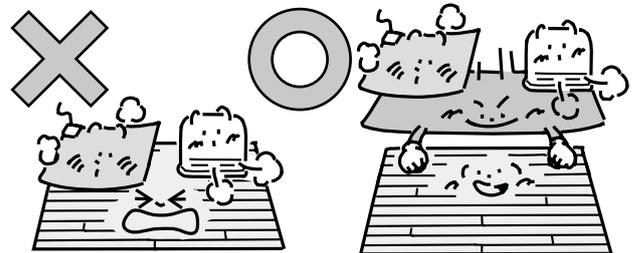
強度不足の場合、床が抜けるおそれがあります。

- ピアノなどの重量物を置く場合は根太や下地の補強をした上で、脚部にインシュレーターや小さな板などを敷き、重量を分散させてください。

また、移動させる時は引きずらないでください。



- ホットカーペットや温風ヒーターなどをご使用の際は、目スキ、表面ひび割れ、変色、フクレなどの原因になりますので、カーペットなどの下敷きをするなど、床表面に熱が伝わらないようにご使用ください。

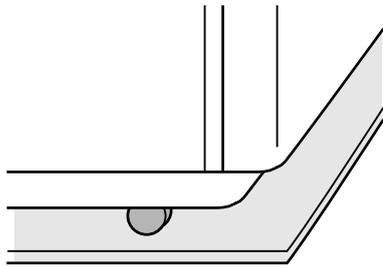


床

お願い

- 床材は、大型冷蔵庫や温風ヒーターの吹出し周辺で、熱がかかると継ぎ目にすき間や表面にひび割れ、変色、フクレを生じます。大型冷蔵庫や温風ヒーターの熱風が直接床材の表面に当たらないように保護してください。

なお、耐熱性にすぐれた商品もありますので、施工された床材がそれに該当するかどうかを施工業者さまにご確認ください。



- 玄関マットやカーペットを固定するために、粘着テープは使用しないでください。

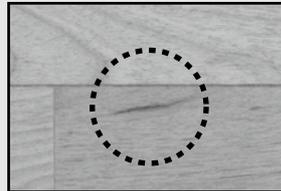
床材表面を傷めるおそれがあります。

豆知識

天然木は1枚1枚色柄に特有の変化があります。製造工場で極力色合わせするなど工夫しておりますが、まったく同じ木目・色調になることはありません。天然木ならではの特性としてご理解ください。小さな節や入り皮、てりなどは木材の成長過程で発生する天然木ならではの特徴です。個性あふれる自然の表情としてご理解ください。

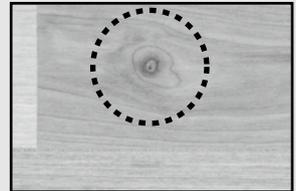
●入り皮

成長過程で幹に巻込まれた樹皮や変色部分



●節

枝が成長した幹に巻込まれた部分



●てり

木材を形成する細胞の方向性の違いから生じるツヤの違い

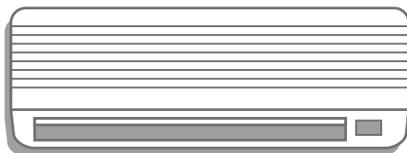


床・階段・手すり・屋根裏はしご・GL(木製品)

お願い

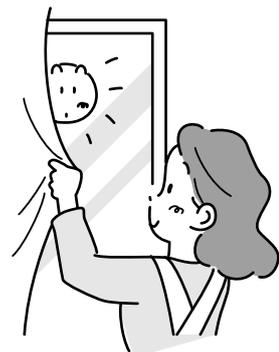
- エアコンや強制排気型の暖房装置を連続使用する場合には、室内が過乾燥となり、床材などの木製品の継ぎ目にすき間や表面にひび割れを生じるおそれがありますので、加湿器の併用をおすすめします。

望ましい湿度は45～70%です。



- サッシ周りなど直射日光に長く当たりますと、熱や紫外線によって変色したり、表面にひび割れが発生するおそれがあります。

日光、紫外線などによる変色、退色は天然木に特有の性質です。カーテン・ブラインドなどでさえぎるよう to してください。

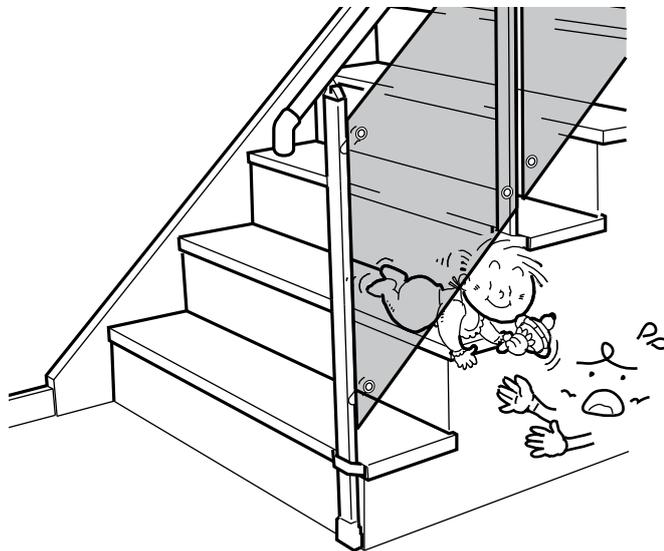


特に注意していただきたいこと

オープン用金属手すり／アルミ室内手すり

お願い

- パネルと階段の間から、頭や体を出さないようにしてください。
落下のおそれがあります。



モイスNT 内装材

お願い

- 表面に付着した汚れをそのままにしておくと、内部に染み込み乾燥して落ちにくくなるため、日常のお手入れを定期的に行ってください。
- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布、又は化学ぞうきんでからぶきしてください。
- ホコリやゴミは、乾いたきれいな布で払い落としてください。
- ひどい汚れ、又は落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんでふき取ってください。汚れがひどい場合でも、酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー、ベンジン)などは絶対に使用しないでください。
- モイスは多孔質セラミックス素材でできており、水をよく吸収する性質を持っていますので、水洗いはしないでください。



お手入れ方法

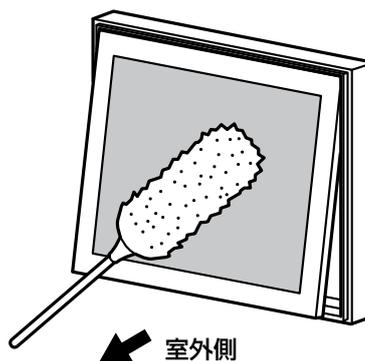
建具・収納や階段手すりの表面など(木目・ガラス・アクリル系パネル・樹脂部品など)

- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布又は化学ぞうきんでからぶきしてください。
- ※溝加工デザインの溝部は、表面を損傷させたりするおそれがありますので、水ぶきはしないでください。
- ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんでふき取ってください。汚れがひどい場合でも、酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー・ベンジン)などは絶対に使用しないでください。
- ゴミがたまらないよう、レールの溝はこまめにお掃除をしてください。扉レールの溝にゴミがたまりますと、扉の滑らかな走行のさまたげとなり、故障の原因となります。掃除機などでこまめに掃除してください。

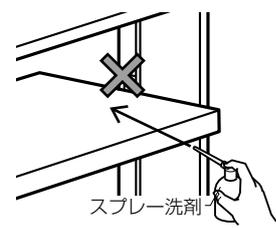
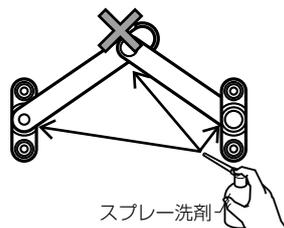


突出し窓

- 突出し窓、室外側の清掃は柄付のモップなどで、室外側から長い柄付きのモップなどで、行ってください。



- ※室内窓のフリクションステー、ランマ回転軸には、清掃用の洗剤散布もおさげください。



把手・引手・ツマミ・室内物干しなど

- 日常のお手入れは、乾いた柔らかい布又は化学ぞうきんでからぶきしてください。
 - ひどい汚れ又は落ちにくい汚れは、中性洗剤を薄めてかたく絞ったぞうきんでふき取ってください。汚れがひどい場合でも、酸性・アルカリ性の洗剤、溶剤(シンナー・ベンジン)などは絶対使用しないでください。表面の塗料が落ちるおそれがあります。
 - シリンダー錠、デッドロック錠のキーの抜き差しや回転操作が悪くなった場合は、鉛筆(柔らかい芯)の粉や黒鉛粉またはシリンダー錠専用潤滑剤を使用してください。鉛筆を使用する場合は、キーの切込み面を鉛筆でなぞったあと、キーで抜き差しを数回行ってください。
- ※鍵穴には絶対に油を注さないでください。注入直後は動きが良くても、ホコリを吸着し、かえって動きを悪くします。



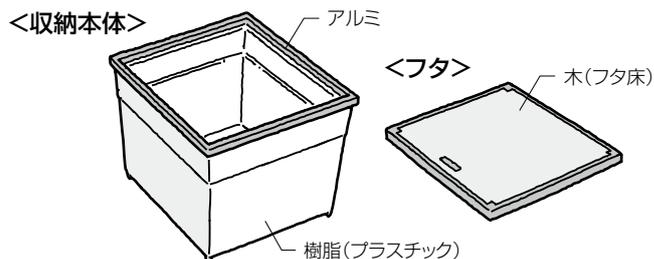
お手入れ方法

床下収納

商品の点検

- 定期的(年1回程度)に、ねじ・ボルト類のゆるみを点検し締直してください。締直してもガタつく場合は腐食のおそれがありますので、お買い求めの工務店・販売店又は LIXIL 修理受付センターにお問い合わせください。

商品のお手入れ



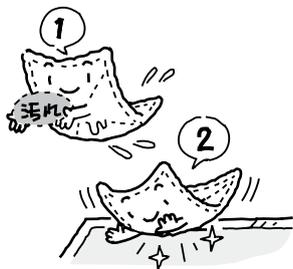
1 アルミ

※お掃除はなるべくマメに

- アルミは比較的腐食しにくい材質ですが、砂・ホコリ・塩分などが付いたまま長いあいだ放置しておくと、空気中の湿気や雨水の影響を受け、腐食の原因になります。

■汚れが軽い場合

- 水でぬらしたぞうきんで汚れをふきとり、からぶきします。



■汚れがひどい場合

- ①水でぬらしたぞうきんで全体に付いたホコリ・砂などをふき取ります。
- ②うすめた中性洗剤でひどい汚れを落とし、洗剤が残らないようによくふき取ります。
- ③全体をからぶきします。

※金属タワシは使用しないでください。アルミはキズ付きやすいため、お掃除の際には柔らかいスポンジ・布などを使い、金属タワシ・金ペラはさけてください。又洗剤は、必ず中性洗剤をご使用ください。中性洗剤では取れない場合は、アルコール・ベンジンを布にしみこませてふいてください。



[万一、サビがでたときは]

- ①中性洗剤を付けたナイロンタワシ又は目の細かい紙ヤスリで軽くこすり、サビや汚れを取除きます。
- ②水ぶきし、塗料のはげた部分にスプレー塗料を吹付けします。



2 樹脂(プラスチック)

※お手入れはなるべくこまめに

- 樹脂は、アルミなど他の材質と比べると、キズ付きやすい性質があります。付着した砂やゴミをそのままにして使用を続けると、キズの原因となります。

※お手入れは布・スポンジで

- キズをさけるため、布・スポンジのような柔らかいものを使い、金属ブラシ・金ペラは使用しないでください。

※ベンジンやシンナーはさけてください

- 樹脂は酸・アルカリに強い特性をもっていますが、ベンジン・ガソリン・エーテル・アセトン・シンナーなどの有機溶剤は使用しないでください。

■清掃のしかた

- ①水でぬらしたぞうきんで全体に付いたホコリ・砂などをふき取ります。

※隅の清掃には歯ブラシをお使いください。

- ②特に汚れがひどい場合は、うすめた中性洗剤・アルカリ性洗剤で汚れを落とし、水洗いします。

- ③かたく絞ったぞうきんで全体をふきます。



3 木(フタ床)

※落ちにくい汚れは中性洗剤で

- 木のお手入れには、シンナー・ベンジンなどの使用はさけてください。落ちにくい汚れには中性洗剤を用い、よく水ぶきをしたあと、からぶきします。

※詳しくは床材の取扱い説明書をご確認ください。



床(木製品)

- 日常のお手入れは乾いた布でか
らぶきしてください。
 - 汚れがひどいときは、かたく絞っ
たぬれぞうきんでふき取ってくだ
さい。その後、乾いた布でふき取
ってください。
- ※上記の方法以外でのお手入れは
しないでください。



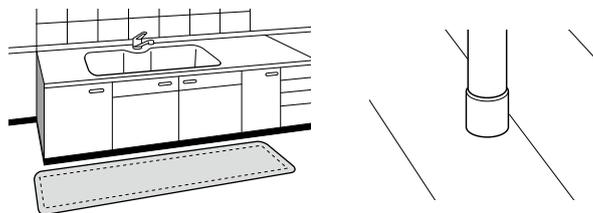
- 床材表面にしょう油・コーヒー・洗剤・カビ取り剤をこぼした場合は、放
置しておきますと変色のおそれがあります。木目や目地に染み込む
前にただちにかたく絞ったぬれぞうきんでふき取ってください。
 - ペットの排泄物をそのまま放置しますと、水をこぼした場合以上に
変色などで床材の美観をそこなおそれがあります。ただちにかたく
絞ったぞうきんできれいにふき取ってください。又、ペットのツメ
でフローリングの表面をキズつける場合もありますので、ご注意く
ださい。
 - 床材は水気・湿気を嫌います。水にぬれた場合すみやかに乾いたぞ
うきんでふき取ってください。放置しておくとしみ・変色が生じたり
、表面のひび割れが生じたりすることがあります。次の点にご留意
ください。
- ①水の飛び散るおそれのある流し台、洗面台の周辺には、マットを敷
いて保護してください。
 - ②観葉植物などの鉢には、必ず水受け用の皿などを敷いてください。
 - ③雨が吹き込むおそれがある場合、サッシを閉めてください。
- ※木質床材は本質的に水気を嫌います。スチームを使ったお手入れ
や水濡れ、ワックスの塗布量が多いと、フクレやハガレ、変色など
の原因になります。

- マットなどゴム製の敷物の裏面、イスや家具などのプラスチック製
の脚および脚につける緩衝材などは、材質によっては長期間床面と
接触していると、含有成分が浸透して色移りすることがあります。
浸透して色移りすると除去できませんので、ご注意ください。

- クレヨン・マジックなどが床材表面に付着した場合は、
アルコール又はシミ抜き用ベンジンを含ませた布です
みやかにふき取ってください。



- 化学ぞうきんを床の同じ所に長い間放置したり、ぬれ
た所を化学ぞうきんでふいたりしないでください。化
学反応により、変色・汚れの原因になります。



床(木製品)

- ワックスがけをしなくても耐久性はありますが、ワックスがけをする場合は、木床用の樹脂系ワックス(リンレイ:ハイテクフローリングコート)をご使用ください。ワックスがけは半年に一度が目安です。
- ご使用の際は直接床にまかず、布などにしみ込ませて薄くムラなく塗布してください。床に直接多量にまきますと表面のふくれなどの原因となります。
- 室温が低いとき(5℃以下)や雨天で湿度が高いときにワックスを塗布したり、ワックスの塗布面にお湯などをこぼすと、ワックスが白化する場合があります。白化した場合はワックスを除去してください。
- ワックス塗布後は、換気を行い乾燥させてください。乾く前に塗布面を歩いたりしますと塗りムラなどの原因となります。
- ワックスがけ前後に化学ぞうきんを使用しないでください。床材表面のワックスが白くなるおそれがあります。
- ワックスはくり剤は使用しないでください。表面を傷める原因となります。
- ワックスの使用方法を誤ると床材表面に異常を起こす場合がありますので、その他の使用方法については、容器記載の使用方法をよくお読みください。



- 床材に小さな穴があき、木の粉のようなものが出てきた場合、虫害のおそれがあるので専用薬剤を散布・注入するなど、早期対応が必要です。専用薬剤は、ホームセンターなどでお求めいただけますが、処理専門業者にご相談されることをおすすめします。
- ※一般的に床材は製造工程で高温高圧処理されるため、虫や卵は死滅します。その後の流通段階や施工後に、外部から虫が飛来して産卵し、虫食いが発生する場合があります。

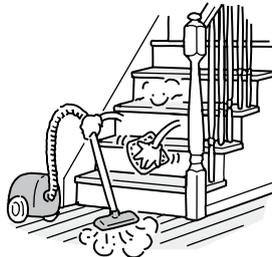


ホルムアルデヒドへの配慮をお願いします。

当社では商品から放散される化学物質の削減に努めていますが、日常的に通気や換気をこまめに行ってください。特に、新築住宅やリフォーム直後には十分な換気をお願いします。又、ホルムアルデヒドは高温になると多く放散される性質があります。夏場や長時間密閉した後は、特に気をつけてください。

階段・手すりなど

- 汚れがひどいときは、かたく絞ったぬれぞうきんでふき取ってください。その後、乾いた布でふき取ってください。
- 使用上に異常・不具合が生じたときは、状況を確認してください。ご自身で対処できない場合は、施工業者さまにご連絡ください。



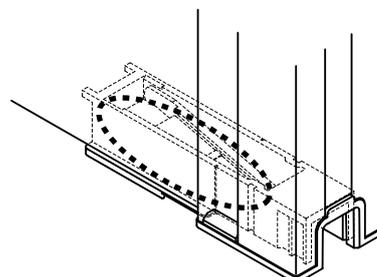
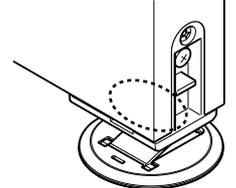
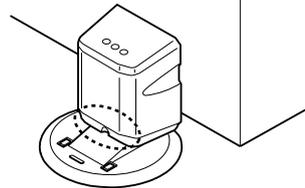
天然木のため起こること

- 床鳴り
原因の一つとして床材の継ぎ目部分がすれて音が発生していることが考えられます。これは天然木の性質として調湿機能が働き、伸び縮みを生じることによって発生するもので特性上やむをえない現象です。
- ソリ、目スキ、突上げ
天然木は呼吸しており、季節や使用場所など湿度変化によって伸び縮みを繰り返します。そのため床材のソリや目スキ、突上げ(継ぎ目部分の盛り上がり)が発生することがあります。特性上ある程度やむをえないものですので、ご理解ください。

マグネットストッパー／可動間仕切り引戸

- マグネット部に異物が付着している場合は取り除いてください。磁力が低下して、ストッパーが作動しないことがあります。

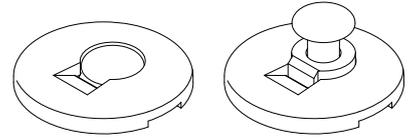
…マグネット位置



可動間仕切り引戸 ノンレールタイプ

- ガイドピンのまわりは定期的に掃除機をかけてください。
ゴミやほこりによってガイドピンの動きが悪くなり本体にかからなくなることがあります。

- ジュースなどの液体をこぼしたり、ガイドピンの動きが悪い場合は、ガイドピンのピンを引き上げて濡れた布で拭き、よく乾かしてください。



- 床へワックスや洗剤を使用する場合はガイドピン内にはいり込まないようにしてください。
固着によりガイドピンの動きが悪くなり本体にかからなくなることがあります。

モイスNT 内装材

- 落としにくい汚れは、次の方法で落とすことができます。そのままにしておくと次第に除去しにくくなりますので、汚れが付いたらすぐに落してください。

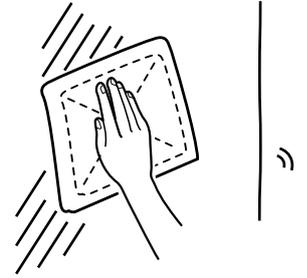
鉛筆

- 鉛筆汚れはプラスチック消しゴムで落せます。



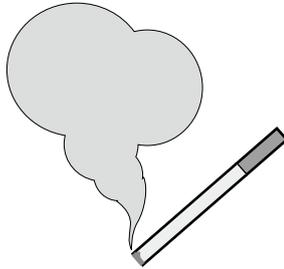
ジュース・調味料

- 汚れが染み込む前に、水を含ませたきれいな布、又は、ティッシュペーパーなどでできる限りふき取ってください。それでも汚れが気になる場合はきれいな布に台所用中性洗剤を含ませ、絞ってから汚れた部分をふいた後、清水でかたく絞ったきれいな布で表面に残った洗剤分をふき取ってください。



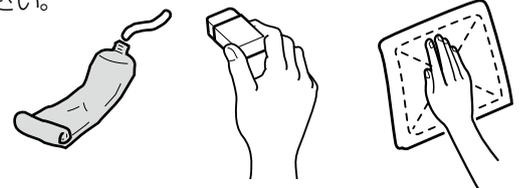
たばこのヤニ

- クロスや木材に比べて、モイスはヤニが付きにくく、目立ちにくいですが、喫煙頻度に応じてかたく絞ったきれいな布で軽くふいてお手入れすることをおすすめします。



歯磨きペースト

- まず付着した歯磨きペーストを歯ブラシなどでできるだけ取除いた後、プラスチック消しゴムでこすり取ってください。次にかたく絞ったぬれぞうきんでふいた後、もう一度消しゴムでこすり取ってください。



- キズがついてしまった場合、又は汚れが固着し除去できない場合には次の方法で直すことができます。

キズ

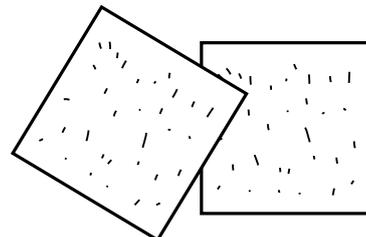
- 小さなキズは補修用パテ材でタッチアップしてください。



ペン・マジックおよび小さな汚れ

- ボールペンやマジックなどの汚れ、水ぶきしても落ちない小さな汚れは、サンドペーパー(#60番~#80番)でこすり落してください。

注:壁表面の凹凸や外観に合わせて、ペーパー番手の選定を行ってください。除去する際は製品の研磨目に沿って、見映え良く除去してください。



塗装されている場合

- 使用塗料を確認の上、各塗料メーカーの指示にしたがって補修してください。

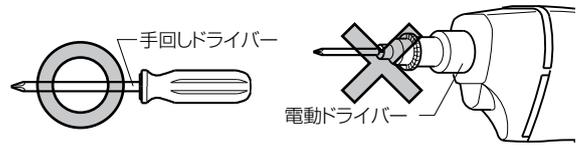


調整方法について

●ご使用の間、納まりに関して不都合が生じた場合は、以下の要領で調整を行ってください。

お願い

- この「取扱い説明書」に掲載されていない調整については、無理に調整しようとすると扉の落下・破損・ケガなどのおそれがありますので、お買い求めの販売店又は、LIXIL 修理受付センターまでご相談ください。
- 建付け調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。電動ドライバーを使用した場合は、ねじ頭が壊れるおそれがあります。

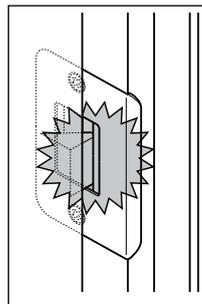
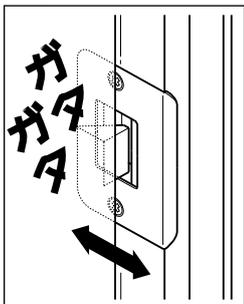


■調整方法を予告なしに変更する場合があります。ご了承ください。

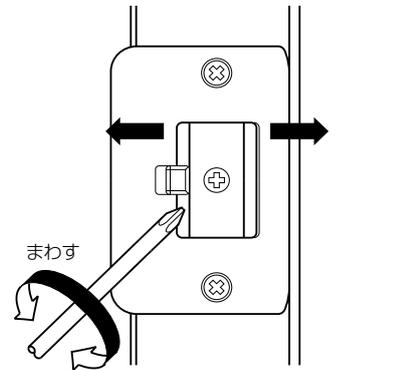
WL・FL・GL・SL戸襖ドア／ストライクによる建付け調整

ラッチがストライクの中でガタついたり、ラッチがかかりにくい場合はプラスドライバーでストライクの調整ねじを回して調整してください。

- ラッチがストライクの中でガタつく
- ラッチがかからない

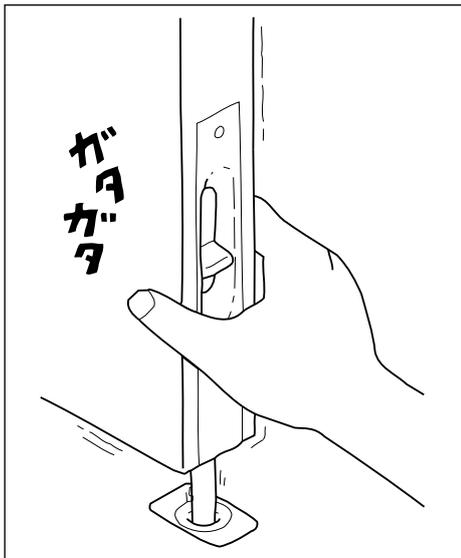


ストライク調整ねじ
可能調整範囲±3mm

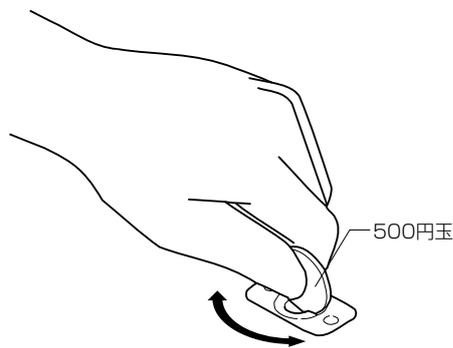


WL・FL・GL親子ドア／子扉のガタつき調整

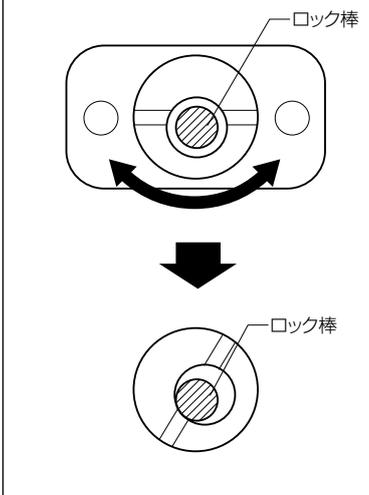
- 子扉がガタつく



- コインなどで穴部分を回転させ、ロック棒をフランス落とし受けの内側に当てるようにしてください。



【フランス落とし受け】

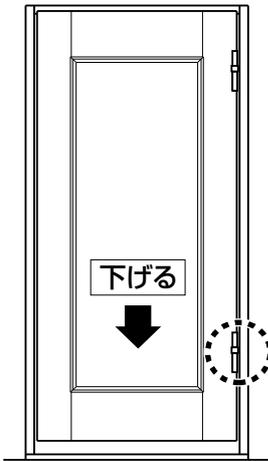


WL・FL・SL戸襖ドア／丁番による建付け調整

不具合例

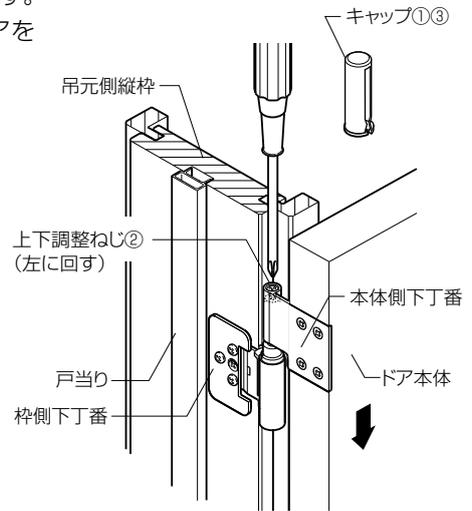
調整方法

■ドアの上部が枠に当たる。



(調整範囲 下:3mm)

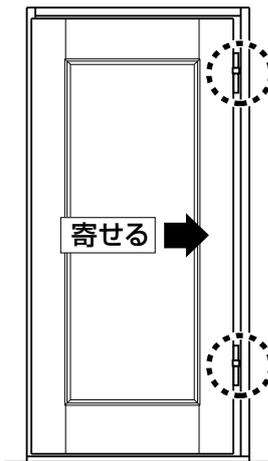
- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。



不具合例

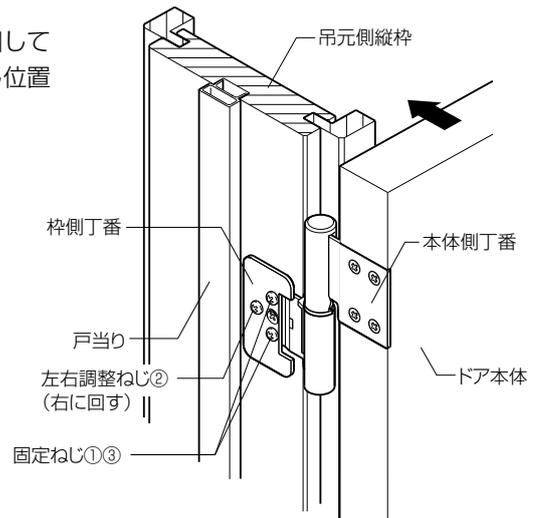
調整方法

■ドアの開き側が枠に当たる。



(調整範囲 吊元側:1.5mm)

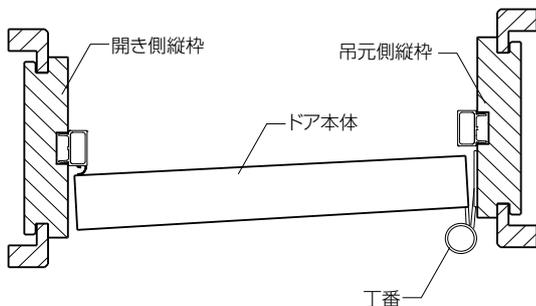
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



不具合例

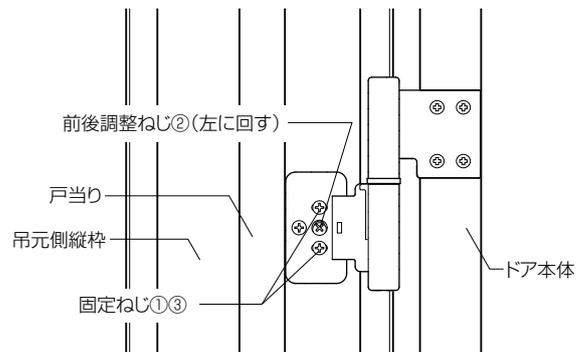
調整方法

■開き側の枠が前に出ている。



(調整範囲 前:2mm)

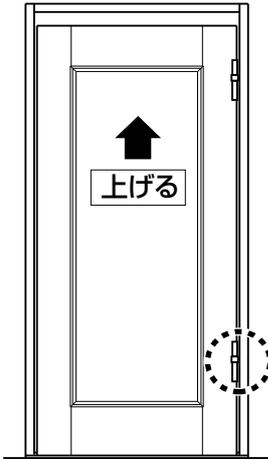
- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを左に回してドアを前に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



調整方法について

不具合例

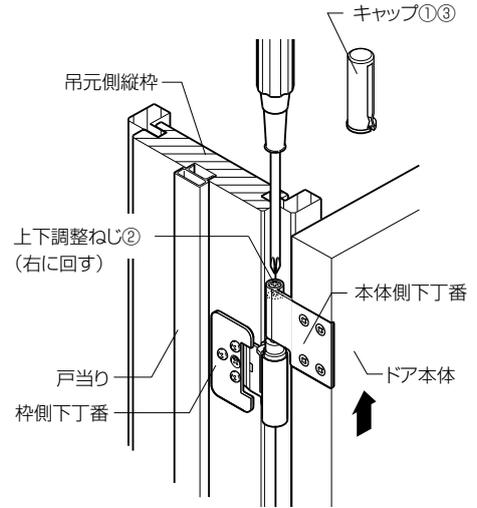
■ドアの下部が枠に当たる。



(調整範囲 上:3mm)

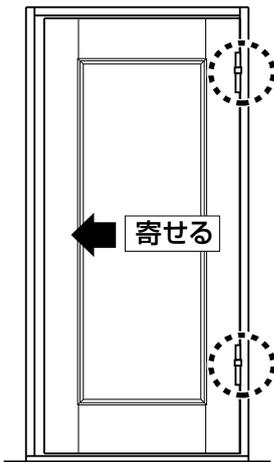
調整方法

- ①本体側下丁番のキャップを外す。
- ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
- ③キャップをはめる。



不具合例

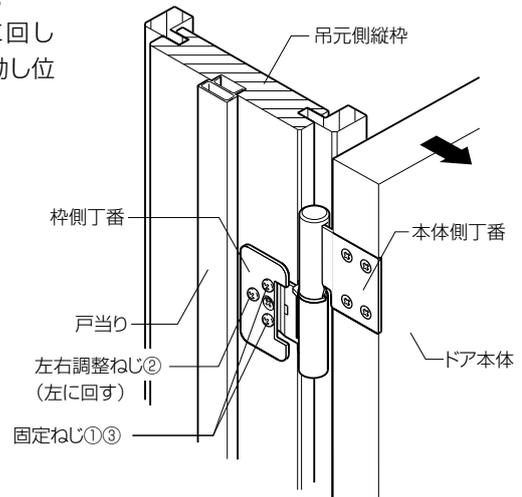
■ドアの開き側のすき間が大きすぎる。



(調整範囲 開き側:1.5mm)

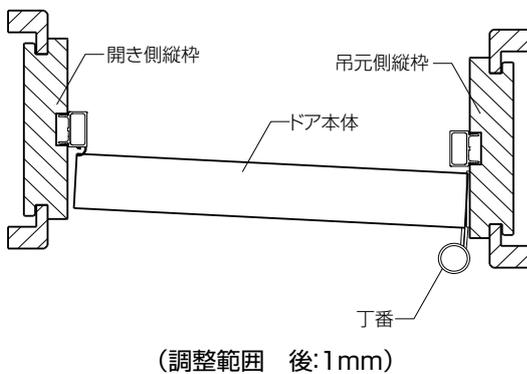
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



不具合例

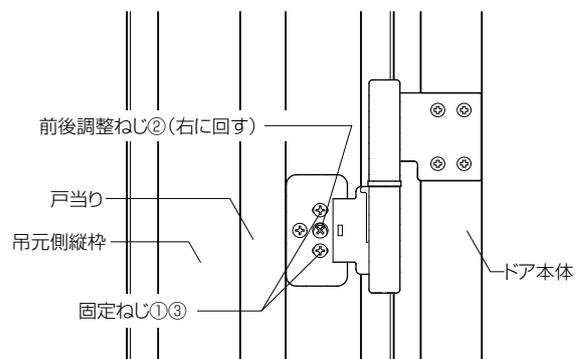
■吊元側の枠が前に出ている。



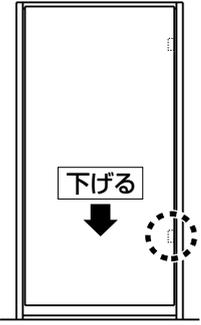
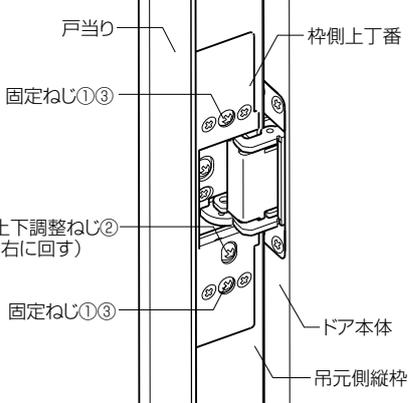
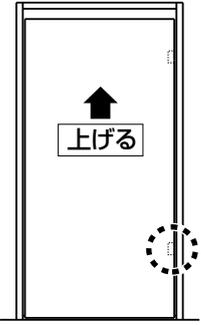
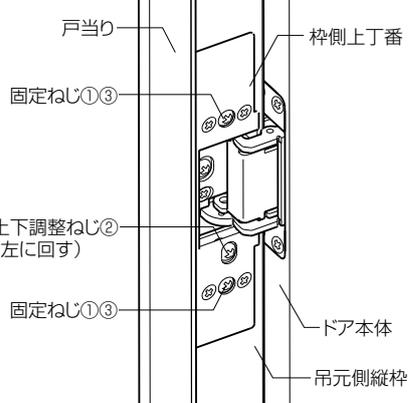
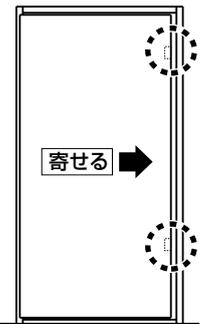
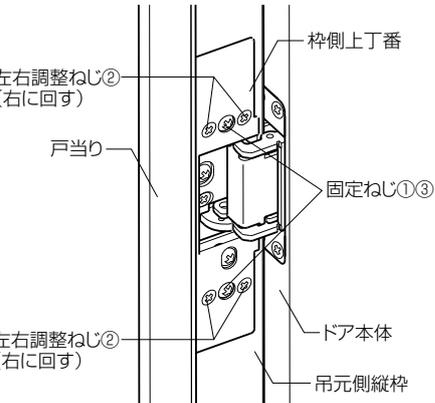
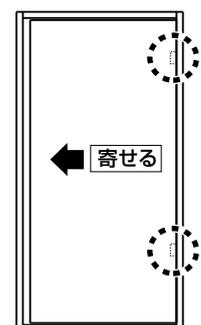
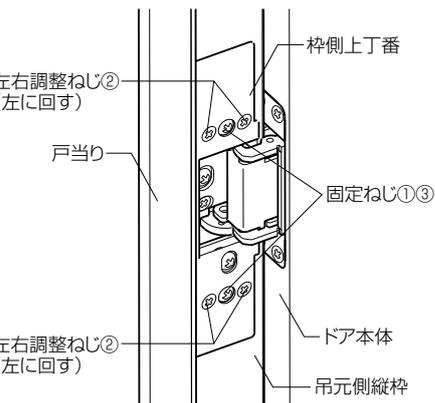
(調整範囲 後:1mm)

調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを右に回してドアを後に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



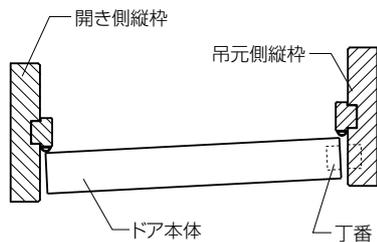
GLドア／隠し丁番による建付け調整

不具合例	調整方法
<p>■ドアの上部が枠に当たる。</p>  <p>(調整範囲 下:2mm)</p>	<p>①上下丁番の固定ねじをゆるめる。 ②上下調整ねじを右に回して、位置を決める。 ③上下丁番の固定ねじを締める。</p> 
<p>■ドアの下部が枠に当たる。</p>  <p>(調整範囲 上:2mm)</p>	<p>①上下丁番の固定ねじをゆるめる。 ②上下調整ねじを右に回して、位置を決める。 ③上下丁番の固定ねじを締める。</p> 
<p>■ドアの開き側が枠に当たる。</p>  <p>(調整範囲 吊元側:1.5mm)</p>	<p>①丁番の固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを右に回して、位置を決める。 ③固定ねじを締める。</p> 
<p>■ドアの吊元側が枠に当たる。</p>  <p>(調整範囲 開き側:2.5mm)</p>	<p>①丁番の固定ねじをゆるめる。 ②左右調整ねじを左に回して、位置を決める。 ③固定ねじを締める。</p> 

調整方法について

不具合例

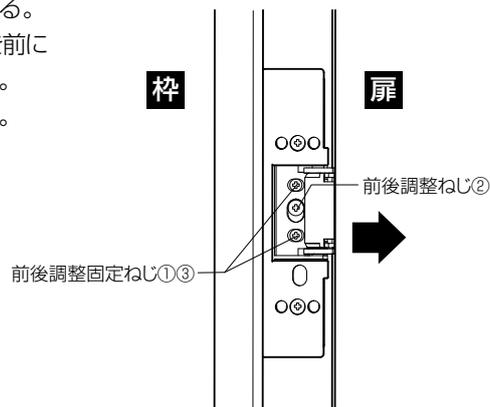
■開き側の枠が前に出ている。



(調整範囲 前:1mm)

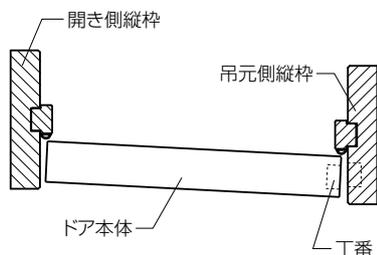
調整方法

- ①前後調整固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを回してドアを前に移動させて位置を決めます。
- ③前後調整固定ねじを締める。



不具合例

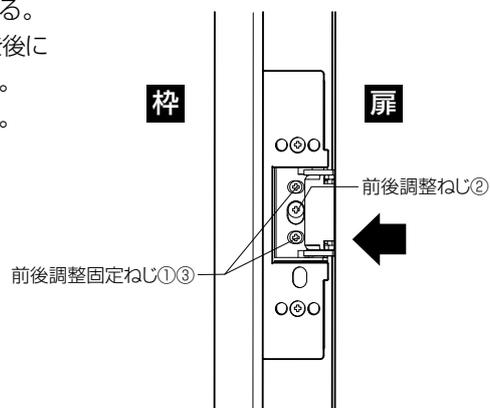
■吊元側の枠が前に出ている。



(調整範囲 後:1mm)

調整方法

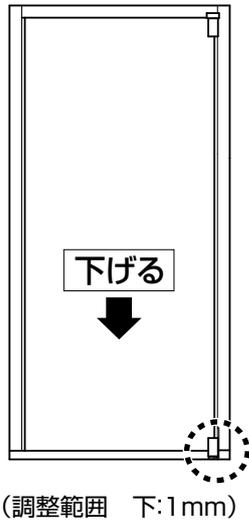
- ①前後調整固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを回してドアを後に移動させて位置を決めます。
- ③前後調整固定ねじを締める。



WL・FLドア／ピボット丁番による建付け調整

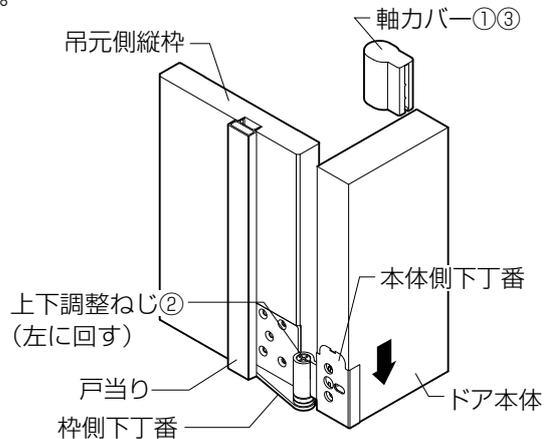
不具合例

■ドアの上部が枠に当たる。



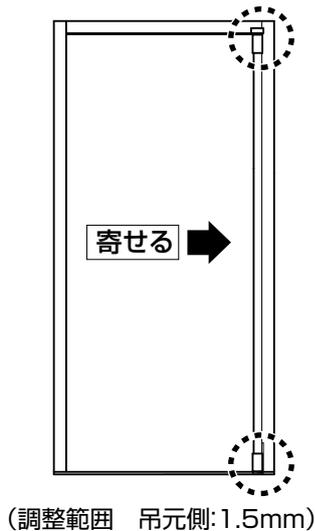
調整方法

- ①本体側下丁番の軸カバーを外す。
- ②上下調整ねじを左に回しドアを下げて位置を決める。
- ③軸カバーをはめる。



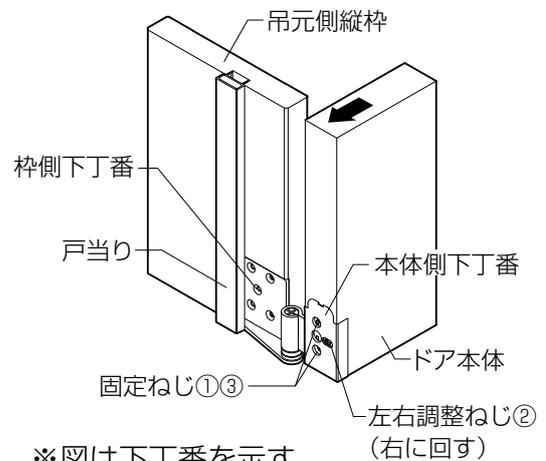
不具合例

■ドアの開き側が枠に当たる。



調整方法

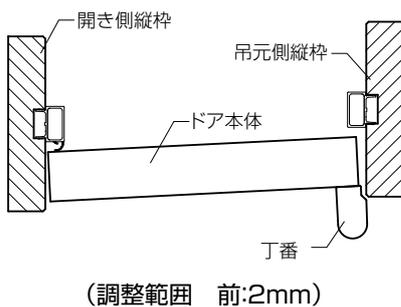
- ①固定ねじを緩める。
- ②左右調整ねじを右に回してドアを吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



※図は下丁番を示す。
(上丁番も同様に調整してください)

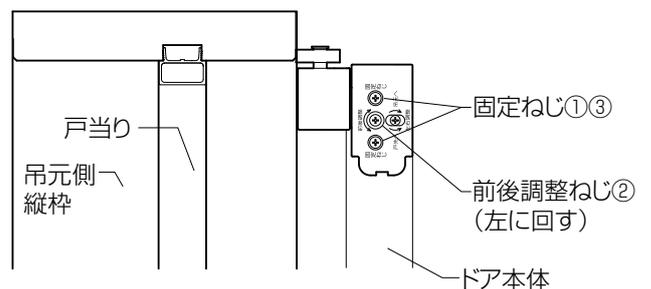
不具合例

■開き側の縦枠が前に出ている。



調整方法

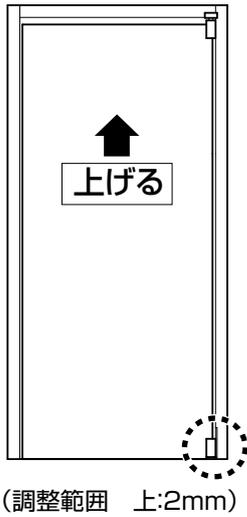
- ①固定ねじを緩める。
- ②前後調整ねじを右に回してドアを前に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



調整方法について

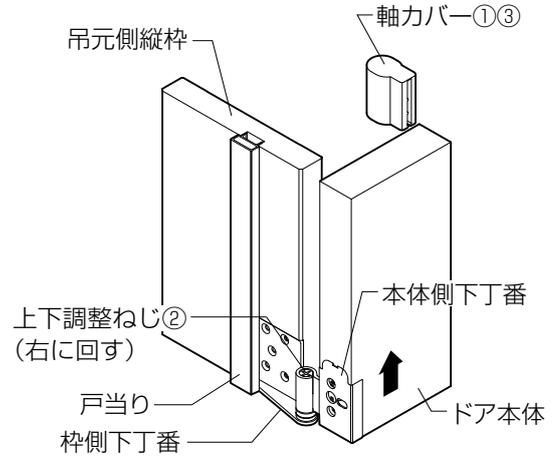
不具合例

■ドアの下部が枠に当たる。



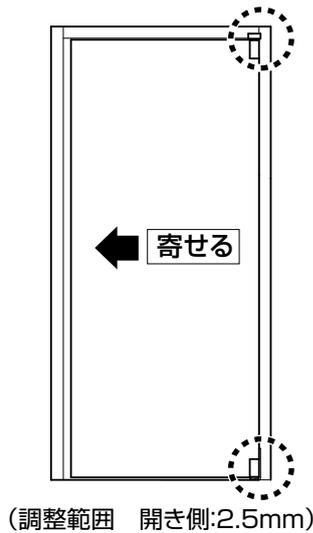
調整方法

- ①本体側下丁番の軸カバーを外す。
- ②上下調整ねじを右に回しドアを上げて位置を決める。
- ③軸カバーをはめる。



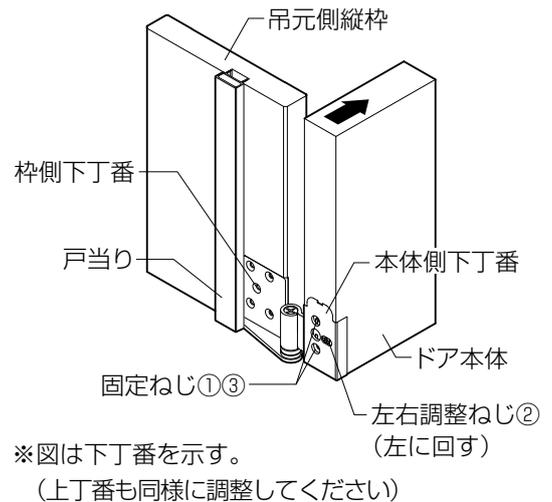
不具合例

■ドアの開き側のすき間が大きすぎる。



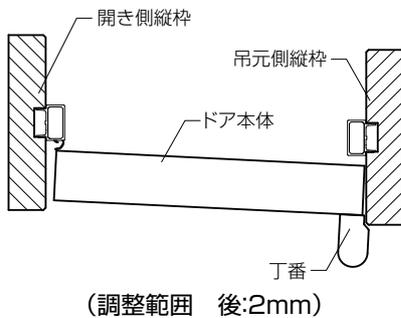
調整方法

- ①固定ねじを緩める。
- ②左右調整ねじを左に回してドアを開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



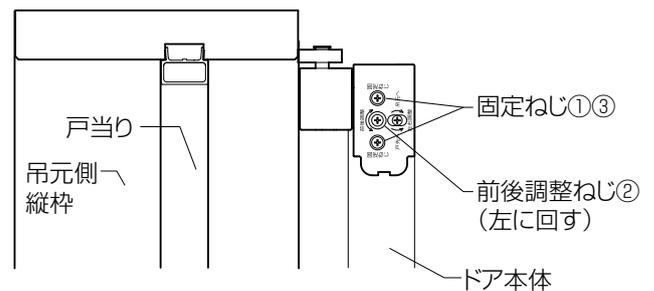
不具合例

■吊元側の縦枠が前に出ている。



調整方法

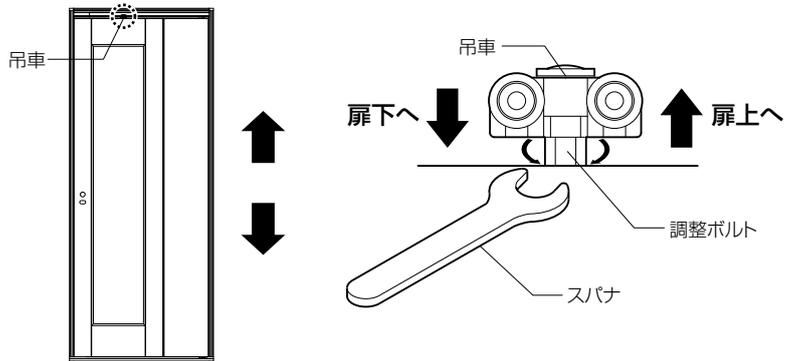
- ①固定ねじを緩める。
- ②前後調整ねじを左に回してドアを後に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



WL中折れドア／左右・上下調整

上下調整

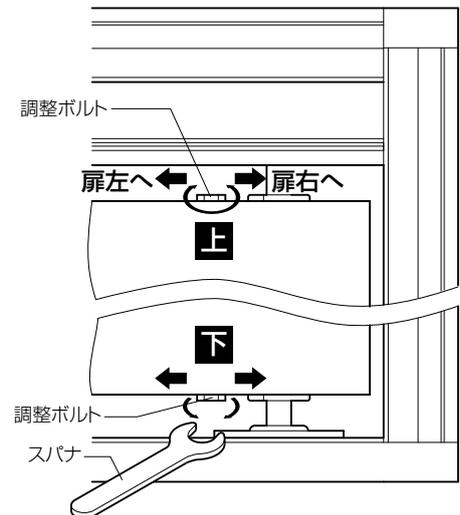
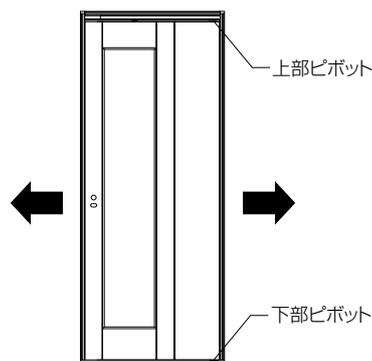
- 吊車で調整します。調整幅は±3mmです。
- 付属のスパナで時計回りに回すと扉が上がり、反時計回りで扉が下がります。



左右調整

- 上・下部ピボットで調整します。調整幅は±2.5mmです。
- 付属のスパナで上・下部ピボットの調整ボルトを回して調整します。

	扉を左へ	扉を右へ
上部ピボット	時計回り	反時計回り
下部ピボット	反時計回り	時計回り

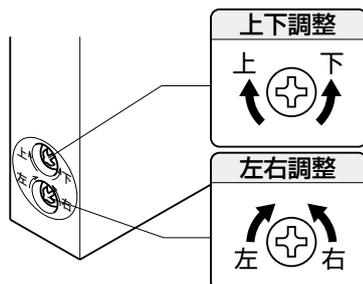


WL・FL・GL室内引戸(Vレール方式・連動方式)・SL戸襖引戸／戸車による建付け調整

WLクローゼット引戸連動タイプ／戸車による建付け調整

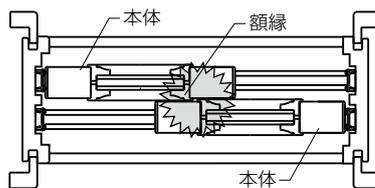
■上下調整(調整幅+4mm、-2mm)

- 本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

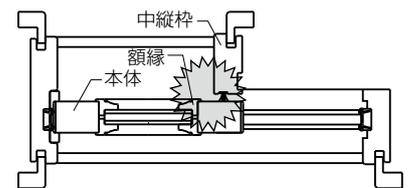


※左右調整する場合は、本体同士がぶつからないようにご注意ください。又、本体と中縦枠モヘアが接触しすぎて、開閉が重くならないよう調整してください。

●引違い・3枚・4枚建



●片引き・引分け

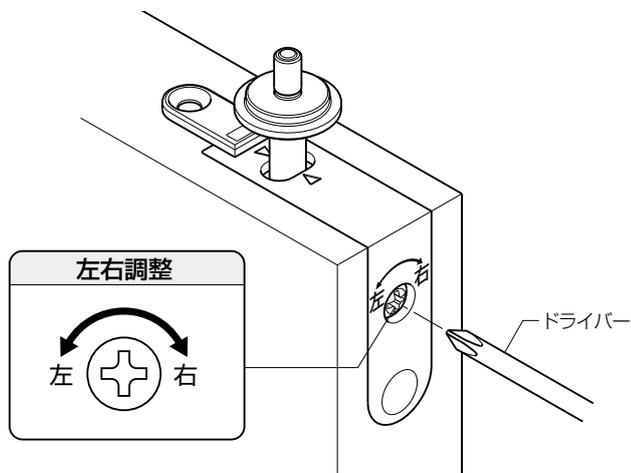


調整方法について

■左右調整(調整幅±2mm)

【WL・GL室内引戸】

- ①本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。
- ②本体両上端の左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。



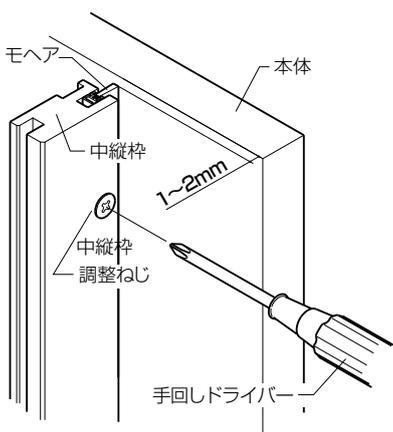
お願い

- 調整は必ず手回しドライバーを使用してください。電動ドライバーを使用した場合は、ねじ頭が壊れるおそれがあります。

※連動方式には本体両上端の左右調整ねじは付いていません。

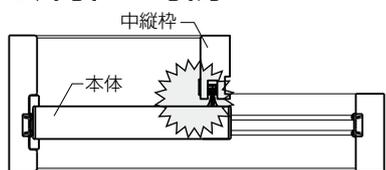
■中縦枠の調整(調整幅+6mm)

【WL・FL】



※本体とモヘアのすき間が1~2mm程度になるように調整してください。

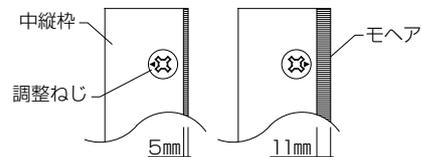
●片引き・引分け



本体と中縦枠モヘアが接触しすぎると、開閉が重くなります。

出荷時には輸送時のモヘアの折れ曲がりを防ぐため、モヘアを最も引っ込めた状態で出荷しています。

- ①中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。
- ②調整後、本体とモヘアの先端が1~2mmのすき間が確保されているか確認してください。

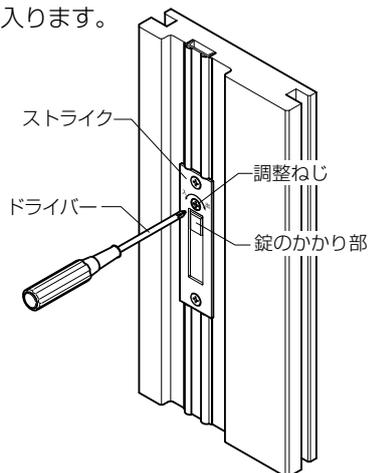


調整ねじの▲マークがモヘア側に向いている時がモヘアが最も出ている状態で、逆に向いている時が最も引っ込んでいる状態です。

WL・FL室内引戸/引戸錠のかかり調整

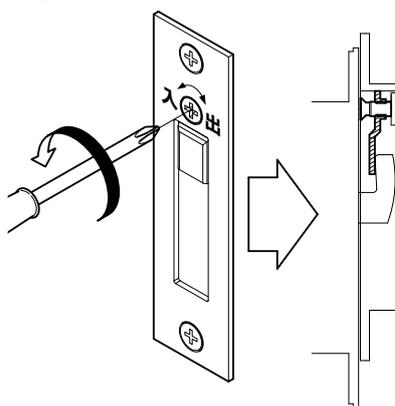
■引戸錠のかかり調整

- ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



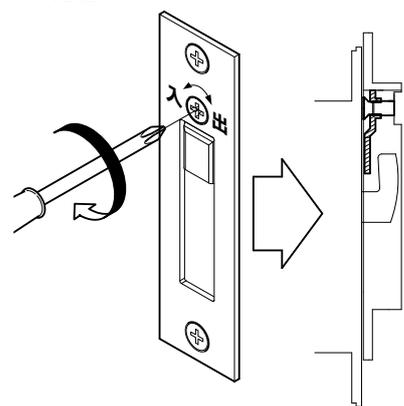
【本体と枠のすき間が大きい場合】

- 調整ねじを左に回して調整してください。



【錠がかかりにくい場合】

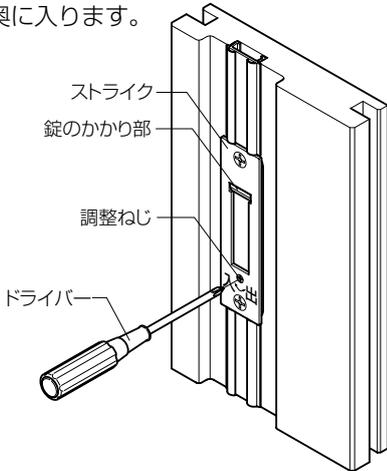
- 調整ねじを右に回して調整してください。



GL室内引戸／引戸錠のかかり調整

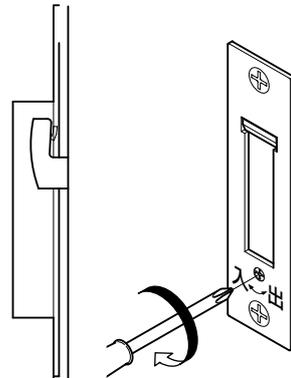
■引戸錠のかかり調整

- ストライクの調整ねじを左に回すと錠のかかり部が出て、右に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



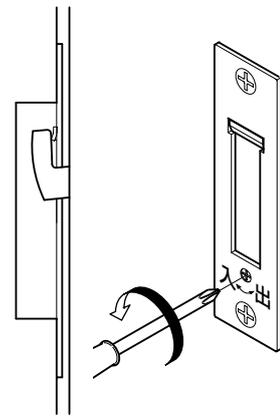
【本体と枠のすき間が大きい場合】

- 調整ねじを右に回して調整してください。



【錠がかかりにくい場合】

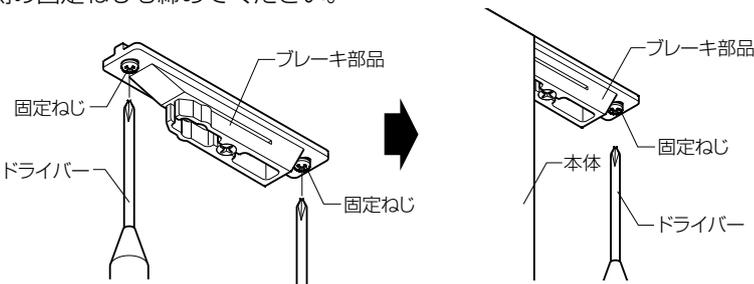
- 調整ねじを左に回して調整してください。



FL室内引戸(Vレール方式)・SL戸襖引戸／ブレーキ調整

■ブレーキの左右調整

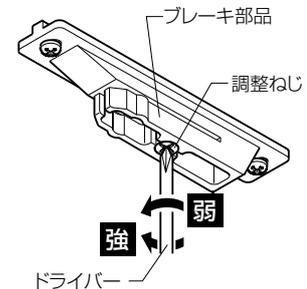
- 本体の左右調整時、ブレーキの左右調整も行ってください。上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめ、図のように本体を途中まで閉じてください。このまま片側の固定ねじを締め、本体を開けて反対側の固定ねじも締めてください。



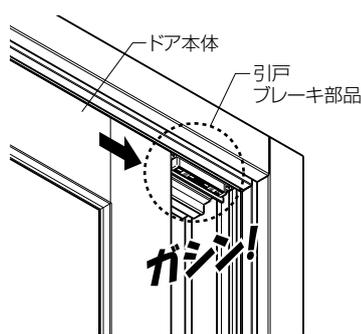
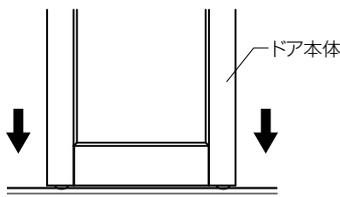
お願い

- 調整ねじを弱方向に回す場合、ブレーキの表面からねじ頭の出寸法が1.5mm以内になるように調整してください。

回しすぎるとねじがぬけます。



- 本体がブレーキ部品に当たる時は、戸車の上下調整ねじを回して本体を下げてください。



WL・GL室内引戸 Vレール方式／引込み調整

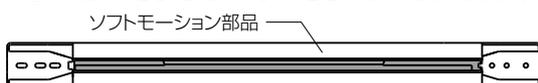
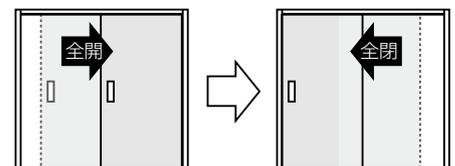
■WL・GL室内引戸Vレール方式のソフトモーション機構の自動復帰方法

※本体を吊り込んでもソフトモーション機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトモーション機構が自動復帰します。

- ①本体を全開してください。
- ②本体を全閉してください。
- ③①、②を1～2回繰り返してください。ソフトモーション機構が復帰します。

※必ず縦枠に当たるまで全開・全閉を行ってください。

※開閉はゆっくりと行い、ソフトモーション機構復帰後は扉を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。



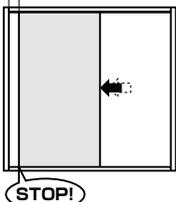
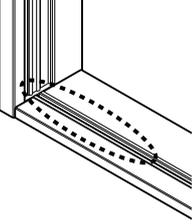
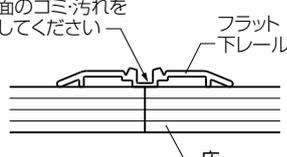
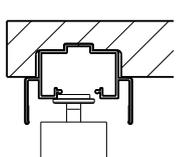
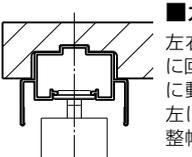
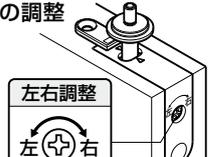
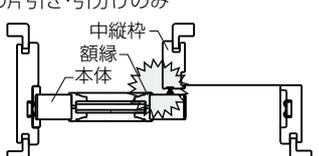
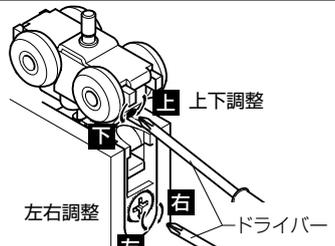
調整方法について

WL室内引戸 Vレール方式・上吊方式・アウトセット方式／引込み調整

WL可動間仕切り引戸／引込み調整

GL室内引戸 Vレール方式・可動間仕切り引戸スライドタイプ／引込み調整

■WL用Wソフトモーション機構・GL用ソフトモーション機構の調整方法

現象	チェックポイント	対処方法
<p>閉まりきらない すぎ間</p> 	<p>●下レールやフラット下レールに粉塵やゴミがたまって付着している ※Vレール方式・可動間仕切り引戸の場合</p> 	<p>清掃してください。</p> <p>■Vレールの場合</p>  <p>※この面に付着している汚れをふき取ってください</p> <p>※この部分にたまっているゴミを吸い取ってください</p> <p>■フラット下レールの場合</p>  <p>※この面のゴミ・汚れを除去してください</p> <p>フラット下レール</p> <p>床</p>
	<p>●ガイドローラーが上レールのセンターと芯がズレている ※Vレール方式のみ</p> 	<p>ガイドローラーの左右調整ねじで芯を合わせてください。</p>  <p>■ガイドローラーの調整</p> <p>左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p> 
	<p>●本体とモヘアが接触している ※Vレール方式・上吊方式・可動間仕切り引戸の片引き・引分けのみ</p>  <p>中縦枠 額縁 本体</p>	<p>■Vレール方式の場合</p> <p>戸車とガイドローラーの左右調整ねじで本体にモヘアが触れて閉閉が重くならないように調整してください。</p> <p>【戸車の調整】</p> <p>左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p>  <p>【ガイドローラーの調整】</p> <p>左右調整ねじを右に回すと本体が右に動き、左に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p> 
		<p>■上吊方式・可動間仕切り引戸の場合</p> <p>吊車の左右調整ねじで本体にモヘアが触れて閉閉が重くならないように調整してください。</p> <p>【吊車の調整】</p> <p>左右調整ねじを左に回すと本体が右に動き、右に回すと左に動きます。(調整幅左右各2mm)</p>  <p>上下調整</p> <p>左右調整</p> <p>ドライバー</p>
	<p>●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある</p> 	<p>ソフトモーション部品の交換が必要です。</p>
<p>ブレーキが効かない</p> 	<p>●ソフトモーション部品の外観に潤滑剤が塗布された形跡がある</p> 	<p>ソフトモーション部品の交換が必要です。</p>

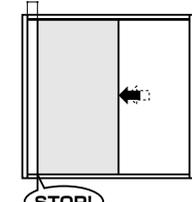
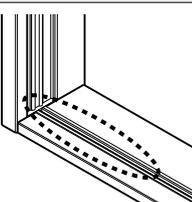
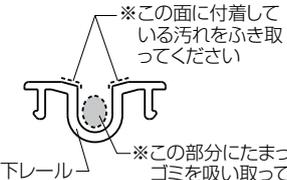
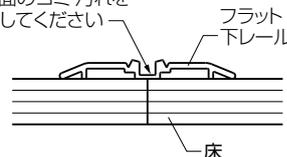
■WL用Wソフトモーション・GL用ソフトモーションには商品の構造上、以下の現象が発生します。

製品不具合ではありませんので、あらかじめご了承ください。

- ・開閉の際にカチッという部品の作動音が生じます。
- ・バネを採用している為、扉を開ける際に途中扉が重く感じる部分があります。
- ・オイルダンパー（緩衝装置）を使用している為、夏季と冬季（部屋の温度差）で引き込み速度が異なる場合があります。
- ・扉の重量、建付け状況により、扉の引き込み速度が異なる場合があります。
- ・重量の重い扉を強めに閉めると、ブレーキ感が弱く感じる場合があります。
- ・重量の軽い扉を勢いよく閉めると、扉戸先の浮き上がり（つかかり）が生じる場合があります。
- ・レール、戸車にゴミなどが付着し動きが悪くなると、扉が閉まりきらないことがあります。

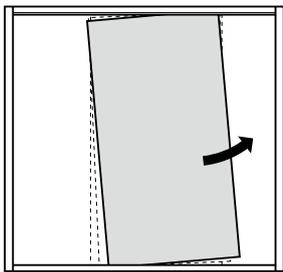
F L室内引戸 Vレール方式／引込み調整

■FL用シングルソフトモーション機構の調整方法

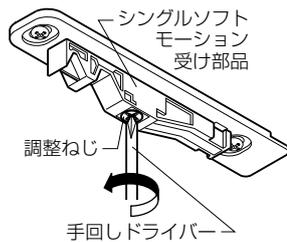
現象	チェックポイント	対処方法
<p>閉まりきらない すき間</p> 	<p>●下レールやフラット下レールに粉塵やゴミがたまって付着している ※Vレール方式・可動間仕切り引戸の場合</p> 	<p>清掃してください。</p> <p>■Vレールの場合</p>  <p>■フラット下レールの場合</p> 

F L室内引戸 Vレール方式／あおり抑制

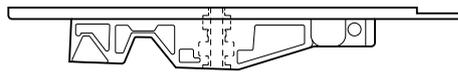
●本体のあおりを抑制する（シングルソフトモーションタイプの場合）



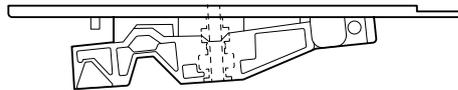
左記のように扉が閉まる際に、本体があおられ 戸先が浮き上がってくる場合には、上レール内部についているシングルソフトモーション受け部品の調整ねじであおりを抑制してください。
※反時計回りにまわして調整してください。



調整前



調整後

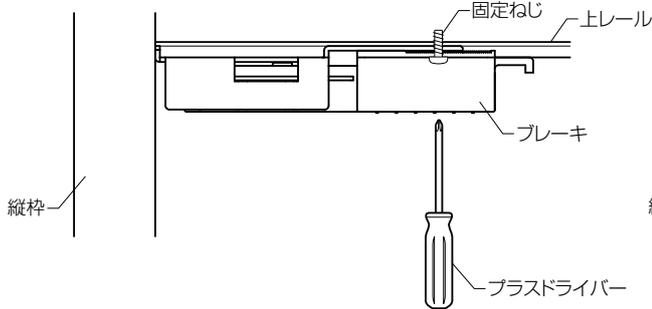


調整方法について

GL室内引戸 Vレール方式 / 戸尻ブレーキ調整

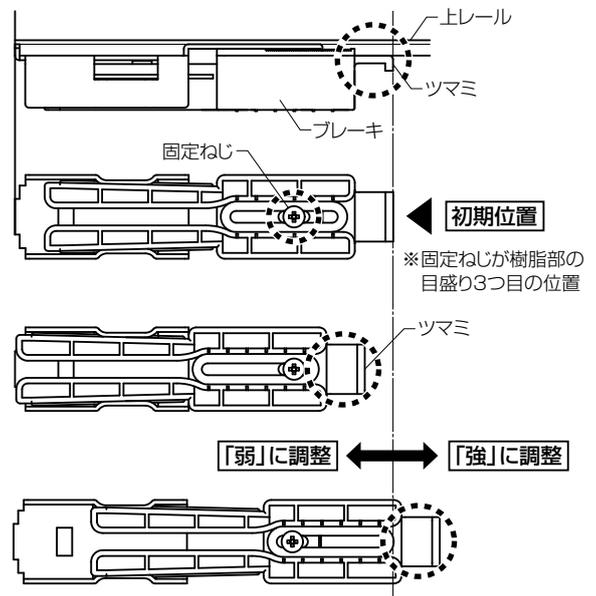
■ブレーキ力調整

①上レール内側に付いているブレーキ部品の固定ねじをゆるめます。



②ブレーキ先端のツマミを左右にスライドさせて強弱の調整を行います。

※ツマミを手前側に引くと「強」、ツマミを押込むと「弱」に調整できます。



お願い

- 調整は必ず手回しドライバーを使用してください。(電動ドライバーは使用しないでください。)

③調整後、固定ねじを締めます。

WL室内引戸(上吊方式・アウトセット方式)・WL可動間仕切り引戸上吊方式・WL引戸アウトセット方式 ・GL可動間仕切り引戸スライドタイプ / 吊車による建付け調整

■上下調整(調整幅+4mm、-1mm)

●プラスドライバーで吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が下がり、左に回すと本体が上がります。

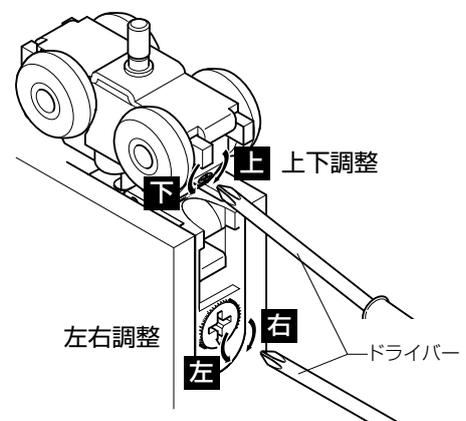
※床面と本体下部とのチリ寸法は、8mmが標準です。

※本体を下げ過ぎるとガイドピンベース部と本体が当たりますので、下げすぎないでください。

■左右調整(調整幅±2mm)

●左右調整は片引きの場合、中縦枠と本体のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ9mm)に実施してください。引違いの場合、本体同士のチリが大きい(小さい)場合(標準チリ8mm)に実施してください。プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が右へ動き、右に回すと本体が左に動きます。

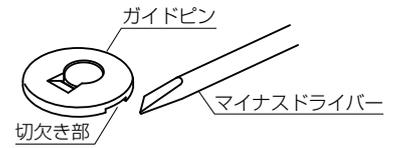
※前後調整した場合は、本体が常に垂直になるようにガイドピンおよび縦枠下部のブレ止めの調整をしてください。調整しないと開閉操作が重くなる場合があります。



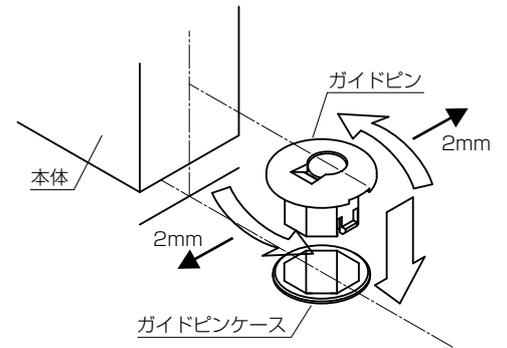
WL可動間仕切り引戸 ノンレールタイプ ガイドピンの調整

■前後調整（調整幅± 2 mm）

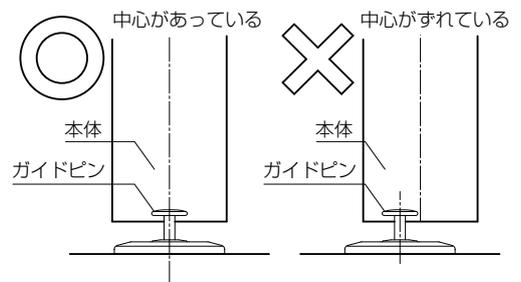
- ガイドピンを切り欠き部にマイナスドライバーなどを差込んで外してください。
※床にキズがつかないようにマイナスドライバーの下にあて布をして外してください。



- 本体が前後に動いていないことを確認し、本体の中心線上にガイドピンの先端がくるようにガイドピンをまわして位置をあわせてください。
※中心がずれていると、可動間仕切り開閉時にガイドピンが外れてしまう場合があります。
※ガイドピンケース内部、ガイドピン本体にゴミなどが入り込んでいる場合はきれいに取り除いてください。



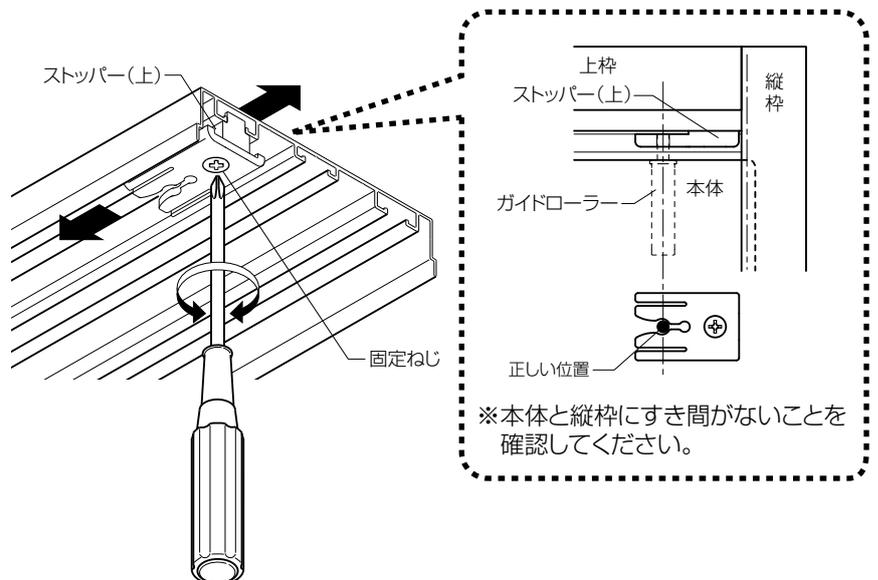
- 位置があったらガイドピンをガイドピンケースへ『カチッ』と音がするまで押し込んでください。



WLクローゼット引戸連動タイプ/ストッパー調整

■ストッパーの調整

- ①ストッパーの固定ねじをゆるめます。
- ②右図のように正しい位置にストッパーを動かします。
- ③ストッパーの固定ねじを締めてください。



- ※本体の高さ調整を行ったあとにストッパーの位置を調整してください。
- ※ガイドローラーがストッパーの正しい位置におさまるようにしてください。

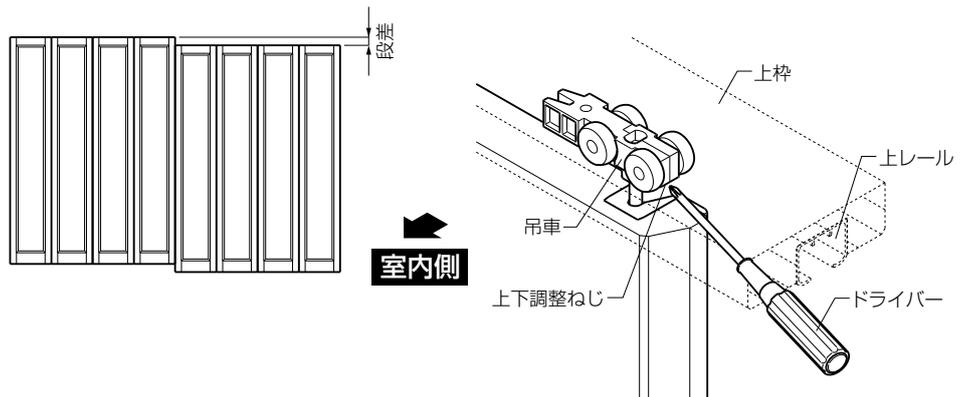
調整方法について

WL・FL(フリータイプ)クローゼット折れ戸／吊車による建付け調整

■段違い(上・下)の調整

- 本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。

(調整範囲 上：5mm)

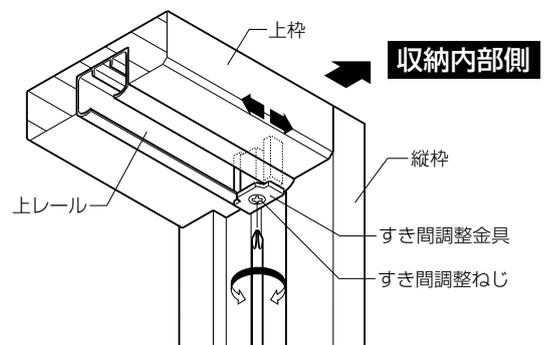
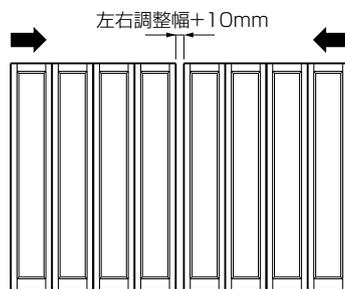


■すき間(左・右)の調整(フリータイプの場合)

- 本体間のすき間が大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているすき間調整金具で調整できます。

すき間調整ねじをドライバーで回し、調整してください。すき間調整ねじを右に回すと、すき間が小さくなります。

注)すき間調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。

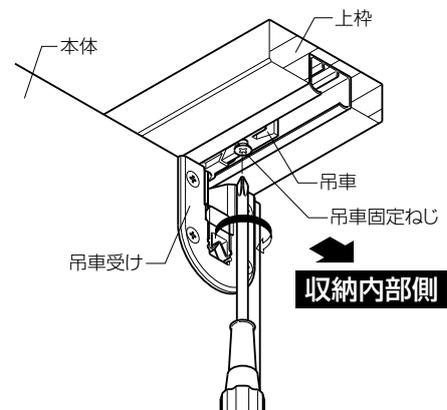
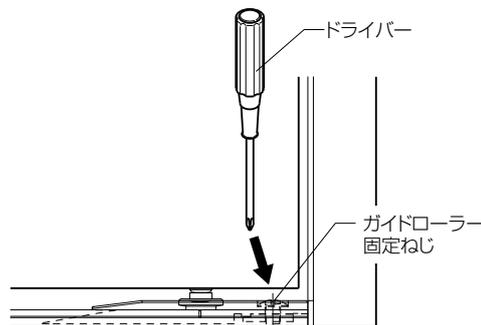
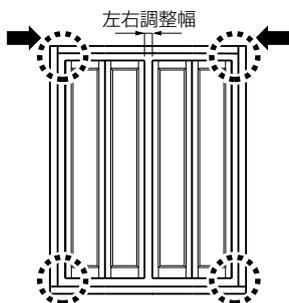


■すき間(左・右)の調整(ピボットタイプの場合)

- 本体間のすき間が大きい場合、吊車およびガイドローラー固定金具(本体部品セット同梱)で左右調整を行います。

- 本体をずらしてガイドローラー固定金具の固定ねじをプラスドライバーでゆるめて移動させます。

- 吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。

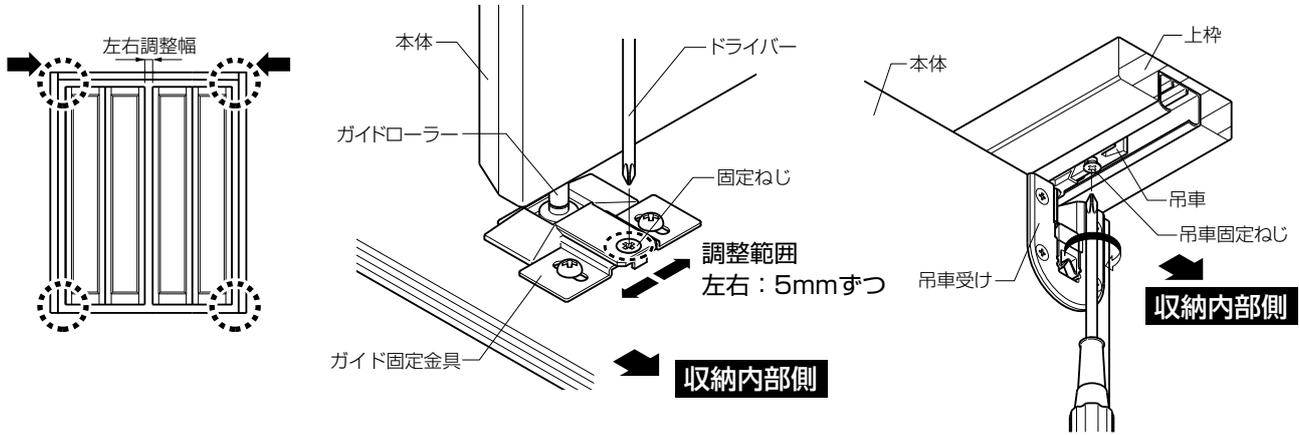


■すき間(左・右)の調整(ノンレールタイプの場合)

●本体間のすき間が大きい場合、吊車およびガイド固定金具で左右調整を行います。

●ガイド固定金具の固定ねじを、ドライバーでゆるめて左右に移動させます。

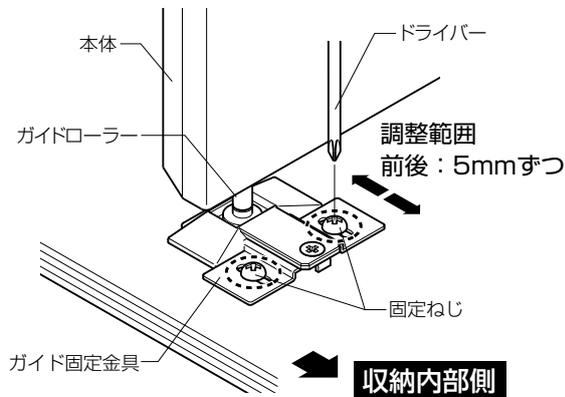
●吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。



■すき間(前・後)の調整(ノンレールタイプの場合)

●ガイド固定金具で前後調整を行います。

●ガイド固定金具の2つの固定ねじを、ドライバーでゆるめて前後に移動させます。

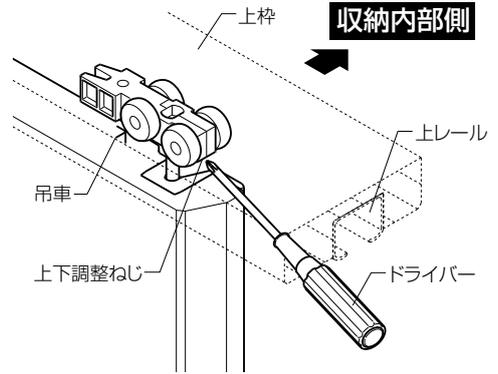
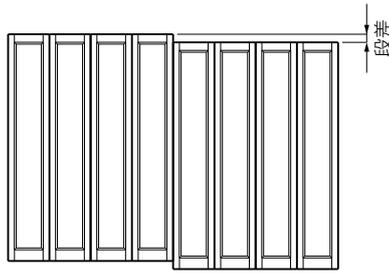


調整方法について

GLクローゼット折れ戸／吊車による建付け調整

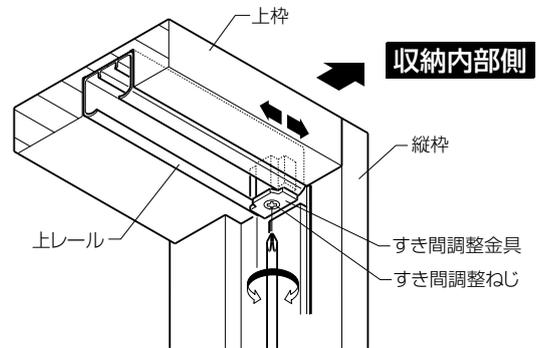
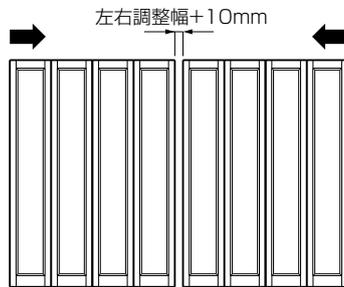
■段違い(上・下)の調整

- 本体の取付け後、上下の目地が合っていない場合、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回し調整してください。
(上下調整量±3mm)



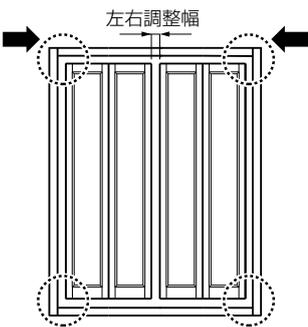
■すき間(左・右)の調整(フリータイプの場合)

- 本体間のすき間が大きい場合、上レールの端部(左右)に付いているすき間調整金具で調整できます。
すき間調整ねじをドライバーで回し、調整してください。すき間調整ねじを右に回すと、すき間が小さくなります。
注)すき間調整金具は、上レールの左右に付いています(W07・08は、片側のみ)ので、左右均等に調整してください。

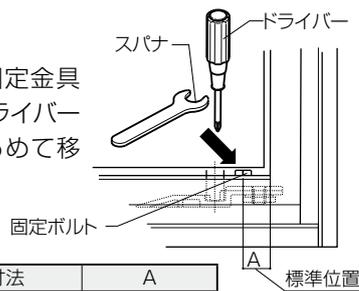


■すき間(左・右)の調整(ピボットタイプの場合)

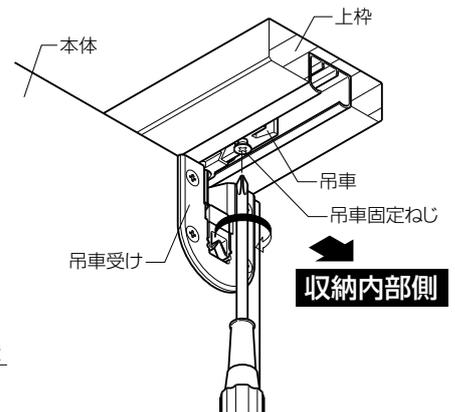
- 本体間のすき間が大きい場合、吊車およびガイドローラー固定金具で左右調整を行います。



- ガイドローラー固定金具の固定ボルトをドライバー又はスパナでゆるめて移動させます。



固定ねじまでの寸法	A
W12,13,16,18の場合	13
上記以外の場合	12.5

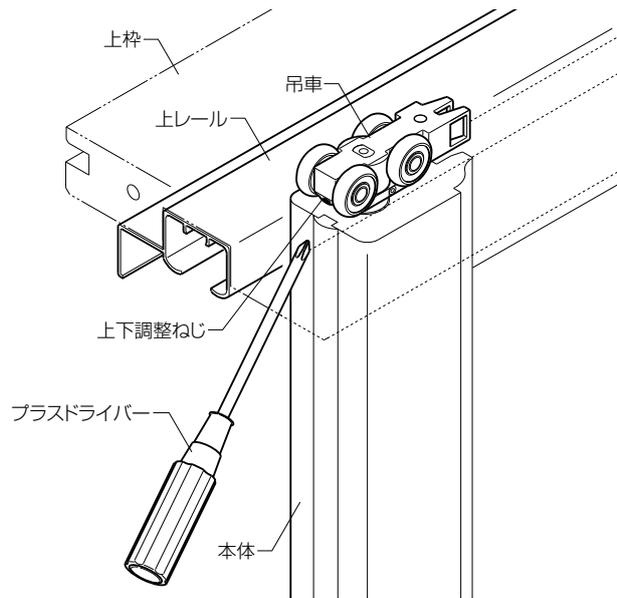
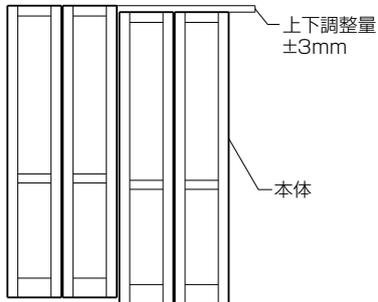


- 吊車固定ねじをドライバーでゆるめて移動させます。

WL可動間仕切り折れ戸／吊車による建付け調整

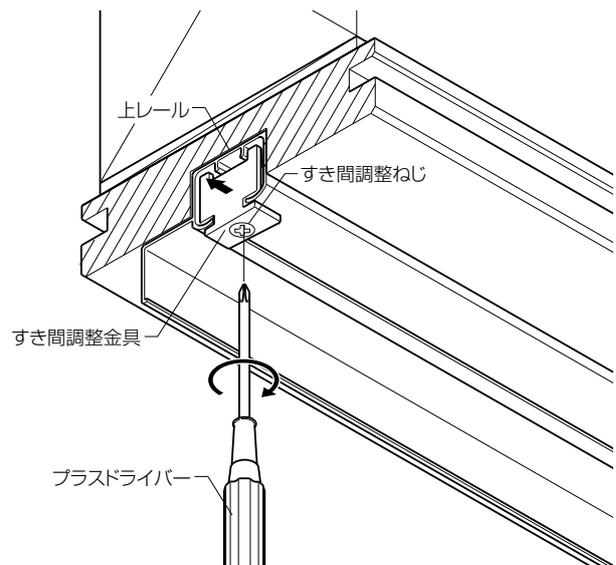
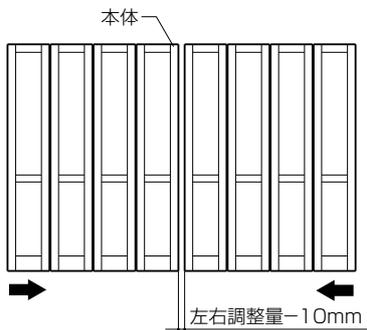
■上下方向の調整

- 本体が段違いになった場合は、左右の吊車の上下調整ねじをドライバーで回して調整してください。



■左右方向の調整

- 本体間のすき間が大きい場合は、上レール両端のすき間調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。右に回すとすき間が小さくなります。

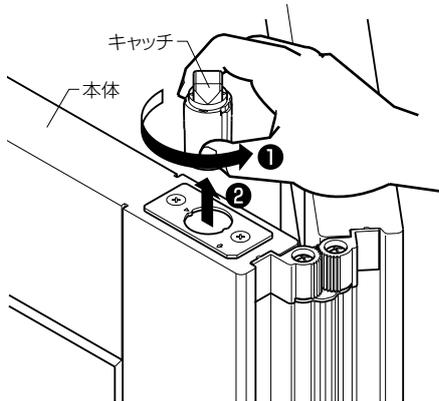
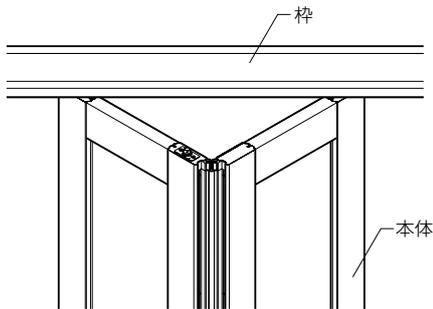


調整方法について

■本体の振れ止めの調整(キャッチの上下調整)

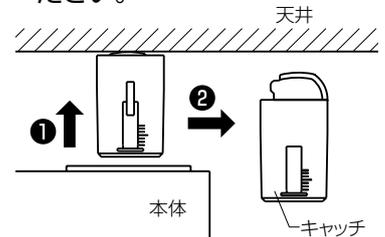
①本体を開けてください。

②キャッチのヘッドを左に回してロックを解除して、キャッチを上へ引抜きます。



お願い

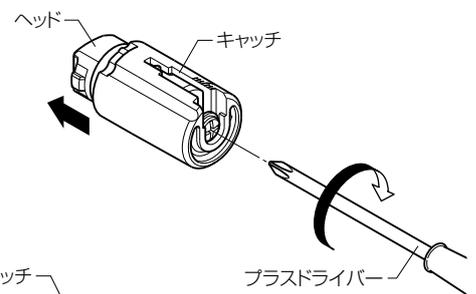
●天井と本体上端とのスペースが小さい場合は、キャッチを天井に押付けて、キャッチ全長を短くした状態で横に抜いてください。



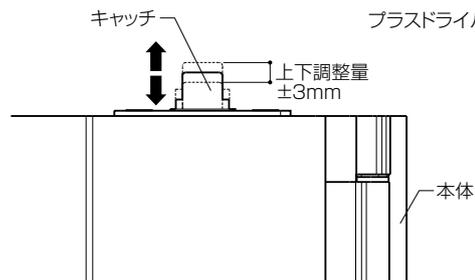
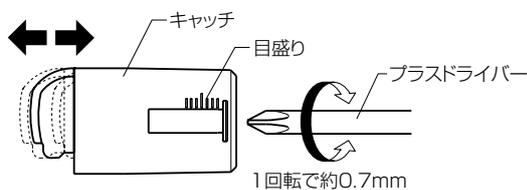
③キャッチ下面の調整ねじをプラスドライバーで回して調整してください。

※時計回りに回すとキャッチのヘッドが上がります。

●キャッチ力が弱いとき。	反時計回り
●キャッチにガタツキがあるとき。	
●キャッチ力が強いとき。	時計回り
●キャッチが上枠に当たり、本体を閉めることができないとき。	



※ねじ1回転で約0.7mm上下します。キャッチ側面の目盛りを目安にして調整してください。



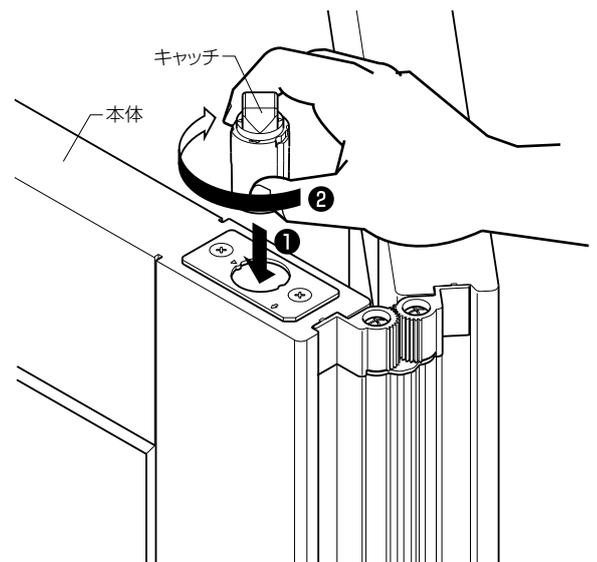
④キャッチを取付け穴に差込み、キャッチのヘッドを右に回してロックしてください。

※ヘッド取付け向きの間違い防止のため、押え板の突起の位置がずれています。押え板の突起の位置とキャッチの切欠きの位置を合せて差込んでください。

お願い

●必ず「カチッ」という手応えを感じるまで右に回してください。

キャッチのロックが不完全な場合、キャッチが破損する可能性があります。

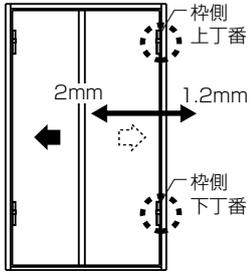


⑤本体を閉めて、キャッチの掛かりを確認してください。問題がある場合は①～④の作業を繰り返してください。

通風窓／丁番による建付け調整

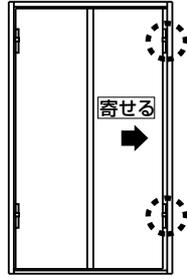
左右の調整

- 本体側上丁番および本体側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、吊元側に1.2mm、開き側に2.0mmです。



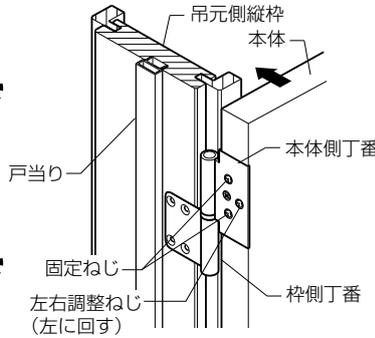
不具合例

- 1.本体同士が当たる。



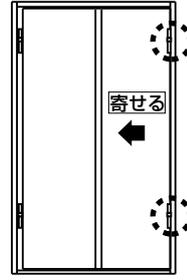
調整方法

- ①固定ねじを2カ所ゆるめる。
- ②左右調整ねじを左に回して本体を吊元側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



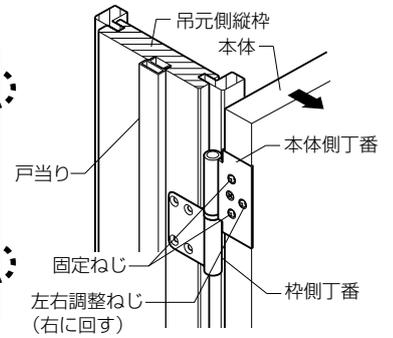
不具合例

- 2.召し合せのすき間が大きい。



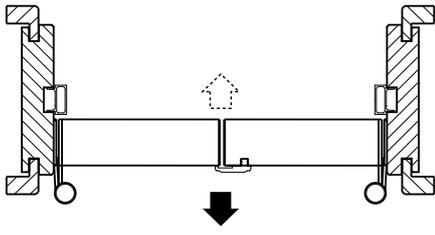
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②左右調整ねじを右に回して本体を開き側に移動し位置を決める。
- ③固定ねじを締める。



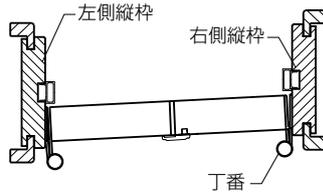
前後の調整

- 本体側上丁番および本体側下丁番の両方で調整します。
- 調整幅は、±2mmです。



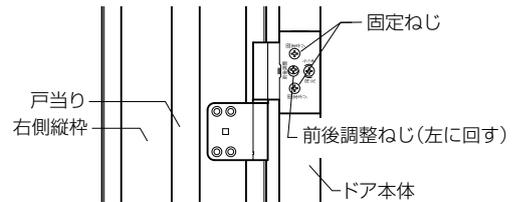
不具合例

- 1.左側の枠が前に出ている。



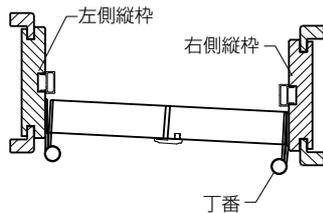
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを左に回して本体を前に移動させる。
- ③固定ねじを締める。



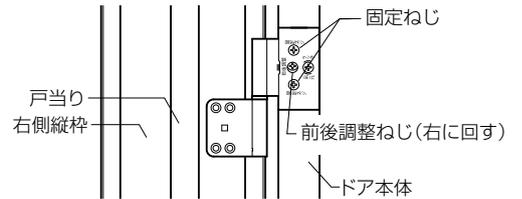
不具合例

- 2.右側の枠が前に出ている。



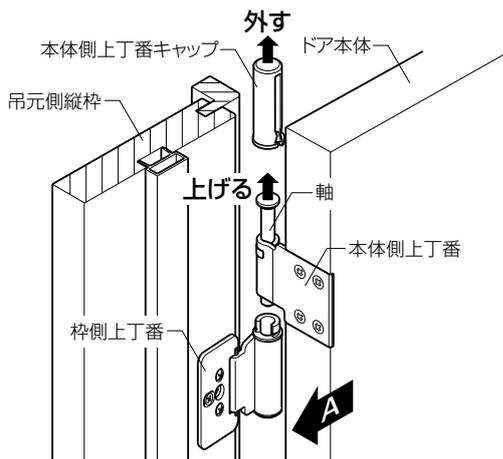
調整方法

- ①固定ねじをゆるめる。
- ②前後調整ねじを右に回して本体を後に移動させる。
- ③固定ねじを締める。

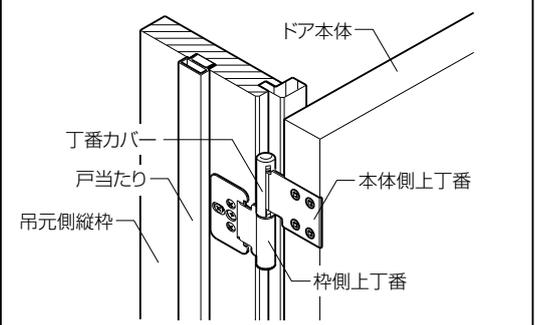


SL戸襖ドア／取外し方法

- ①本体側上と下の丁番キャップを上げます。
 - ②ドアを持ち上げて外します。(右図参照)
- ※枠などに当たってドアが外せない場合は、本体側上丁番のキャップを外し、軸を止まるまで上げてA方向にドアを外します。



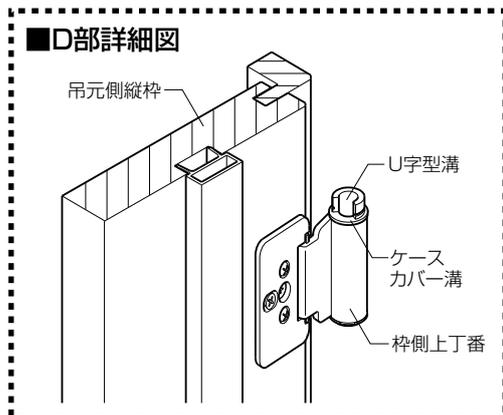
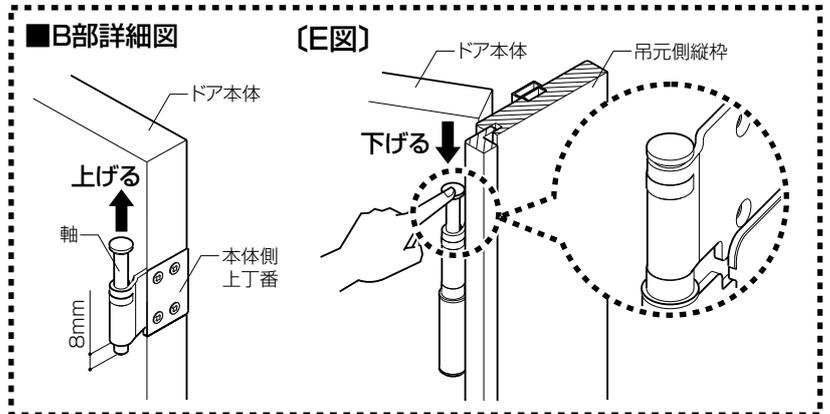
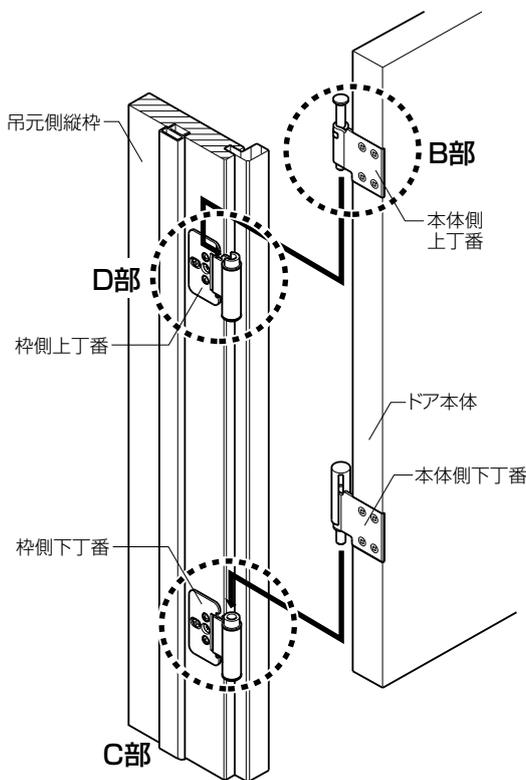
■取付け完成図



調整方法について

SL戸襖ドア／取付け方法

- ①本体側下丁番のカバーを上げます。
- ②本体側上丁番のカバーを外してください。
- ③本体側上丁番の軸を止まるまで上げます。(B部)
※軸は8mm程残した位置で止まります。
- ④本体側下丁番を枠側下丁番に差込みます。(C部)
※本体側下丁番の軸を垂直に差込んでください。
- ⑤本体側上丁番の軸を枠側上丁番のU字溝にはめ込み、ドア本体を吊込みます。
- ⑥本体側上丁番の軸を止まるまで下げてください。(E図)
- ⑦本体側上丁番のカバーを取付けます。
※枠側上丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。
- ⑧本体側下丁番のカバーを下げます。
※枠側下丁番のケースカバー溝にはめ込んでください。



SL和襖開き戸／扉の取外し・取付け方法

【扉の取外し方法】

- 扉側の丁番を止めているねじをゆるめて抜き取り 扉を外します。
※最初に下丁番、次に上丁番のねじをゆるめてください。

お願い

- 取外し、取付けは床に敷物を敷いて行ってください。
扉が床に当りキズを生じさせるおそれがあります。

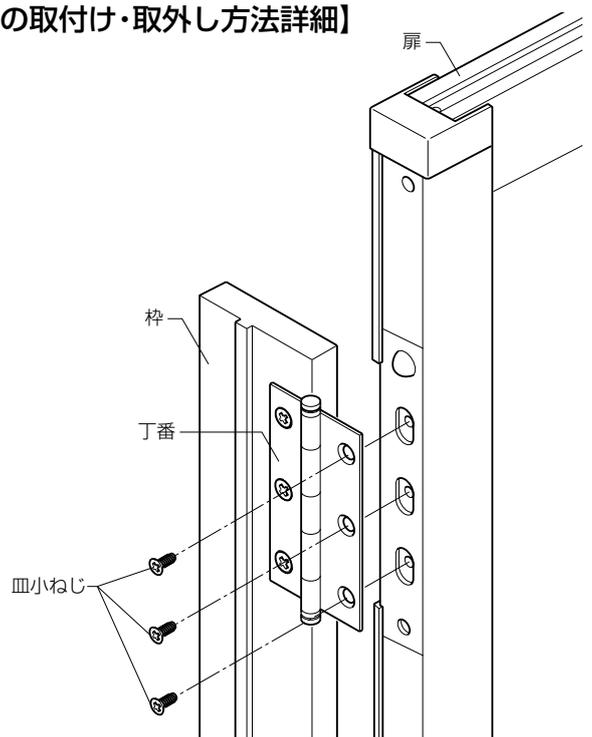
【扉の取付け方法】

- 枠に取付いている丁番に扉を取付けます。(右図参照)
※最初に上丁番、次に下丁番の順番で取付けてください。

お願い

- 取外し、取付けは必ず手回しドライバーを使用してください。
電動ドライバーを使用した場合 ねじが壊れるおそれがあります。

【扉の取付け・取外し方法詳細】



1 襖紙(シート)の張替えに必要なもの

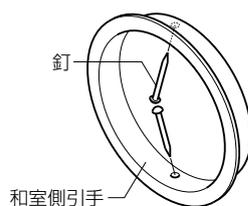
- ・鋼製定規(かね尺など)・カッター・ハケ又は乾いたタオル・ヘラ・マスキングテープ
- ・プラスドライバー・マイナスドライバー・水・必要幅の襖紙(シート)・市販の澱粉糊

2 現地張りタイプの場合

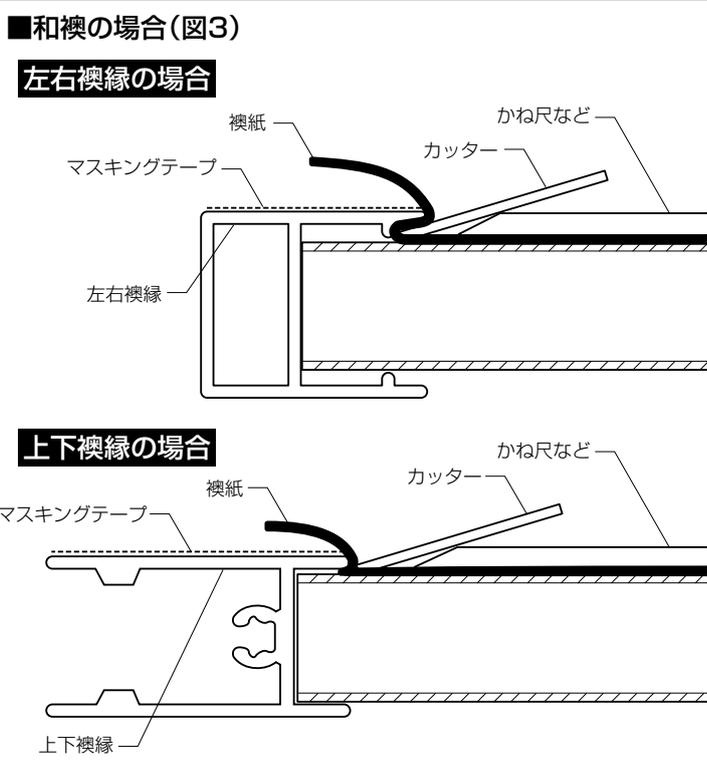
※現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から、上に張増しすることができます。

- ①扉を枠から外します。
- ②把手(又は引手)を取外します。
※戸襖引戸の場合は、釘で固定されているので、釘を抜いて和室側の引手を取外してください。(図1)
- ※和襖引戸の場合は、引手を手で引っ張って取外します。固い場合は、裏面から当て紙をしてマイナスドライバーで少しずつ持ち上げます。(図2)
- ③襖縁を養生するためマスキングテープを襖縁に張ってください。
- ④新しい襖紙を張ります。
●新しい襖紙を、上下・左右共に襖縁より10mmほど大きく裁断します。(予備切断)
- ⑤本体に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で付けます。
●位置を確認して襖に張付けます。しわが入った所は、もう一度はがして張りなおしてください。次に押えハケか、乾いたタオルで中央から上下左右へ空気を押出すように軽くこすってください。多少のしわやたるみは乾燥すれば直ります。
- ⑥襖縁に合わせて襖紙をカッターなどで切断します。
(本切断) 襖縁の内側いっぱいまで襖紙を折返し、かね尺などをガイドにしてカッターで切断してください。その際、下地をキズ付けないでください。キズが付くと縁がはずれて使用できなくなるおそれがあります。(図3)
- ⑦襖紙の切り代をヘラなどで襖縁の内側に押込んでください。(図4)
- ⑧扉を吊込んで把手を取付けてください。(引戸の場合は、引手を取付けてください。)(図5)

(図1)



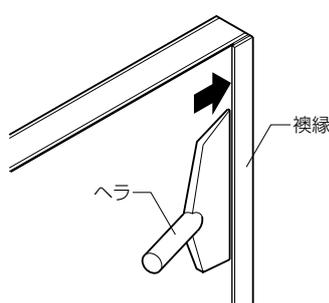
(図2)



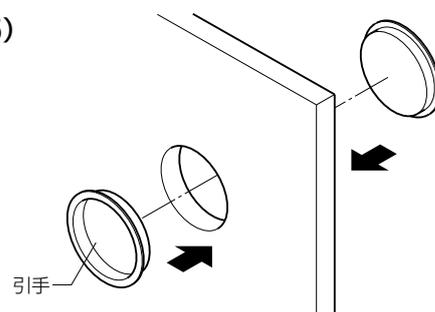
お願い

- 片面をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
- 両面現地張りタイプの場合は、両面とも同じ襖紙を張ってください。

(図4)



(図5)



調整方法について

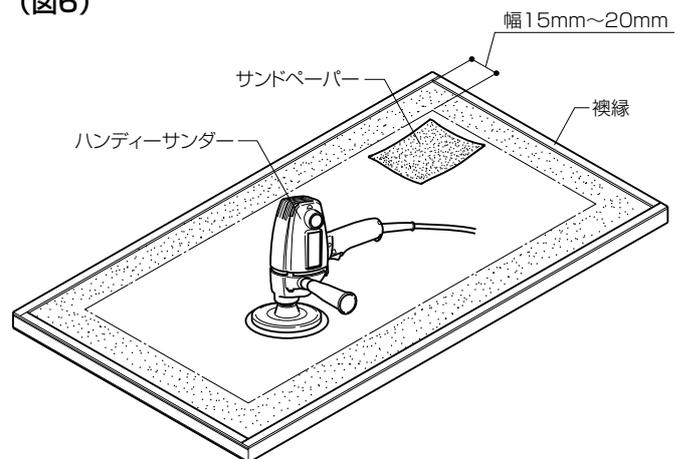
③既製襖タイプの場合

※襖柄シートですので、張替えは不要です。

破損などで張替えが必要な場合は、市販の襖紙での対応をおすすめします。

- ①扉を枠から外します。
- ②把手を取外します。(引戸の場合、引手を手で引張って外します。
固い場合は、裏面から当て紙をしてマイナスドライバーで少しずつ持ち上げます。)(図2)
- ③襖縁を養生するため、マスキングテープを2枚重ねて張ってください。
- ④糊の密着性を高めるため、襖柄シートのコーティング層と着色層をはくりします。
 - 襖縁の際からサンドペーパー(手作業)で、襖縁にキズを付けないようにして着色層まではくりします。
(幅15mm~20mmで行ってください。)
 - ハンディーサンダー等で襖柄シート全体のはくりをします。(図6)
 - サンドペーパーは100番~180番程度のものを使用してください。
 - はくりは着色層がなくなり、襖柄シート基材の紙が出てくるまで行います。
襖基材のペーパーハニカム(ダンボール)まではくりしないでください。
- ⑤襖表面に穴があいた場合は、周囲をマスキングテープで養生し、
穴うめ下地パテで基材(ペーパーハニカム)内部まですき間なく充てんし、平らにしてください。
- ⑥新しい襖紙を張ります。
 - 新しい襖紙を上下・左右共に襖縁より10mmほど大きく裁断します。
 - 市販の澱粉糊を襖全体に塗布してください。(糊は「ルーアマイルド」(ヤヨイ化学)をおすすめします。)
水との稀釈要領などについては説明書に従ってください。
 - 張りはじめに襖の柄が曲がらないようにしてください。
又、張りはじめに襖紙がよれると襖紙に負荷がかかり、はがれやすくなりますので慎重に行ってください。
 - ヘラを使い、余分な空気・糊を外に出して襖紙のしわを取除いてください。
 - 襖紙の密着をよくするため、全体をまんべんなく押えます。
- ⑦襖縁に合わせて襖紙をカッターなどで切断します。
(本切断)襖縁の内側いっぱいまで襖紙を折返し、かね尺などをガイドにしてカッターで切断してください。
その際、下地をキズ付けないでください。キズが付くと縁がはずれて使用できなくなるおそれがあります。(図3)
- ⑧襖紙の切り代をヘラなどで襖縁の内側に押し込んでください。(図4)
- ⑨扉を吊込んで把手を取付けてください。(引戸の場合は、引手を取付けてください。)(図5)

(図6)



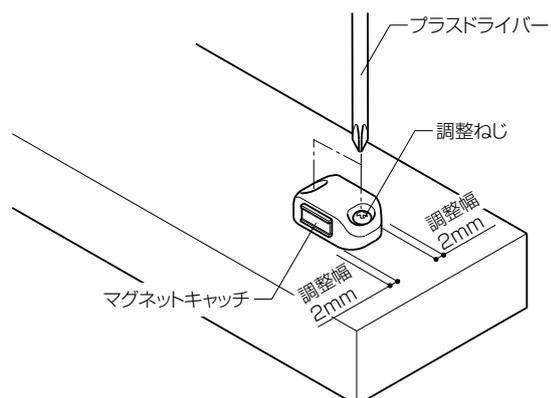
お願い

- 片面をクロス張りにしないでください。
ソリが生じます。

SL和襖開き戸/マグネットキャッチによる建付け調整

■前後調整(調整幅±2mm)

- マグネットキャッチが扉をキャッチしない場合、プラスドライバーで調整ねじをゆるめて、マグネットを前後させてください。



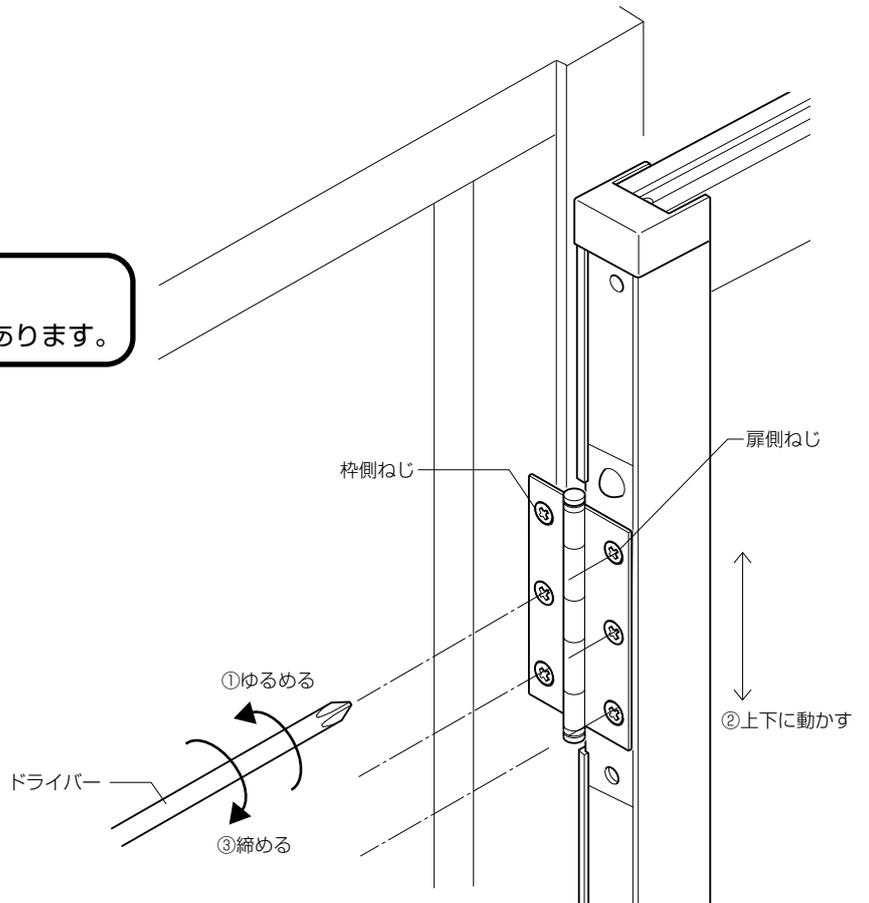
SL和襖開き戸建付け調整

■上下調整（調整幅±3 mm）

- ①扉側の丁番を止めているねじを半回転～1回転回しゆるめます。
※枠側のねじはゆるめません。
- ②扉を手で上下に動かし 適した高さに合せます。
- ③ゆるめたねじを すべて締めます。

お願い

- 調整は床に敷物を敷いて行ってください。
扉が床に当りキズを生じさせるおそれがあります。



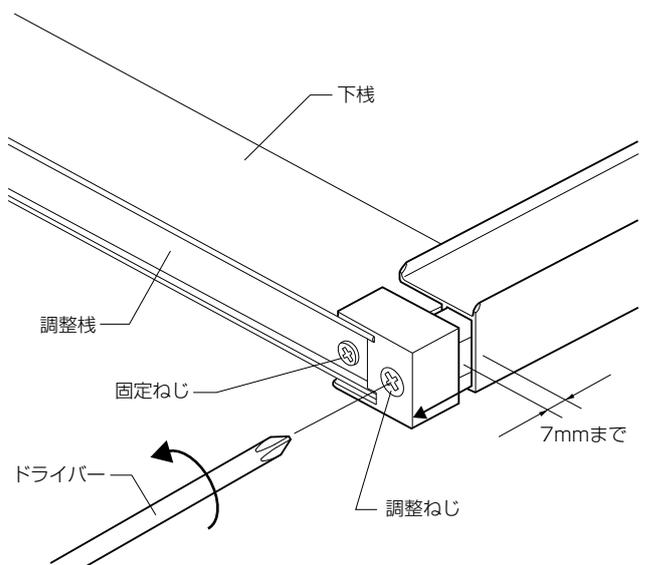
SL和襖引戸建付け調整

■上下調整（調整幅+7 mm）

- ①扉を枠から外します。
 - ②扉を寝かせ 扉下面の左右角にある調整ねじを回します。
※内寄りにある固定ネジはゆるめません。
 - ③ねじを左に回すと下棧より調整棧が出てきます。（7mmまで）
適した高さになるよう調整します。
- ※左右の調整ねじの一方だけを回し続けしないでください。
左右交互に1回転ずつ回すことで スムーズに調整棧が出入りします。
ねじの回転が固くなったら それ以上 回さないでください。
- ④扉を枠に戻します。

お願い

- 調整は必ず手回しドライバーを使用してください。
電動ドライバーを使用した場合 ねじが壊れるおそれがあります。



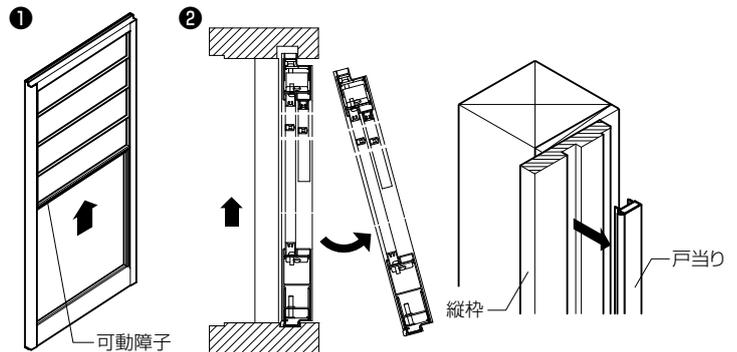
調整方法について

SL上げ下げ障子／扉の取外し・取付け方法

●サッシ・網戸のお手入れや障子張り替えの際には下記要領で本体を外してください。

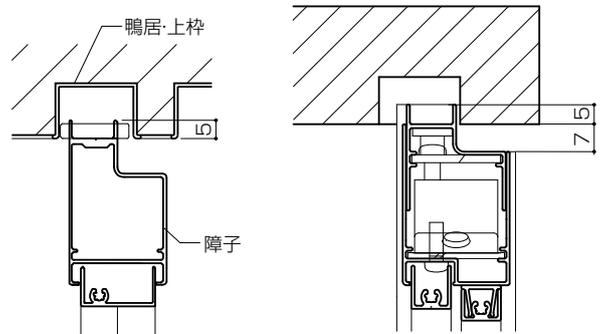
■取外し方法

- ①可動障子を開けます。
※一番上まで可動障子を上げた状態で作業してください。
- ②中棧・下棧を持ち、本体を持ち上げて下棧を下枠から外します。
※取付けは取外し方法と逆の手順にて行ってください。
下棧溝に本体が入っていることを確認してください。
※網戸のお手入れがしにくい場合は、縦枠に取付いている戸当りも外してください。
お手入れ後は、元通り縦枠溝に戸当りをはめ込んでください。



SL和障子／建付け調整

- ご使用中に建付けにくいが生じることがありますので(定期的な点検し)下記の方法で建付けの調整をしてください。
- ※上げ下げ障子以外の障子の鴨居・上枠へのかかりは5mm以上確保してください。かかりが少ないと障子の外れにつながります。(図1)
- ※上げ下げ障子は、上枠と上棧のチリを7mm以内にしてください。(図2)



上げ下げ障子以外(図1)

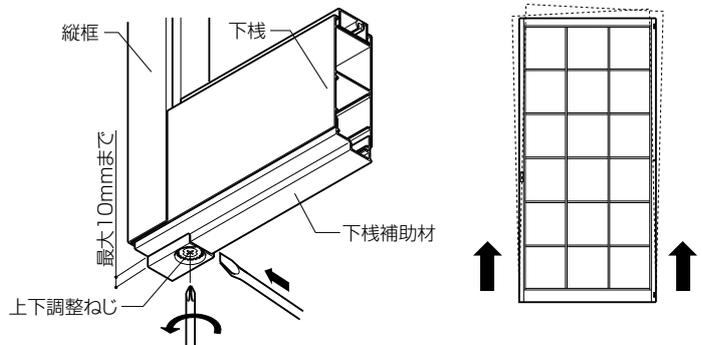
上げ下げ障子(図2)

■上下方向の建付け調整

- ※本体下棧・上棧には調整機能がついています。
本体の戸首の鴨居・上枠へのかかりが少ない場合に調整します。
- ※紙貼障子には本体上棧の調整機能はありません。

●本体下棧で調整する場合

- 調整量は+10mm、-0mmです。
- ・本体を外し、下棧の底の上下調整ねじをプラスドライバーで左に回します。
 - ※一度調整ねじを回せば、その後は本体を吊り込んだまま調整可能です。
その場合は、本体を少し持ち上げ、上下調整ねじのダイヤルをマイナスドライバーで回します。
 - ※上げ下げ障子は、本体を外して調整してください。

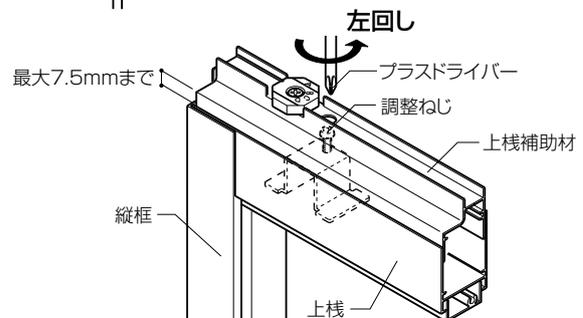


●本体上棧で調整する場合

調整量は+7.5mm、-0mmです。

・猫間障子の場合

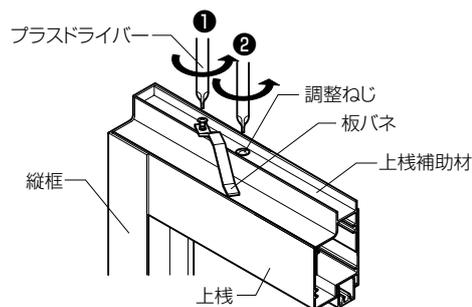
- 上棧調整ねじ穴に、プラスドライバーを差し込んで左に回します。



・ 上げ下げ障子の場合

①上棧に付いている板バネのねじをゆるめ、板バネをズラします。
 ※ねじを外してしまうと上棧補助材に取付けてある接続金具が抜け落ちてしまうため外さないでください。

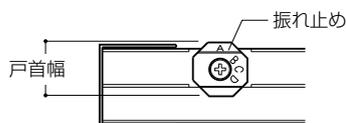
②上棧調整ねじ穴に、プラスドライバーを差込んで左に回します。



■戸首の鴨居溝内部のガタツキ調整

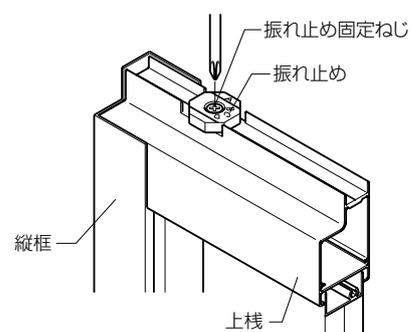
※上げ下げ障子にはガタツキ調整機能はありません。

●溝内部で戸首のガタツキが大きい場合に調整します。上棧上部の振れ止め固定ねじをプラスのドライバーでゆるめ、振れ止めの八角面を回転させて調整します。八角面を決めたら、面を上棧と平行にして、固定ねじで締付けます。



(単位 mm)

八角面	戸首幅
A面	19.5
B面	20
C面	20.5
D面	21



調整方法について

SL紙貼障子／障子紙の張替え方法

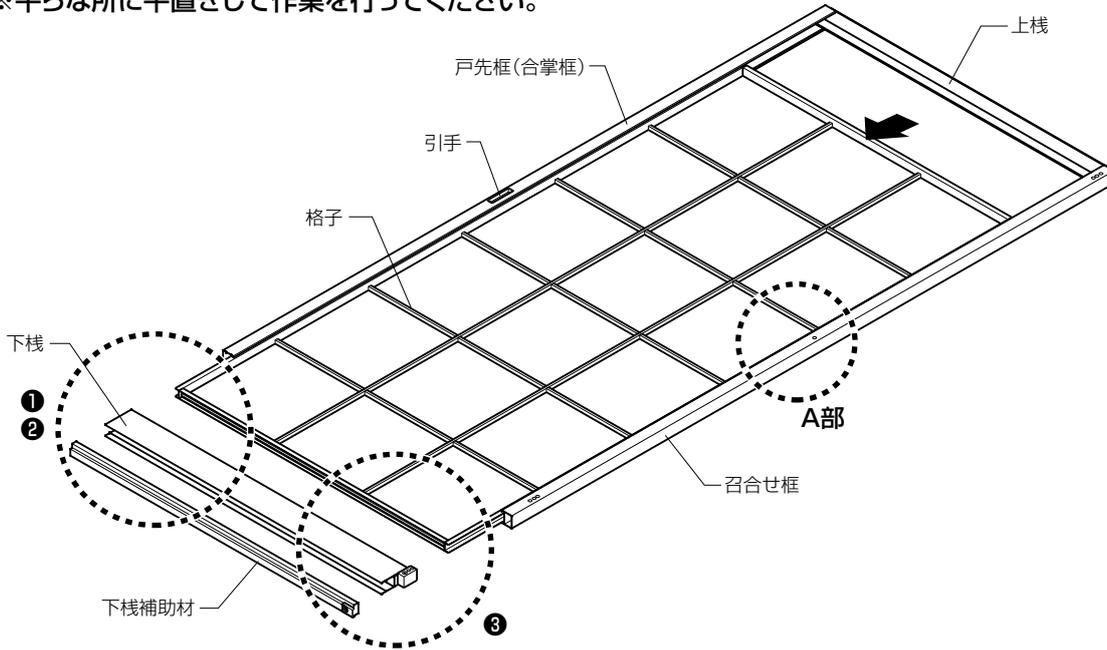
お願い

- 市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。
- 市販の澱粉糊又は有償部品として用意している「張替え用のり」以外は使用しないでください。表面の樹脂シートが傷みます。

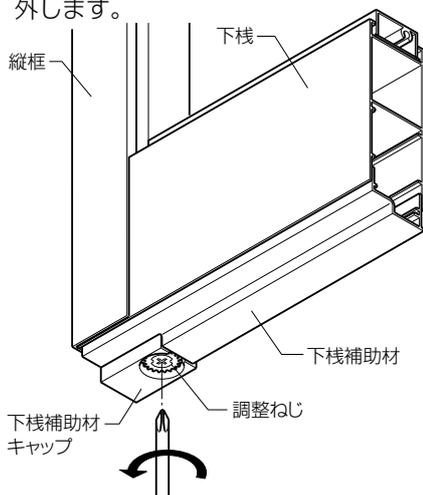
■障子紙の張替えに必要な物

- ・必要幅の障子紙 ・当社設定の有償部品の糊又は市販の澱粉糊
- ・カッター ・ハケ ・プラスドライバー ・水

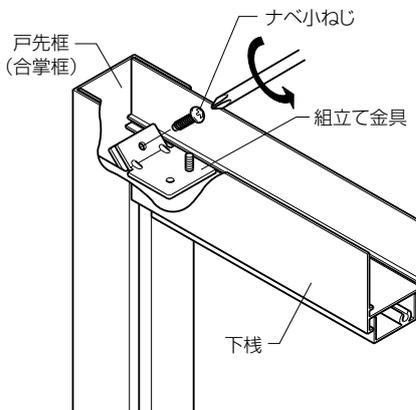
※平らな所に平置きして作業を行ってください。



①下棧の底の調整ねじを左に回してゆるめ、下棧補助材キャップと下棧補助材を外します。



②下棧の戸先框側についている組立てねじ(ナベ小ねじ)を外します。



③下線を縦框から真下に引抜きます。

④格子を縦框から真下に引抜きます。

⑤障子紙を裏面から、水分を含ませたハケなどで十分にしめらせ、下の方から静かに棒で巻取ると簡単にはがせます。

※ヘラ、カッターなどで削り落とすと、格子を傷めるのでおやめください。

紙や糊の残りがあるときは、やわらかいスポンジに水分を十分ふくませふき取ってください。

⑥市販の澱粉糊で、障子紙を張ります。

紙は格子より10mm程度大きく張ってください。(図1)

※障子に結露が発生する場所でご使用になる場合には、結露水による紙のハガレ防止のため、有償部品「張替え用のり」の使用をおすすめします。

※有償部品として、張替え用の「障子紙(強化和紙)」も用意してあります。

※澱粉糊又は、「張替え用のり」以外は、使用しないでください。表面の樹脂シートが傷みます。

※市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。

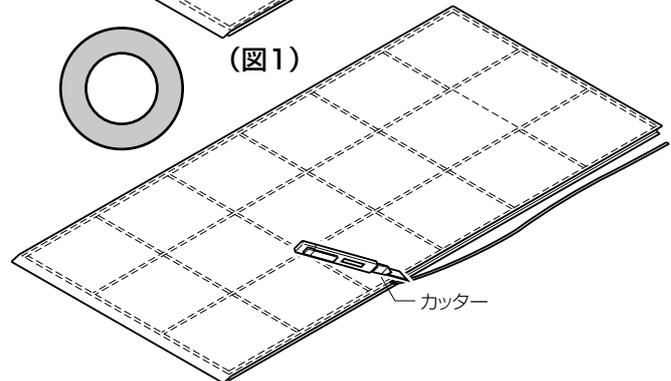
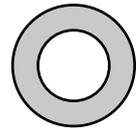
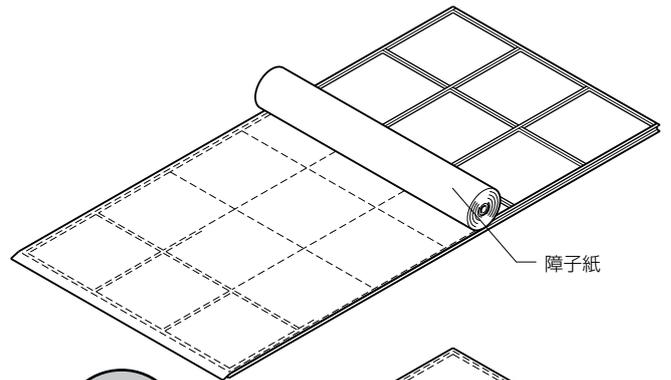
⑦格子の角にカッターをあてて紙を切断します。(図2)

※格子の見付け部分にカッターをあてると、格子にキズが付くのでおやめください。(図3)

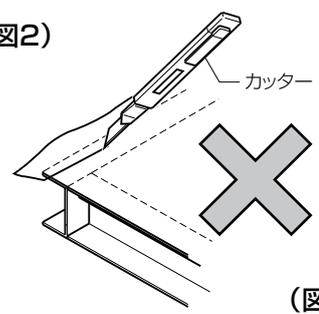
⑧格子を縦框の下から差込みます。

※召合せ框側の向きを必ず合わせて差込んでください。

⑨下線を縦框に差込み、①②で外したねじを取付けます。下線補助キャップと下線補助材を下線に取付け、調整ねじを締めます。



(図2)



(図3)

調整方法について

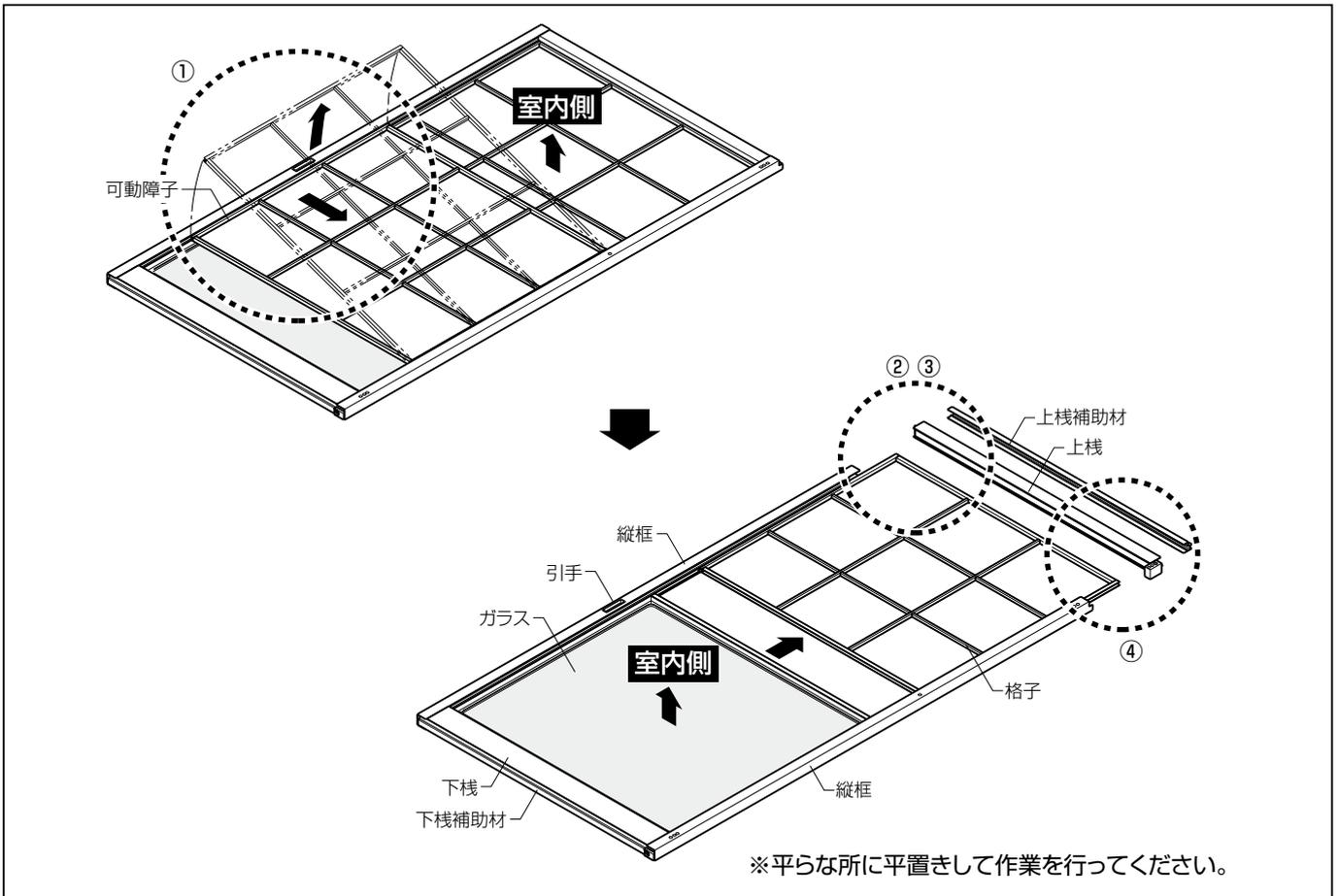
SL猫間障子・上げ下げ障子／障子紙の張替え方法

■障子紙の張替えに必要な物

- ・必要幅の障子紙
- ・当社設定の有償部品の糊又は市販の澱粉糊
- ・カッター
- ・ハケ
- ・プラスドライバー
- ・水

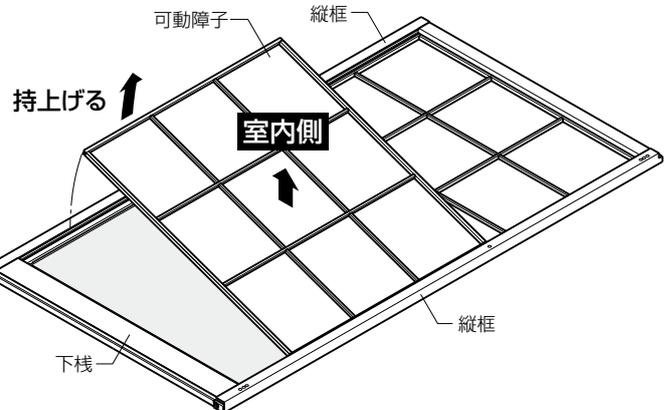
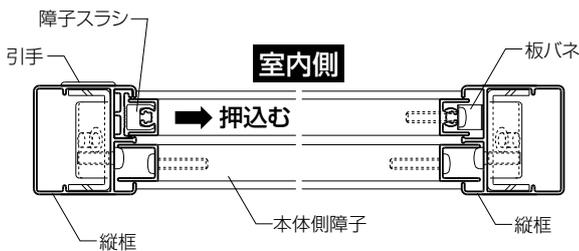
■障子紙のお願い

- 市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。
- 市販の澱粉糊又は有償部品として用意している「張替え用のり」以外は使用しないでください。表面の樹脂シートが傷みます。



- ①可動障子を格子面から見て右側に押し込み、持上げて外します。
 ※可動障子の障子紙を張替える場合は、⑤以降を参照してください。

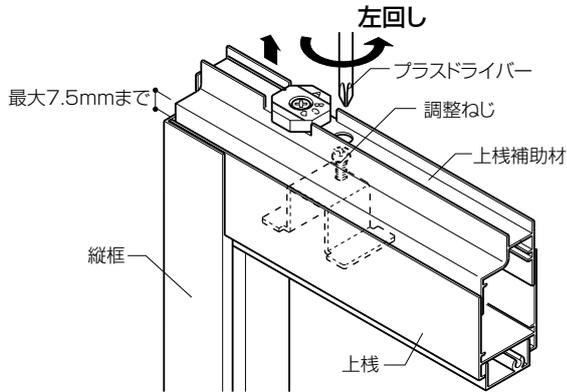
■本体下部からの見上げ図



- ②上棧補助材を外します。

・猫間障子の場合

- ①上棧補助材の調整ねじを左に回して緩め、上棧補助材を外します。



- ③上棧の戸先框側に付いている組立てねじ（ナベ小ねじ M4×10）を外します。

- ④上棧を縦框から真上に引抜きます。

- ⑤障子紙を裏面から、水分を含ませたハケなどで十分にしめらせ、下の方から静かに棒で巻取ると簡単にはがせます。

※ヘラ・カッターなどで削り落とすと格子を傷めるのでおやめください。

紙や糊の残りがあるときは、やわらかいスポンジに水分を十分含ませふき取ってください。

- ⑥市販の澱粉糊で、障子紙を張ります。紙は格子より10mm程度大きく張ってください。(図1)

※障子に結露が発生する場所でご使用になる場合には、結露水による紙のハガレ防止のため、有償部品「張替え用のり」の使用をおすすめします。

※有償部品として、張替え用の「障子紙(強力和紙)」も用意してあります。

※澱粉糊又は、「張替え用のり」以外は使用しないでください。表面の樹脂シートが痛みます。

※市販のアイロンで張るタイプの障子紙は使用しないでください。表面の樹脂シートが溶けるおそれがあります。

- ⑦格子の角にカッターをあてて紙を切断します。(図2)

※格子の見付け部分にカッターをあてると、格子にキズが付くのでおやめください。(図3)

- ⑧格子を縦框の上から差込みます。

※縦框と格子に付いている金具どうしがかみ合うように差込んでください。

※可動障子を取付ける際は、可動障子に左右がありますので、取外したときと同じ向きに取付けます。

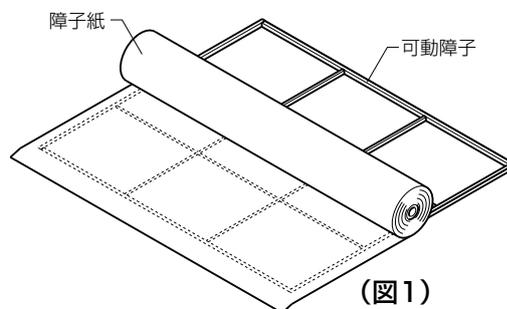
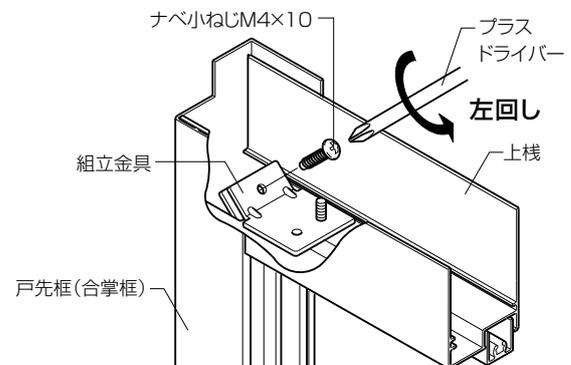
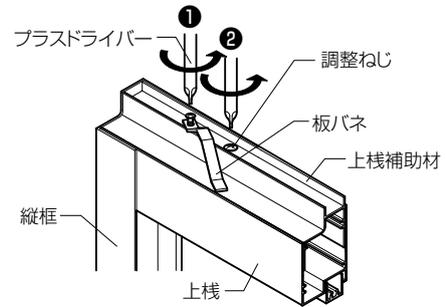
取付け後、可動障子が外れていないことを必ず確認してください。

- ⑨上棧を縦框に差込み、②③で外したねじを取付けます。上げ下げ障子は②で緩めた板パネのねじを固定します。上棧補助材を上棧に取付け、調整ねじを締めます。

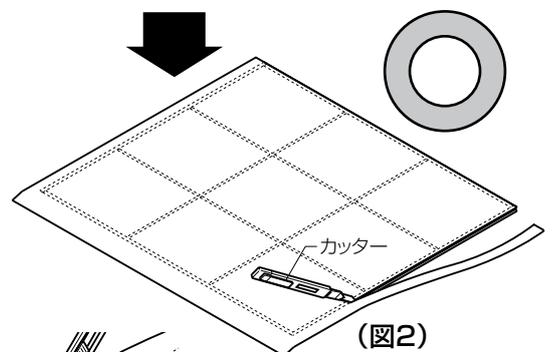
・上げ下げ障子の場合

- ①上棧に付いている板パネのねじを緩め、板パネをずらします。※ねじを外してしまうと上棧補助材に取付けてある接続金具が抜け落ちてしまうため外さないでください。

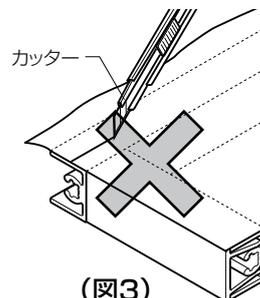
- ②上棧補助材の調整ねじを左に回して緩め、上棧補助材を外します。



(図1)



(図2)



(図3)

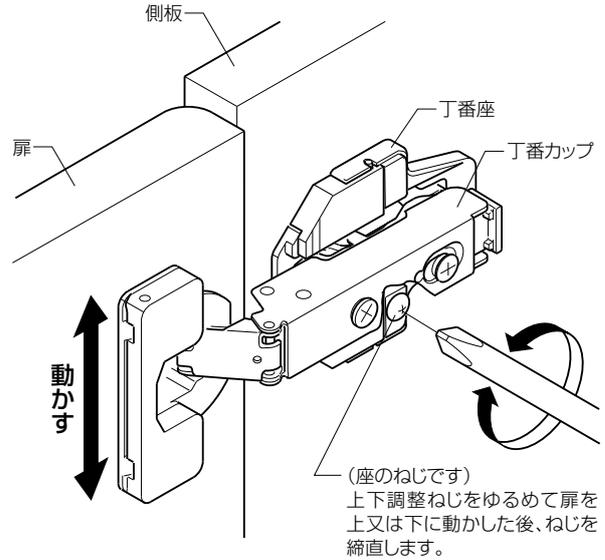
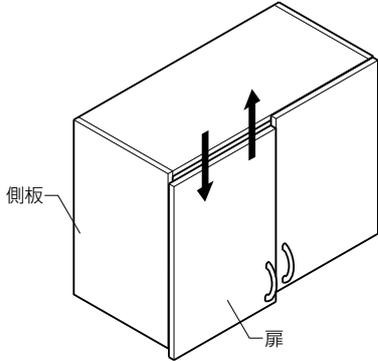
調整方法について

クローゼットすっきりタイプ / 収納開き扉 / スライド丁番による建付け調整

■上下調整

【調整範囲】

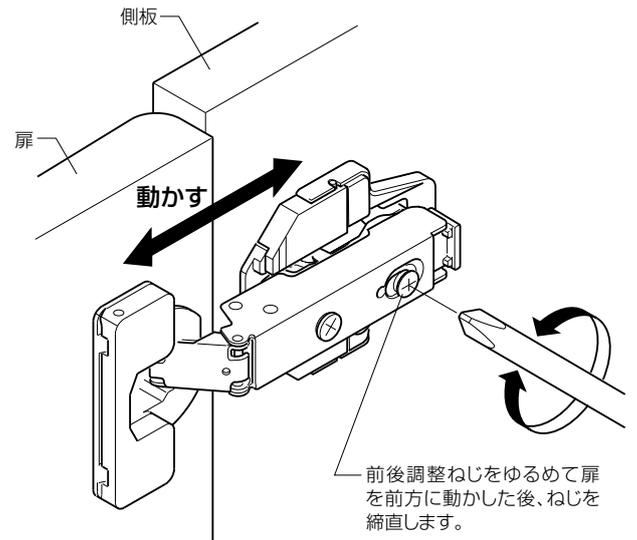
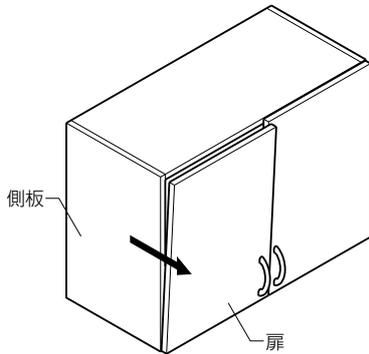
	クローゼット 開き戸	玄関収納・システム収納・ タスボックス・下駄箱	クローゼット すっきりタイプ
上方向	1.5mm	1.5mm	1.5mm
下方向	1.5mm	1.5mm	1.5mm



■前後調整

【調整範囲】

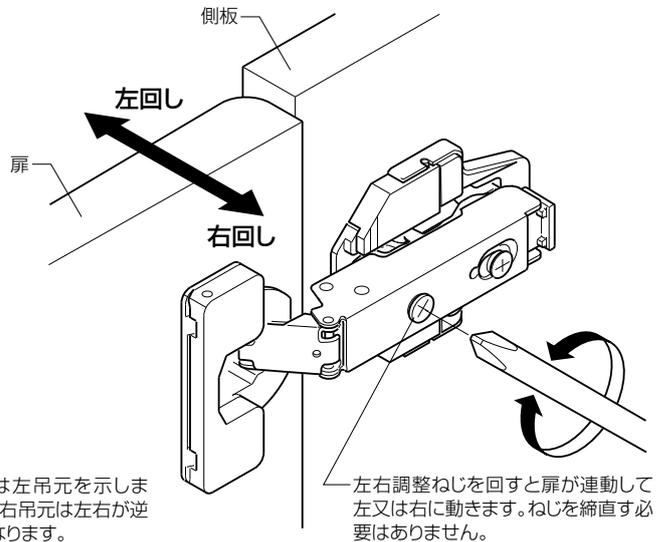
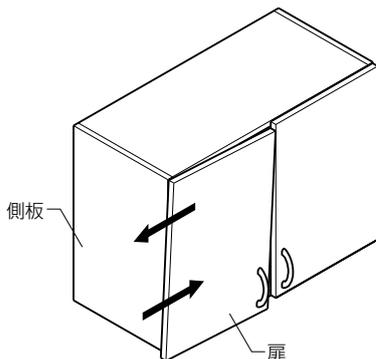
	クローゼット 開き戸	玄関収納・システム収納・ タスボックス・下駄箱	クローゼット すっきりタイプ
前方向	2mm	2mm	2mm
後方向	1mm	1mm	1mm



■左右調整

【調整範囲】

	クローゼット 開き戸	玄関収納・システム収納・ タスボックス・下駄箱	クローゼット すっきりタイプ
扉内方向	2mm	2mm	2mm
扉外方向	2mm	2mm	2mm



※図は左吊元を示します。右吊元は左右が逆になります。

WLクローゼット(開き戸)・システム収納(ボックスタイプ)／開き戸ダンパーの閉まり調整

■開き戸ダンパーの調整

※開き戸ダンパーの調整は、本体が閉まりきらない場合に実施してください。

(閉まりきらない場合、ダンパーを後ろへ調整します。)

●開き戸ダンパー後部の調整ねじを手でまわし、調整してください。

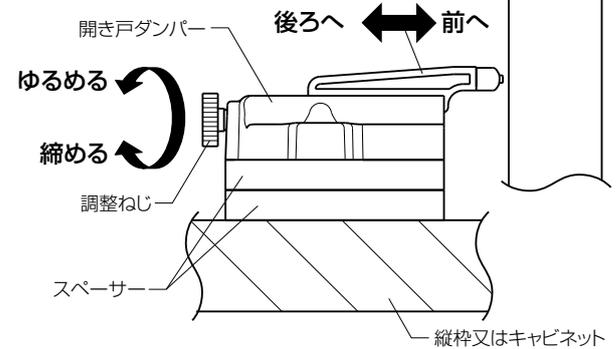
※調整ねじを締めると前へ、ゆるめると後へ動きます。

●調整範囲

前方向1.5mm

後方向2mm

(合計3.5mm)



お願い

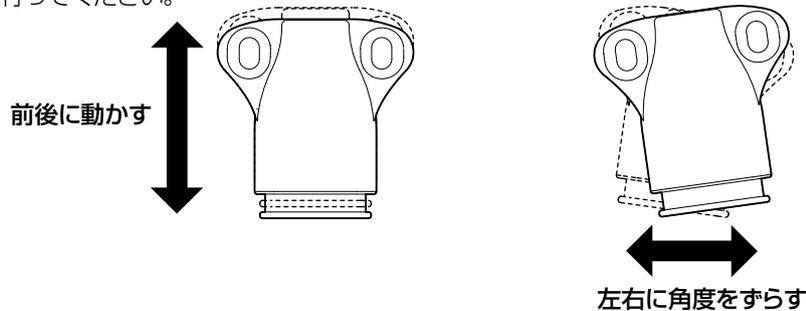
●開き戸ダンパーを前に移動しすぎると、本体が閉まりきらなくなることがありますのでご注意ください。

●調整ねじは必ず手でまわしてください。又、ゆるめる方向に範囲をこえて、無理に調整ねじをまわさないでください。調整ねじが破損するおそれがあります。

システム収納把手なし(プッシュオープン)扉の調整方法

●キャビネット側の部品(ラッチ)を動かし、仮締めのまま何度か開閉し、ラッチが掛かる位置でねじを固定してください。

※必ず扉を調整した後に行ってください。

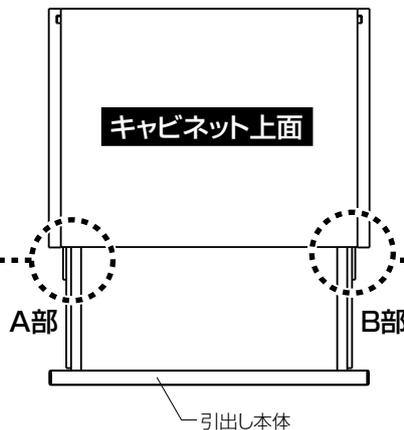
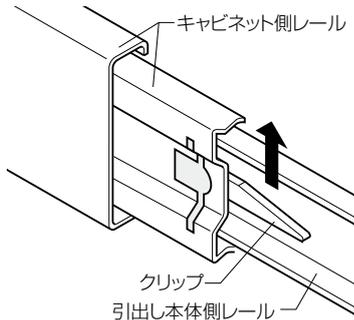


システム収納／タスボックス 引出し・引出し (ランドリー用)・スライド棚・スライドランドリーバーの取外し方法

●引出し本体側レールのクリップを操作し、取外します。(クリップは、左右同時に操作してください。)

■A部(引出し左側のレール)

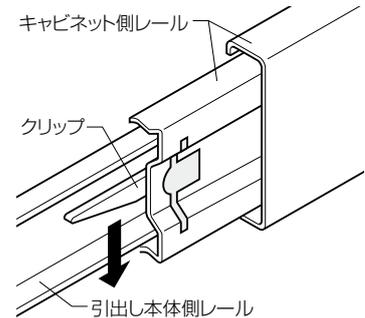
※クリップを押上げると引出し本体側レールが外れます。



※図は引出しの場合を示す。

■B部(引出し右側のレール)

※クリップを押下げると引出し本体側レールが外れます。

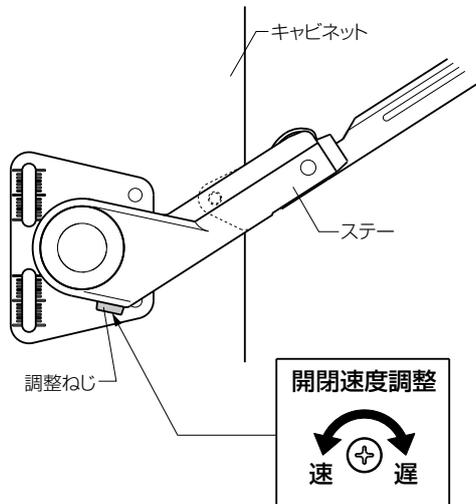


調整方法について

システム収納ステー付扉の開閉速度調整方法

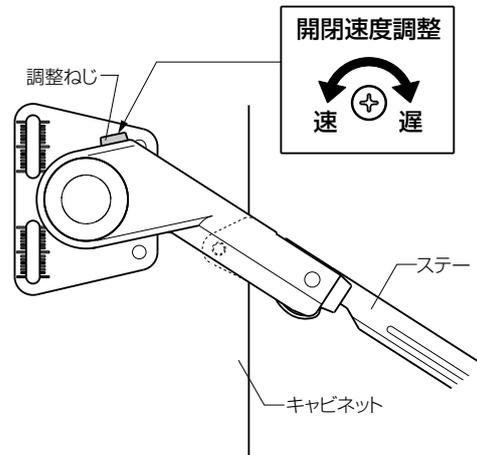
■フラップ扉(上に開く扉)の場合

- 調整ねじを右に回すと閉じる速度が遅くなります。
左に回すと閉じる速度が速くなります。



■TV台扉(下に開く扉)の場合

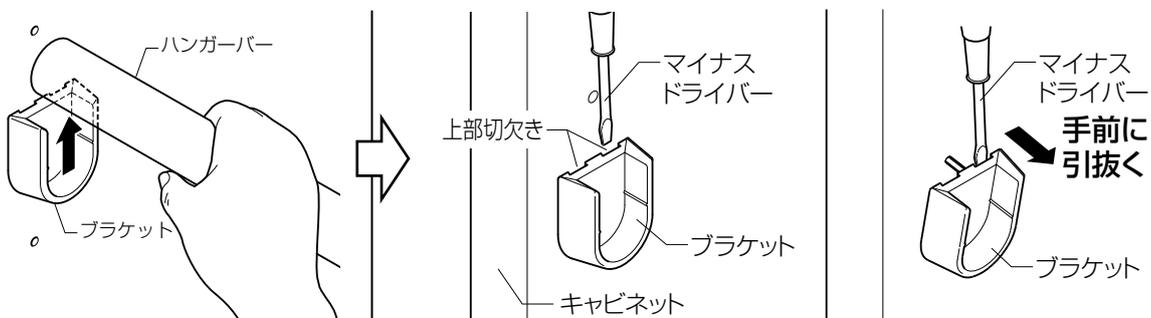
- 調整ねじを右に回すと開く速度が遅くなります。
左に回すと開く速度が速くなります。



タスボックスハンガーバーブラケット位置の変更方法

■タスボックスハンガーバー位置変更

- ①ハンガーバーを上を持ち上げ、ブラケットから抜きます。
- ②ブラケット上部切欠きにキャビネットを傷付けないようにマイナスドライバーを差し込み、手前に引抜いて外してください。
- ③ブラケットをお好みの位置に差込んでください。
※左右のブラケットが水平になるように取付けてください。
- ④ハンガーバーをブラケット奥まで押し込んでください。



システム収納可動キャビネット移動方法

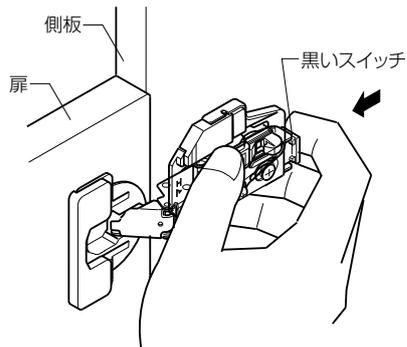
※この作業は必ずお取扱いの施工店・工務店・販売店にお願いしてください。

①扉・引出しの取外し

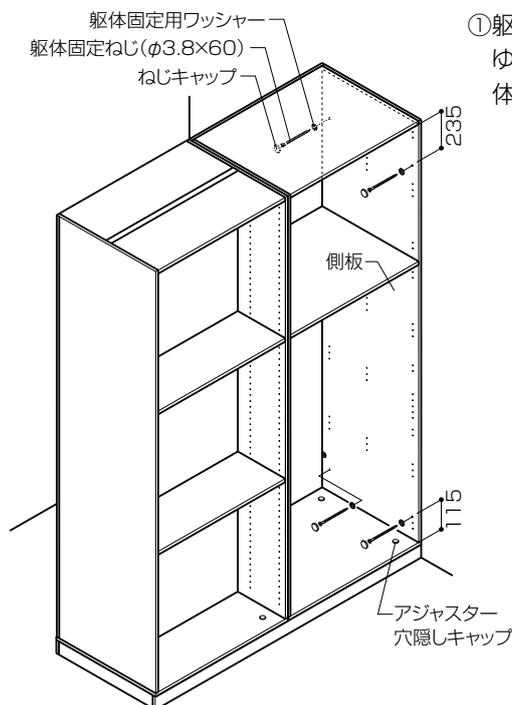
お願い

- キャビネットの中の収納物は、全て取出し、扉は全て取外してから移動させてください。
- ※扉は丁番カップの黒いスイッチを押して、取外してください。

引出しの取外しについては、P.50を参照してください。



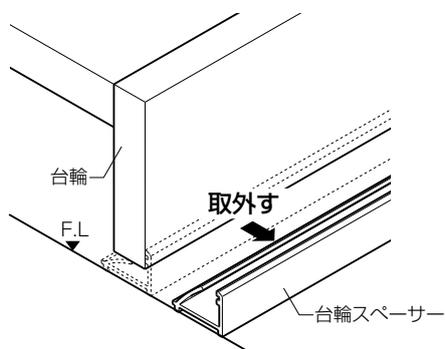
②キャビネットの躯体からの取外し



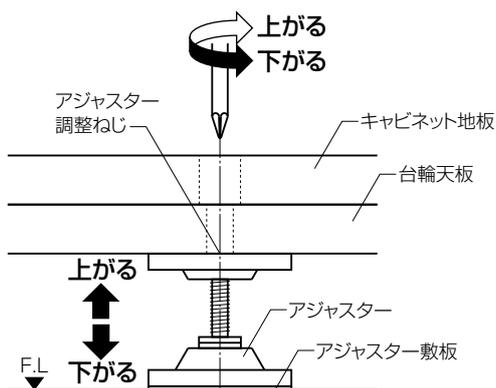
- ①躯体固定ねじ(4カ所)をゆるめ、キャビネットを躯体から取外します。

③キャビネットの移動

- ①台輪スペーサーを取外します。



- ②すべてのアジャスター穴隠しキャップを取外し、すべてのアジャスター調整ねじを左に回し、キャビネットを下げて、すべてのキャスターを床に接地させ、設置場所までユニットを移動させます。
- ③すべてのアジャスター調整ねじを右に回し、ユニットを床面に固定してください。



④キャビネットの躯体への再固定

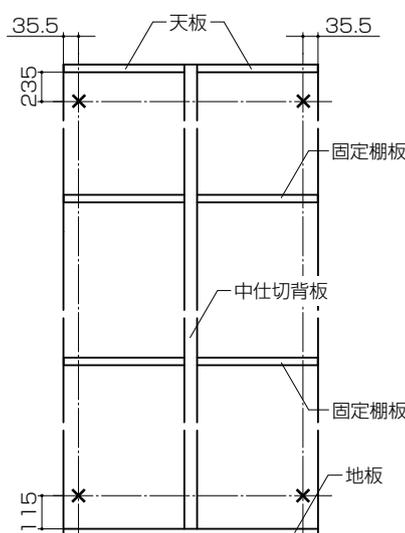
※固定する位置に硬木の棧木があることを確認してください。棧木が石こうボードなどで確認できない場合は、石こうボードをはがして棧木位置を確認してください。棧木がない場合は、棧木(厚さ24mm×60mm以上の硬木を必ず取付けてください。)

- ①水準器・下げ振り等で確認しながら、アジャスター調整ねじでユニットが水平・垂直になるように調整してください。
- ②②で取外した躯体固定ねじ(φ3.8×60)で壁面(躯体)に固定してください。

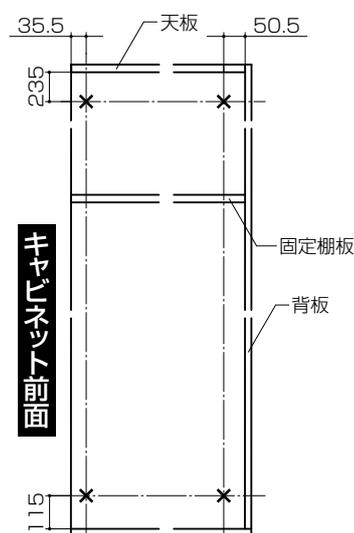


■キャビネット壁面(躯体)固定位置(×:固定位置)

【両面の場合】



【片面の場合】



キャビネット正面

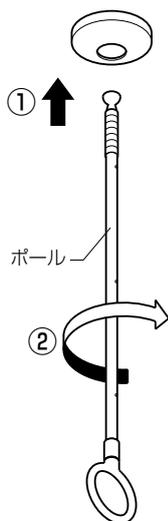
調整方法について

室内物干し 天井付けタイプ / ポールの着脱・長さ調整方法

■ポールの着脱方法について

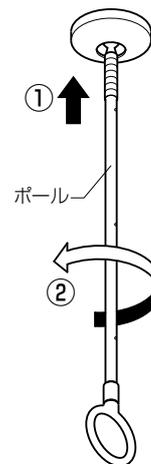
●取付け

- ①ポールを軽く上に押し当てます。
- ②右に回すとキャッチ部品が閉じ、ポールが保持されます。



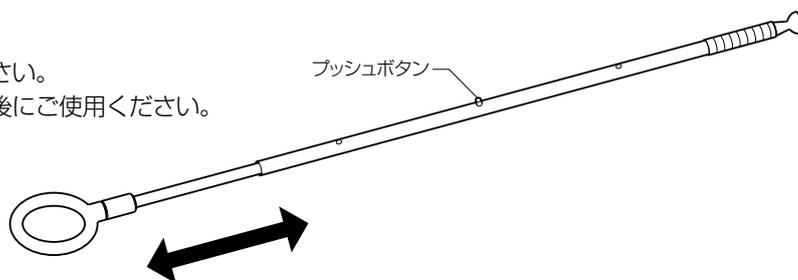
●取外し

- ①ポールを軽く上に押し当てます。
- ②左に回すとキャッチ部品が開き、ポールが取外せます。



■ポールの長さ調整方法について

- ①調整は必ずポールを取外し、手元で行ってください。
- ②ポールのプッシュボタンを押して、伸縮させてください。
- ③調整後は、ポールが固定されていることを確かめた後にご使用ください。

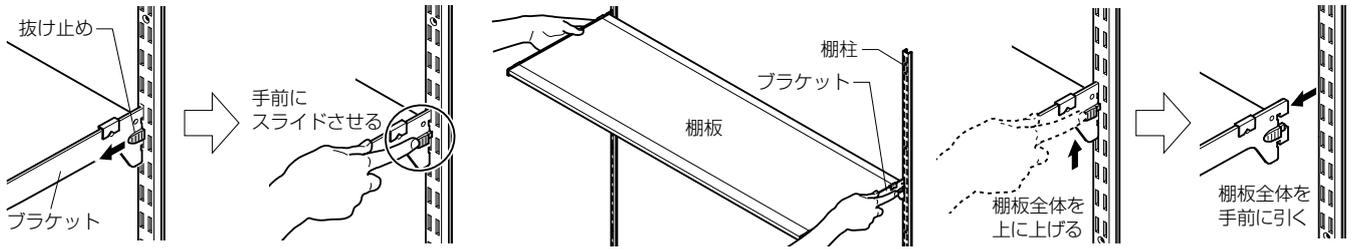


※長さ調整は460mm、550mm、640mmの3段階になります。

すっきり棚の棚板位置変更方法

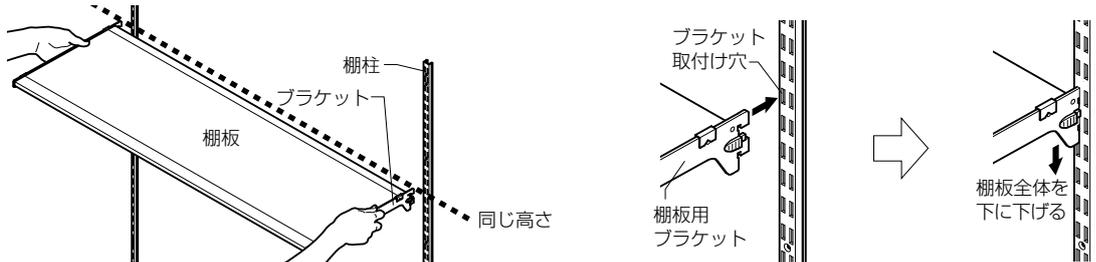
■棚板の取外し方法 ※イラストは樹脂棚板ですが、木製棚板も手順は同じです。

- ①ブラケット抜け止めを手前にスライドさせます。 ②抜け止めをスライドさせたまま、棚板の両端（ブラケット部）を手で持ち、棚板全体を上へ上げて手前に引いて棚柱から棚板を取外します。



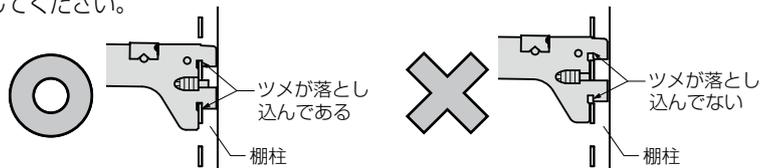
■棚板の取付け方法

棚板両端（ブラケット部）を手で持ち、棚柱のブラケット取付け穴に両端の棚板用ブラケットを同時に差込み、棚板全体を下へ下げて固定します。



※必ず2本の棚板用ブラケットが同じ高さになるように設置してください。

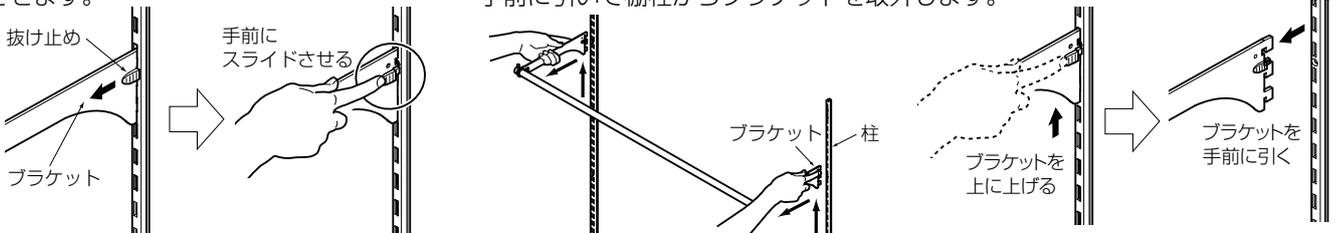
※ブラケット取付け穴に棚板用ブラケットのツメを落とし込んで棚板が外れないことを確認してください。



すっきり棚のパイプ位置変更方法

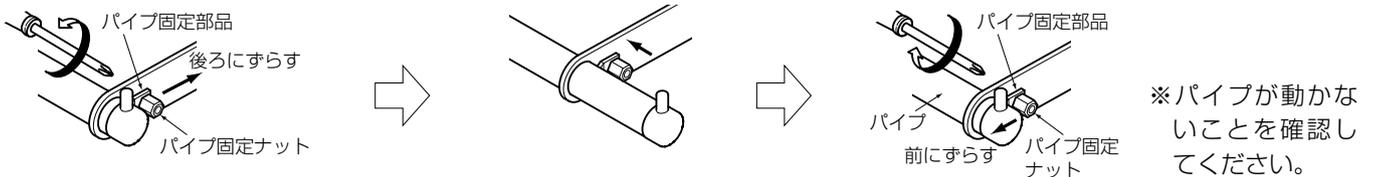
■パイプの取外し方法

- ①ブラケットの抜け止めを手前にスライドさせます。 ②抜け止めをスライドさせたまま、両側のブラケットを上へ上げ、手前に引いて棚柱からブラケットを取外します。



■ブラケットの固定幅変更方法

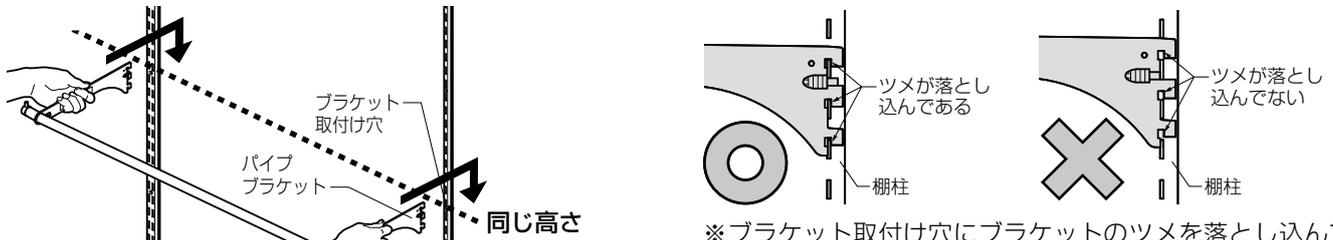
- ①パイプ固定ナットを手で押さえながら、ドライバーでねじを緩めパイプ固定部品を後ろにずらします。 ②ブラケットの固定位置を決めます。 ③パイプ固定部品を前にずらしてパイプに押し当て、パイプ固定ナットを手で押さえながら、ドライバーでねじを締めてパイプを固定します。



※パイプが動かないことを確認してください。

■パイプの取付け方法

取付け位置を決め、棚板のブラケット取付け穴に両端のブラケットを同時に差込み、全体を下へ下げて固定します。



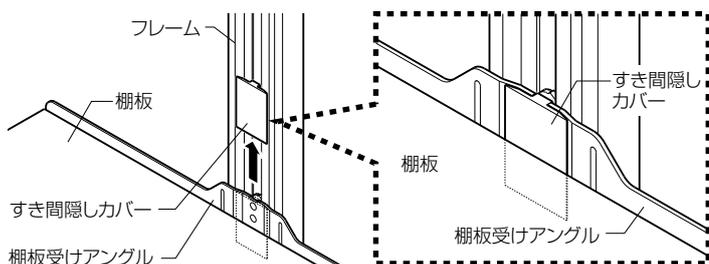
※必ず2本のブラケットが同じ高さになるように設置してください。

※ブラケット取付け穴にブラケットのツメを落とし込んでブラケットが外れないことを確認してください。

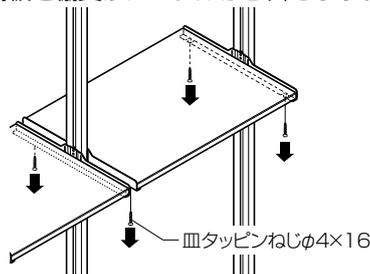
フレーム収納 棚板位置変更方法(W1200をのぞく)

※W1200はL字アングルで壁固定されているため位置変更はおすすめしません。

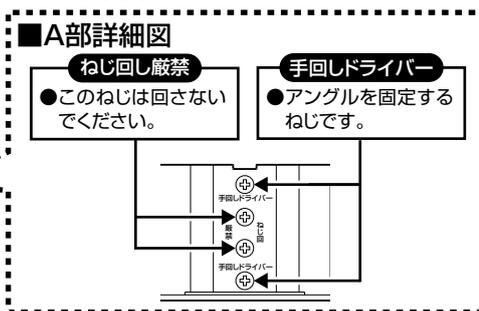
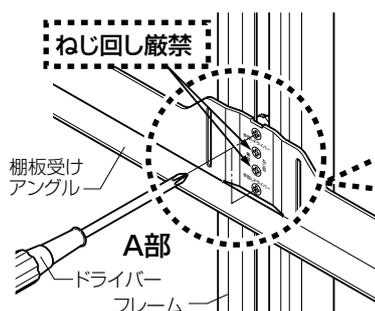
①すき間隠しカバーを取外します。



②棚板を棚受けアングルから外します。

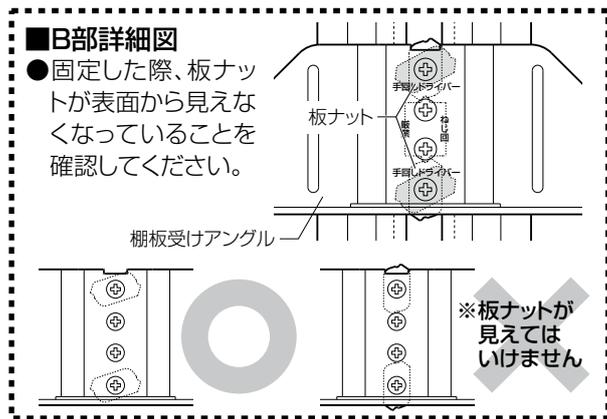
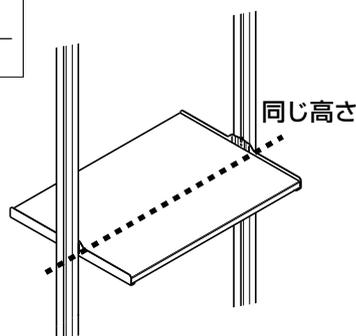
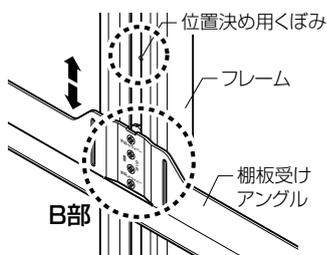
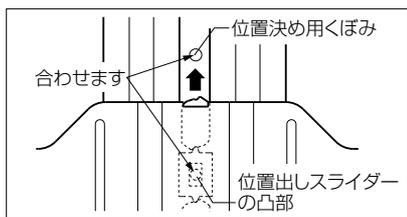


③棚受けアングルを固定しているねじをゆるめます。



●お願い
 ※必ず手回しドライバーでゆるめてください。ねじ回し厳禁のねじは、さわらないでください。
 ※アングルを固定しているねじはゆるめすぎないでください。ゆるめすぎると板ナットがフレームの中に落下します。

④棚板受けアングルを上下にスライドさせ、位置出しスライダーの凸部をフレームの位置決め用のくぼみに合わせ、固定ねじで固定します。
 ※左右同じ高さになっていることを確認してください。



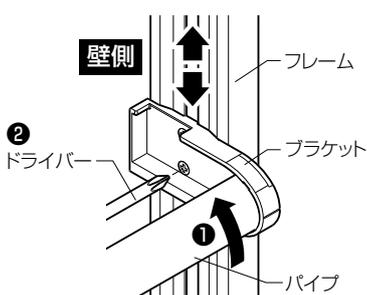
※ドライバーにて固定後、棚板受けアングルに下方向の荷重をかけ、しっかり固定されていることを確認してください。

⑤棚受けアングルが固定されていることを確認したら、②で外した棚板を②で外したねじで固定しなおし、①のすき間隠しカバーを取付けます。

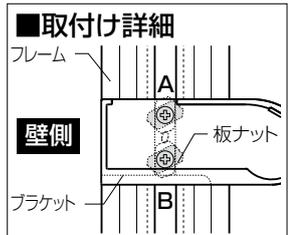
フレーム収納 ハンガーパイプ・小物掛けパイプ位置変更方法

※イラストはハンガーパイプですが、小物掛けパイプも手順は同じです。

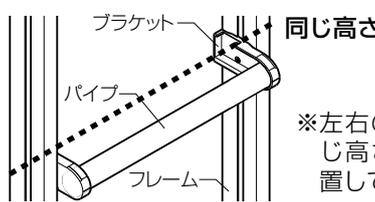
①ブラケットからパイプを外します。
 ②取付けねじをゆるめ、ブラケットを移動します。



③ブラケットを固定し、パイプをブラケットに差し込みます。

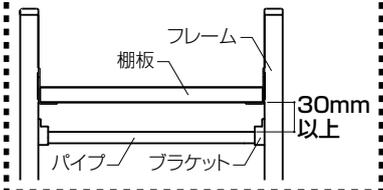


※A・Bの板ナットが、回転してフレームにかかっていることを確認してください。
 ※固定後、ブラケットに下方向の荷重をかけ、しっかり固定されていることを確認してください。



※左右のブラケットが同じ高さになるように設置してください。

●お願い
 ※パイプは棚板より30mm以上あけてください。パイプが取付けられなくなります。



アフターメンテナンスについて

修理を依頼される前に

点検および修理を依頼される前に、取扱説明書の「**■調整方法について**」をご確認ください。

保証について

保証期間中は、保証の規程にしたがって修理をさせていただきます。

保証期間中でも有料になる場合がありますので「**■商品保証について**」の内容をよくご確認ください。

保証期間を過ぎている場合は、ご希望により有料で修理をさせていただきます。修理用部品の保有期間が過ぎている場合は、修理ができないこともあります。

修理を依頼されるときは

点検および修理を依頼される前に、各商品の「**取扱い説明書**」をもう一度ご確認の上、それでも故障が直らない場合やご不明な点がある場合は、商品をお求めの施工店、工務店、販売店又はLIXIL修理受付センターにご連絡ください。その際、下記のことをご連絡ください。

①ご住所・お名前・電話番号

②商品名・品番

③ご購入日又はご入居日

※分譲住宅（建売）、分譲マンションは建設業者から売主への引渡し日となります。

④故障又は異常の内容

⑤訪問ご希望日

個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

点検および修理の依頼先

- ・お求めの取扱い店
- ・製品に表示している連絡先
- ・LIXIL修理受付センター ☎ 0120-413-433

点検および修理料金のしくみ

修理料金は技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料は、点検および故障箇所の修理および部品交換・調整などの作業にかかる費用です。

部品代は、修理に使用した部品代です。

出張料は、修理士を派遣する場合の費用です。なお修理により交換した部品・製品は、特段のお申し出がない場合は当社にて引き取らせていただきます。

修理用部品の保有期間

この商品の修理用部品（機能を維持するために必要な部品・代替品含む）の最低保有期間は、製造終了後10年です。

※機器類など専用の取扱い説明書があるものは除きます。添付の取扱い説明書をご確認ください。

キッチン、洗面化粧台、室内建具などの扉・引出しなどの面材については、販売終了後2年としております。2年経過後は、新シリーズの面材を供給させていただきます。ただし2年に満たない場合でも、面材の供給が難しい場合は、新シリーズの類似面材を供給させていただくこともありますのでご了承ください。

交換用部品について

お客様ご自身でお取替えいただける部品については、ホームページよりご注文いただけます。

リクシルパーツショップ <http://partsshop.lixil.co.jp/shop/>

掲載のない部品につきましては、お求めの取扱い店又は当社お客さま相談センター ☎ 0120-126-001にご連絡ください。

商品保証について

本書は、ここに記載の保証期間、保証内容の範囲において無料修理を行うことをお約束するものです。保証期間中、商品に故障・損傷などの不具合（以下「不具合」といいます）が発生した場合には、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客さま相談センターにご相談ください。

■対象商品…………… リビング建材商品

■保証期間…………… 施工者よりの引渡し日(注1・注2)から2年間(電装部品については1年間)
注1)改修工事の場合、改修部分の工事完了の日とします。
注2)分譲住宅(建売住宅)の場合、建築主さまへの引渡し日とします。

■保証内容…………… 取扱い説明書、本体ラベル又はその他の注意書きに基づく適正なご使用状態で、保証期間内に商品そのものに不具合が発生した場合には、下記に例示する免責事項に該当する場合を除き無料修理いたします。

■免責事項…………… 保証期間内でも、次のような場合には有料修理となります。

- ①当社の手配によらない加工、組立て、施工、管理、メンテナンスなどの不備に起因する不具合(例えば、工事中の養生不良による変色や腐食など)
- ②表示された商品の性能をこえた性能を必要とする場所に取付けられた場合の不具合
- ③建築躯体の変形など商品以外の不具合に起因する商品の不具合
- ④商品又は部品の経年変化(使用に伴う消耗、摩耗など。木製品のソリ、干割れ、変色など)や経年劣化(樹脂部品の変質、変色など)又はこれらに伴うサビ、カビなどその他類似の不具合
- ⑤自然現象や住環境に起因する結露などの不具合
- ⑥環境が特に悪い地域又は場所での腐食および不具合(例えば、海岸地帯での塩害による腐食、浴室内などの湿潤な部位、部分的、又は全般的に野外に晒された場所。部屋内外の温度差が極端に違う部位に取付けられたもの、極端に乾湿を繰り返す部位に取付けられたもの。異常な高温・低温・多湿による不具合)
- ⑦天災その他の不可抗力(例えば、暴風、豪雨、洪水、高潮、地震、地盤沈下、落雷、火災など)により、商品の性能をこえる事態が発生した場合の不具合
- ⑧施工当時実用化されていた技術、知識では予測することが不可能な現象又はこれが原因で生じた不具合
- ⑨犬、猫、鳥、鼠などの小動物の害による不具合やキクイムシなどによる虫害
- ⑩引き渡し後の使用上の操作誤り、調整不備又は適切な維持管理を行わなかったことによる不具合
- ⑪お客さま自身の組立て、取付け、修理、改造(必要部品の取外しを含む)に起因する不具合
- ⑫本来の使用(一般住宅用)の目的以外の用途に使用された場合の不具合
又は使用目的と異なる使用方法による場合の不具合
- ⑬犯罪などの不法な行為に起因する破損や不具合

※保証期間経過後の修理、交換などは有料とさせていただきます。

※本書によって、お客さまの法律上の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お取扱いの施工店、工務店、販売店又は当社お客さま相談センターにお問合わせください。

株式会社 LIXIL

※商品のお問い合わせ・ご相談のため、メモしておくとう便利です。

■販売店名

TEL ()

■工務店名

TEL ()

株式会社 LIXIL

商品についてのお問い合わせ・部品のご購入は、お客さま相談センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00 土・日・祝日 9:00～17:00(ゴールデンウィーク、夏期休暇、年末年始等を除く)

TEL. ☎0120-126-001 FAX.03-3638-8447

- 旭トステム外装株式会社のサイディング材に関する商品相談は
旭トステム外装(株)サービスデスクナビダイヤル TEL.0570-001-117
-

修理のご依頼は、LIXIL修理受付センターまで
受付時間/月～金 9:00～18:00(祝日、年末年始、夏期休暇等を除く)

TEL. ☎0120-413-433 FAX.☎0120-413-436

<http://www.lixil.co.jp/support/>

安全に関するご注意

ご使用前に「取扱説明書」をよくご覧の上、正しくお使いください。また、取付設置工事は「取付設置説明書・施工説明書」に従ってください。いずれの場合も、取り扱いを誤ると事故や故障の原因となります。

個人情報保護について

当社は、当社取扱商品のユーザーさま及び流通業者さま等の個人情報を商品納入にあたって取得し、将来にわたる品質保証、メンテナンス、その他当社プライバシーポリシーに記載の目的のために利用させていただきます。個人情報の取り扱いについての詳細は、当社オフィシャルサイトの「プライバシーポリシー」をご覧ください。

- 商品改良のため、予告なしに仕様の変更を行うことがありますのでご了承ください。

株式会社 LIXIL

会社や商品についての情報のご確認は、LIXIL公式サイトまで

<http://www.lixil.co.jp/>

※ショールームの所在地、カタログの閲覧・請求、図面・CADデータなどの各種情報は、上記公式サイトから
ご確認ください。

取説番号	MAN-351C	事業所コード	CPZ1	2014.4.1 発行
------	----------	--------	------	-------------

